



昭和小学校給食棟耐震補強工事 特記仕様書		2023.07	項目	特記事項	項目	特記事項																																						
<b>I 工事概要</b> 1. 工事場所 高知市日ノ出町7番61号 2. 工事種目 【給食棟】 鉄骨造 平家建て 延べ面積210㎡ 1) 耐震改修 ①鉛直ブレース新設 4箇所 ②梁ハンチ補強 8箇所 ③梁継手補強 8箇所 ④小梁新設 8箇所 ⑤梁ぎ梁新設 4箇所 ⑥耐震改修に伴う解体撤去 一式 2) 外壁改修 一式 3) ガラス改修 一式 4) その他 一式 3. 関連工事等 ○電気設備工事 ○機械設備工事 ・ガス設備工事 ・昇降機設備工事 ・植栽工事 ・合併処理装置設置工事 ・外構工事 4. 概成工期 ・完成期限の( )日(令和 年 月 日) 5. 部分使用(工事請負契約書第34条第1項) 令和7年1月4日からは、全ての室内部分を使用する。			⑩ 工事安全計画書 ⑪ 統括安全衛生管理義務者の指名 ⑫ 発生材の処理		19 施工数量調査 調査範囲 ※ 図示 ・ 改修建築物の外壁、軒天、パラペット [1.6.2] 調査方法 ※ 外部足場を使用した目視及び打診 破壊部分の補修方法 ※ 現状に復旧 外壁調査は、外壁改修フローに対する外壁面のひび割れ、浮き、欠損部、内部まで貫通したひび割れ及び雨漏りの有無についての位置及び数量(幅、長さ、面積)の調査を行う。 また、その調査の結果を立面図等に記載し集計表を添えて電子データと共に、監督職員に報告する。(必要に応じて写真等を添付する) ※適用する(○:一級, ●:二級) [1.7.2][1.7.3] <table border="1"> <tr> <th>工事種別</th> <th>技能検定の作業の種別</th> </tr> <tr> <td>○仮設工事</td> <td>※●とび作業(又は足場組立作業主任者)</td> </tr> <tr> <td>・鉄筋工事</td> <td>※○鉄筋組立作業</td> </tr> <tr> <td>・コンクリート工事</td> <td>・○コンクリート圧送工事作業 ・○型枠工事作業</td> </tr> <tr> <td>・鉄骨工事</td> <td>※●とび作業</td> </tr> <tr> <td>・ブロック・ALCパネル工事</td> <td>・○コンクリートブロック工事作業 ・(単一)エーエルシーパネル工事作業</td> </tr> <tr> <td>・防水工事</td> <td>・○アスファルト防水工事作業 ・○ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・○アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・○合成ゴムシート防水工事作業 ・○塩化ビニルシート防水工事作業 ・○セメント系防水工事作業 ・○シーリング防水工事作業 ・○改良アスファルトシート工法防水工事作業 ・○FRP防水工事作業</td> </tr> <tr> <td>・石工事</td> <td>※○石張り作業</td> </tr> <tr> <td>・タイル工事</td> <td>※○タイル張り作業</td> </tr> <tr> <td>・木工事</td> <td>※○大工工事作業</td> </tr> <tr> <td>○屋根及びとい工事</td> <td>・○かわらぶき ・●スレート工事作業 ○○内外装板金作業</td> </tr> <tr> <td>○金属工事</td> <td>○●鋼製下地工事作業 ・(単一)金属製バルコニー工事作業</td> </tr> <tr> <td>○左官工事</td> <td>※○左官作業</td> </tr> <tr> <td>○建具工事</td> <td>○●ビル用サッシ施工作業 ・○木製建具製作 ○○ガラス工事作業</td> </tr> <tr> <td>・カーテンウォール工事</td> <td>※○金属製カーテンウォール工事作業</td> </tr> <tr> <td>○塗装工事</td> <td>※○建築塗装作業</td> </tr> <tr> <td>・内装工事</td> <td>・○プラスチック系床仕上げ工事作業 ・○壁装作業 ・●カーペット系床仕上げ工事作業 ・○壁製作作業 ・○ボード仕上げ工事作業</td> </tr> <tr> <td>・植栽工事</td> <td>※○造園工事作業</td> </tr> <tr> <td>・その他</td> <td>・○樹脂接着剤注入工事作業(エポキシ樹脂注入工事) 又は(単一)樹脂接着剤注入工事作業(エポキシ樹脂注入工事) ・○家具手加工作業</td> </tr> </table>		工事種別	技能検定の作業の種別	○仮設工事	※●とび作業(又は足場組立作業主任者)	・鉄筋工事	※○鉄筋組立作業	・コンクリート工事	・○コンクリート圧送工事作業 ・○型枠工事作業	・鉄骨工事	※●とび作業	・ブロック・ALCパネル工事	・○コンクリートブロック工事作業 ・(単一)エーエルシーパネル工事作業	・防水工事	・○アスファルト防水工事作業 ・○ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・○アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・○合成ゴムシート防水工事作業 ・○塩化ビニルシート防水工事作業 ・○セメント系防水工事作業 ・○シーリング防水工事作業 ・○改良アスファルトシート工法防水工事作業 ・○FRP防水工事作業	・石工事	※○石張り作業	・タイル工事	※○タイル張り作業	・木工事	※○大工工事作業	○屋根及びとい工事	・○かわらぶき ・●スレート工事作業 ○○内外装板金作業	○金属工事	○●鋼製下地工事作業 ・(単一)金属製バルコニー工事作業	○左官工事	※○左官作業	○建具工事	○●ビル用サッシ施工作業 ・○木製建具製作 ○○ガラス工事作業	・カーテンウォール工事	※○金属製カーテンウォール工事作業	○塗装工事	※○建築塗装作業	・内装工事	・○プラスチック系床仕上げ工事作業 ・○壁装作業 ・●カーペット系床仕上げ工事作業 ・○壁製作作業 ・○ボード仕上げ工事作業	・植栽工事	※○造園工事作業	・その他	・○樹脂接着剤注入工事作業(エポキシ樹脂注入工事) 又は(単一)樹脂接着剤注入工事作業(エポキシ樹脂注入工事) ・○家具手加工作業
工事種別	技能検定の作業の種別																																											
○仮設工事	※●とび作業(又は足場組立作業主任者)																																											
・鉄筋工事	※○鉄筋組立作業																																											
・コンクリート工事	・○コンクリート圧送工事作業 ・○型枠工事作業																																											
・鉄骨工事	※●とび作業																																											
・ブロック・ALCパネル工事	・○コンクリートブロック工事作業 ・(単一)エーエルシーパネル工事作業																																											
・防水工事	・○アスファルト防水工事作業 ・○ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・○アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・○合成ゴムシート防水工事作業 ・○塩化ビニルシート防水工事作業 ・○セメント系防水工事作業 ・○シーリング防水工事作業 ・○改良アスファルトシート工法防水工事作業 ・○FRP防水工事作業																																											
・石工事	※○石張り作業																																											
・タイル工事	※○タイル張り作業																																											
・木工事	※○大工工事作業																																											
○屋根及びとい工事	・○かわらぶき ・●スレート工事作業 ○○内外装板金作業																																											
○金属工事	○●鋼製下地工事作業 ・(単一)金属製バルコニー工事作業																																											
○左官工事	※○左官作業																																											
○建具工事	○●ビル用サッシ施工作業 ・○木製建具製作 ○○ガラス工事作業																																											
・カーテンウォール工事	※○金属製カーテンウォール工事作業																																											
○塗装工事	※○建築塗装作業																																											
・内装工事	・○プラスチック系床仕上げ工事作業 ・○壁装作業 ・●カーペット系床仕上げ工事作業 ・○壁製作作業 ・○ボード仕上げ工事作業																																											
・植栽工事	※○造園工事作業																																											
・その他	・○樹脂接着剤注入工事作業(エポキシ樹脂注入工事) 又は(単一)樹脂接着剤注入工事作業(エポキシ樹脂注入工事) ・○家具手加工作業																																											
<b>II 建築工事仕様</b> 1. 特記仕様 1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と◎印の付いた場合は、共に適用する。 3) 特記事項に記載の( )内表示番号は、「公共建築工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。 特記事項に記載の[ ]内表示番号は、「公共建築改修工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。 特記事項に記載の< >内表示番号は、「建築物解体工事共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。 2. 適用基準等 図面及び特記事項に記載されていない事項は、全て国土交通省(建設)大臣官房官庁営繕部監修の以下による。 ○公共建築工事標準仕様書(建築工事編) (令和4年版) ◎公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) (令和4年版) ●建築工事標準詳細図 (令和4年版) ○敷地調査共通仕様書 (令和4年版) ◎建築物解体工事共通仕様書 (令和4年版) 3. 「週休2日制モデル工事」の実施について ○対象 (●発注者指定型 ○受注者希望型) 本工事は、工事着手日から工事完成日までの間の土曜日及び日曜日を現場の休日の基本とする「週休2日制モデル工事」の対象工事である。実施にあたっては高知市「週休2日制モデル工事」執行要領(営繕工事編)による。 (https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/123/syukuhutsuka.html) ・対象外(理由: )			⑬ 再生資源利用(促進)計画書及び実施書の提出 (請負金額100万円以上)		20 技能士及び技能資格者 21 化学物質の室内濃度の測定																																							
項目 特記事項 ① 工事実績情報サービス(CORINS)への登録(請負金額500万円以上)(受注、変更、完成時) 登録の手続きについては、(一財)日本建設情報総合センターの「建設実績情報のコリンズ」[1.1.4] テクリス登録等に関する規約」による。 ② 総合工程表 原則、工事の着手に先立ち、別契約関連工事の受注者と協議し、受注者及び別契約関連工事の受注者連名による総合工程表を監督職員に提出する。 ③ 総合図 工事の施工に先立ち別契約関連工事の受注者と調整のうえ、総合図を作成し、監督職員の承諾を受ける。 [1.2.3] ④ 工事日誌 週ごとに工事の全般的な経過及び次週の工事予定を記載した日誌を監督職員に提出する。 [1.2.4] ⑤ 工事写真 工事写真は1版程度とし、工事の内容、日付等必要事項を記入し1部提出する。(A4版台紙) [1.2.4] 撮影方法は、「営繕工事写真撮影要領(令和5年版)」による。 デジタル工事写真の小黒板情報電子化の実施をする場合は、監督職員の承諾を受ける。 なお、実施については、国営建技第14号(令和5年3月1日付)「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について」による。 ⑥ 下請負者の報告 各下請負者については下請負契約前に監督職員に報告する。 7 電気保安技術者 適用する。 [1.3.3] ⑧ 施工条件 施工日及び施工時間 ※1.3.5(1)(7)による。 [1.3.5] ・ 施工順序 ・ 図示 工事用車両の駐車場所及び資機材の置場所 ※ 仮囲内 ・ 図示 その他の施工条件 ○資機材の搬入時には、専任の誘導員を配置する。その他の場合でも、工事関係車両(乗用車も含む)が敷地内を通行する際には必ず誘導員のものをつけ、公道まで係行する。 ○登下校時間帯や休み時間等は車両の通行を中止する等必要な配慮をする。 ○現場着手は、令和6年9月1日からとする。 ⑨ 交通誘導警備員 交通誘導警備員を配置する場合は、原則として警備業法(昭和47年法律第117号)第4条による認定を受けた警備業者の警備員を配置することとし、建設作業員等の他職種の者を従事させないこととする。ただし、一時的な作業等で、安全確保に支障なくと監督職員が認めたものについては、この限りでないものとする。 配置人員等 ・ 令和 年 月 日から令和 年 月 日までの間は 名常駐する。 ・ 作業日は 名常駐する。その他監督職員と協議し、適宜配置する。 ○監督職員と協議し、適宜配置する。			⑭ 工事の保険 ⑮ 契約保証 ⑯ 前払金支出割合区分補正 ⑰ 証明書の提出(グリーン購入法) ⑱ 石綿含有建材の調査		22 直接仮設の養生 23 建築材料等 24 特別な材料の工法 25 風圧力 26 仕上面の出隅処理																																							
高知市 都市建設部 公共建築課			工事名 昭和小学校給食棟耐震補強工事 係 係長 課長補佐 課長 図面番号 図面名 改修特記仕様書(1) 2023/07 縮尺 1/ 作図 年 月 日 A-01																																									

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項
27 事業損失補償	※現場説明書による。	4 監督職員事務所	・設ける ( ) ※設けない [2.4.1]	4 改質アスファルトシート防水	絶縁工法のルーフィングの材料 [3.3.2] ・部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート 種類及び厚さ ※表3.3.3及び表3.3.4による ・砂付あなきルーフィング 押え金物の材質及び形状 ※図示 ・アルミニウム製、L-30×15×2.0(mm)程度 [3.3.2]
28 完成時の提出図書	・完成図(作成範囲・配置図・平面図・立面図・断面図・仕上表) [1.9.1][1.9.2] ・完成図(CADデータの提出 ※する(CD-R等)・しない) [1.9.3] ・保全に関する資料(提出部数 ※2部 部) [1.9.3] 上記のほか、使用材料のメーカー名、品番、色(マンセル値等)をCADデータ等で監督職員に提出する。 また、工種別下請負者の一覧表を提出する。 ○施工図、施工計画書 [1.9.2] 提出した施工図及び施工計画書の著作に係る当該建物に限る使用権は、発注者に譲渡するものとする。	5 監督職員の備品等	備品等の設置 [2.4.1] 備品の種類 机・椅子 書棚 黒板 PC 掛時計 数量 数量 数量 数量 数量 数量 備品の種類 温度計 ゴム長靴 雨がっぱ 保護帽 懐中電灯 数量 数量 数量 数量 数量 数量 備品の種類 衣類ロッカー 冷暖房機器 消火器 湯沸器 加入電話付風器 数量 数量 数量 数量 数量 数量 備品の種類 掃除具 数量 数量	5 合成高分子系ルーフィングシート防水	防水層の種類 [3.3.2][3.3.5][表3.3.3~表3.3.6] 工法 種別 施工箇所 断熱材の厚さ 絶縁用シート 立上り部の保護 ・P2A ・A-1 ※A-2 ※A-3 ※B-1 ※B-2 ・P1B ・B-1 ※B-2 ・P2AI ・AI-1 ※AI-2 ※AI-3 ・P1BI ・BI-1 ※BI-2
29 完成写真	下表のものを監督職員に提出する。 位置 分類・規格 撮影枚数 部数 原簿の大きさ(mm) ・各室 手札版(I版) ※2枚・枚 ※1部・部 100×125以上 ・外部 キャビネ版 ※4枚・枚 ※1部・部 24×36以上 ・外部 半切パネル(木製枠※アルミ枠) ※1枚・枚 ※1部・部 ・ スライド ※1部・部 カラー・電子データ化(CD-R等)し、すべて提出する。 撮影箇所は監督職員と協議する。 上表のほか、監督職員指示の箇所をデジタルカメラにて撮影し、CD-R等にて提出する。 画像形式等 フォーマット: JPEG 画質: 標準 画像サイズ: 1024×768ピクセル程度	6 工事用水・電力	構内既存の施設(用水) ○利用できる (※有償・無償) ※利用できない 構内既存の施設(電力) ・利用できる (※有償・無償) ※利用できない 構内既存の施設を利用できる場合で、無償の場合は、下記a)~c)による。 a) 既存設備の水栓等から直接水を使用する場合は、監督職員と協議する。 b) 既存のコンセントから直接電力を使用する場合は、監督職員と協議する。 c) 工事用電源を既存建築物から分岐する場合は、原則、既設分電盤の共用回路のコンセントからとする。なお、接続する回路の負荷状態を確認し、既設負荷への波及がないようにする。 また、漏電遮断器付コンセント等を使用し、安全の確保を図る。 構内既存の施設を利用できる場合で、有償の場合は、上記a)~c)に下記d)~e)を加える。 d) 工事用水は、既存設備に量水器を設けて、仮設配管を施し使用するものとする。 e) 工事用電力は、原則、既存設備に電力計を設けて、仮設配電盤を設置し、使用するものとする。 ※図示 ※原形の復旧 ・良土にて設計地盤まで盛土整地する。 範囲(図示) 厚さ( ) [2.5.1]	6 撤去部分	露出防水層表面の仕上げ塗除去 ・行う ・行わない [3.2.6] 改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※表3.4.1から表3.4.3による [3.4.2] 粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※表3.4.1から表3.4.3による [3.4.2] 押え金物の材質及び形状 ※図示 ・アルミニウム製、L-30×15×2.0(mm)程度 [3.4.2] 脱気装置の種類及び設置数量 ※製造所の指定とする [3.4.3]
30 別途設備工事との取合い	施工範囲 ・貫通孔、開口部の補強 ※下表 ・図示 ・壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ※下表 ・図示 ・駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ ・自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 補強種別 内容 梁 壁 スラブ 壁切込み及び補強 天井切込み及び補強 換気扇開口 350角 1箇所	7 仮囲い	※図示	7 養生	養生 [2.3.1] ○既存部分の養生 ※ビニルシート、合板等 ○既存家具、既存設備等の養生 ※ビニルシート等 ・既存ブラインド、カーテン等の養生、保管場所 ※図示 ・固定された備品等の移動 ※図示 ・開口部養生 窓等の破損の危険がある工事を行う場合は、施工を行う周辺及びその下部の窓等には、室内に破損物等が飛散しない様、堅固な養生を行う。
31 撤去部分	コンクリート、モルタル等の撤去部分の残目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする。	8 仮設物撤去後の整地・跡片付け	※図示	8 仮設間仕切り(屋内)	設置箇所 ※図示 [2.3.2][表2.3.1] 間仕切り種別 ・A種 ・B種 ※C種 A種、B種の場合 仕上げ材種 ※せつこうボード 厚さ9.5mm ・合板(普通合板) 厚さ9.0mm 塗装仕上げ等 ・行う ※行わない 仮設扉設置箇所 ※図示 仮設扉種別 ・合板張り木製扉程度 ・図示
32 不当要求等への対応	暴力団又は暴力団関係者からの不当要求又は工事妨害(以下この文において「不当介入」という。)の排除については次による。 a) 受注者は、暴力団又は暴力団関係者からの工事の施工に関して不当介入を受けたときは、その旨を直ちに監督職員に報告し、所轄の警察署に届出なければならない。 b) 受注者は、不当介入による被害を受けたときは、その旨を直ちに監督職員に報告し、所轄の警察署に届出なければならない。 c) 受注者は、監督職員及び所轄警察署と協力して、不当介入の排除処理を講じなければならない。 d) 受注者が、不当介入の報告を怠った場合は、「高知市競争入札指名停止措置要綱」に基づき、指名停止措置を行うものとする。	9 防水改修工事	1 降雨等に対する養生方法 ※3.1.3(5)による [3.1.3] 2 既存下地の処理 既存下地の補修箇所、範囲、数量等 ※図示 [3.2.6] 設備機器架台、配管受部、バラベットの、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部、防水層末端部等の納まり部の処理 ※図示(図示のない場合は監督職員と協議による) ・製造所の仕様による	9 養生	養生 [2.3.1] ○既存部分の養生 ※ビニルシート、合板等 ○既存家具、既存設備等の養生 ※ビニルシート等 ・既存ブラインド、カーテン等の養生、保管場所 ※図示 ・固定された備品等の移動 ※図示 ・開口部養生 窓等の破損の危険がある工事を行う場合は、施工を行う周辺及びその下部の窓等には、室内に破損物等が飛散しない様、堅固な養生を行う。
33 消防計画	工事の着手にあたり、火災等の災害の予防や、使用部分と工事中の部分の安全を確保するため、別契約の関連工事業者と協議の上、「工事中の消防計画書」を作成し、当該施設の防火管理者の承諾を得て届出を行う。	10 屋根保護防水	屋根保護防水 [3.3.2][3.3.5][表3.3.3~表3.3.6] 防水層の種類 工法 種別 施工箇所 断熱材の厚さ 絶縁用シート 立上り部の保護 ・P2A ・A-1 ※A-2 ※A-3 ※B-1 ※B-2 ※B-1エチレン/PA 厚さ0.15mm以上 ・P1B ・B-1 ※B-2 フラットクロス (70g/m2程度) ・P2AI ・AI-1 ※AI-2 ※AI-3 ※AI-3 ※フラットクロス (70g/m2程度) ・P1BI ・BI-1 ※BI-2	10 養生	養生 [2.3.1] ○既存部分の養生 ※ビニルシート、合板等 ○既存家具、既存設備等の養生 ※ビニルシート等 ・既存ブラインド、カーテン等の養生、保管場所 ※図示 ・固定された備品等の移動 ※図示 ・開口部養生 窓等の破損の危険がある工事を行う場合は、施工を行う周辺及びその下部の窓等には、室内に破損物等が飛散しない様、堅固な養生を行う。
34 工事特性等	受注者は、自ら立案した工事特性、創意工夫、社会性等のそれぞれの評価項目について、実施しようとする場合は、事前に計画内容を所定の様式で監督職員に提出する。 また、実施後、工事完成時までに所定の様式に実施状況の分かる図面や状況写真等を添付して監督職員に提出する。	11 屋根露出防水	屋根露出防水 [3.3.2][表3.3.7~表3.3.9] 防水層の種類 工法 種別 施工箇所 断熱材 仕上塗料 種類 使用量 備考 ・M4C ・C-1 ※C-2 ※C-3 ※C-4 ・M3D ・D-1 ・P0D ※D-2 ・P0DI ・DI-1 ・M3DI ※DI-2 ・M4DI JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 種類: ※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 厚さ: mm ・図示	11 養生	養生 [2.3.1] ○既存部分の養生 ※ビニルシート、合板等 ○既存家具、既存設備等の養生 ※ビニルシート等 ・既存ブラインド、カーテン等の養生、保管場所 ※図示 ・固定された備品等の移動 ※図示 ・開口部養生 窓等の破損の危険がある工事を行う場合は、施工を行う周辺及びその下部の窓等には、室内に破損物等が飛散しない様、堅固な養生を行う。
仮設工事(改修)	内部足場 ○きやつ、足場板等 [2.1.3][2.2.1][表2.2.1] ○高所作業にも対応できる作業床を全面に設ける 外部足場 ※本足場 外部足場の養生 ※図示 ・防護シート ○メッシュシート ・防音シート ・防音パネル 材料、撤去材の運搬方法 ・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ○E種 C種の場合 利用可能なエレベーター(※図示) D種の場合 利用可能な階段(※図示)	12 養生	養生 [2.3.1] ○既存部分の養生 ※ビニルシート、合板等 ○既存家具、既存設備等の養生 ※ビニルシート等 ・既存ブラインド、カーテン等の養生、保管場所 ※図示 ・固定された備品等の移動 ※図示 ・開口部養生 窓等の破損の危険がある工事を行う場合は、施工を行う周辺及びその下部の窓等には、室内に破損物等が飛散しない様、堅固な養生を行う。	12 養生	養生 [2.3.1] ○既存部分の養生 ※ビニルシート、合板等 ○既存家具、既存設備等の養生 ※ビニルシート等 ・既存ブラインド、カーテン等の養生、保管場所 ※図示 ・固定された備品等の移動 ※図示 ・開口部養生 窓等の破損の危険がある工事を行う場合は、施工を行う周辺及びその下部の窓等には、室内に破損物等が飛散しない様、堅固な養生を行う。

高知市 都市建設部 公共建築課

工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	係長	課長補佐	課長	図面番号
図面名	改修特記仕様書(2)	縮尺	1/	作図	年 月 日

A-02

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																																																																				
6 塗膜防水	防水層の種類 [3.6.3][表3.6.1~表3.6.3] <table border="1"> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>仕上塗料種類</th> <th>使用量</th> <th>高日射反射率塗料の適用</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・POX ・L4X</td> <td>・X-1 ・X-1H ・X-2 ・X-2H</td> <td></td> <td>※2成分形アクリル樹脂系 ・アクリル樹脂系 ・ふっ素樹脂系 ・アクリル樹脂系</td> <td>※製造所の仕様による</td> <td></td> <td>改修用ドレン ・設ける ・設けない</td> </tr> <tr> <td>・P1Y ・P2Y</td> <td>※Y-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>保護層 ・設ける ・設けない</td> </tr> </table> <p>絶縁工法における脱気装置の種類及び設置数量 ※主材料の製造所の仕様による [3.6.3]  ウレタン防水材 ※化学物質MOCAを含有しないもの</p>	工法	種別	施工箇所	仕上塗料種類	使用量	高日射反射率塗料の適用	備考	・POX ・L4X	・X-1 ・X-1H ・X-2 ・X-2H		※2成分形アクリル樹脂系 ・アクリル樹脂系 ・ふっ素樹脂系 ・アクリル樹脂系	※製造所の仕様による		改修用ドレン ・設ける ・設けない	・P1Y ・P2Y	※Y-2					保護層 ・設ける ・設けない	エポキシ樹脂モルタル [4.2.4] JIS A 6024による。 <table border="1"> <tr> <th>だれ</th> <th>接着強さ(MPa)</th> <th>圧縮強さ(MPa)</th> <th>曲げ強さ(MPa)</th> </tr> <tr> <td>形状に異常がなく、だれが生じないこと</td> <td>1.0以上</td> <td>20.0以上</td> <td>10.0以上 (3日後の値)</td> </tr> </table> <p>1)こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること。  2)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。  3)「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。  4)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目の規定に適合していること。</p>	だれ	接着強さ(MPa)	圧縮強さ(MPa)	曲げ強さ(MPa)	形状に異常がなく、だれが生じないこと	1.0以上	20.0以上	10.0以上 (3日後の値)	3 浮き部改修工法	[4.3.11~16] <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類</th> <th colspan="3">アンカーの本数</th> <th colspan="3">注入口の箇所数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>一般部分指定部分本/m<sup>2</sup></th> <th>狭幅部本/m<sup>2</sup></th> <th>一般部分指定部分狭幅部箇所/m<sup>2</sup></th> <th>一般部分指定部分箇所/m<sup>2</sup></th> <th>狭幅部箇所/m<sup>2</sup></th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>※5</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※5 注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※5 注入量 ※50mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5 注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5 注入量 ※50mL</td> </tr> </table> <p>アンカーピン  ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの。 [4.3.5]  注入口付アンカーピン  ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径6mm [4.3.5]  ・充填工法 ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル [4.2.6][4.3.7]  ・モルタル塗替え工法  仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の処置  ※ステンレス製アンカーピン縦横φ200打込、ステンレス製ラス等張り ・図示 [4.3.10]</p>	改修工法の種類	アンカーの本数			注入口の箇所数			備考	一般部分指定部分本/m <sup>2</sup>	狭幅部本/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分箇所/m <sup>2</sup>	狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	備考	・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	※5	—	—	注入量 ※25mL	・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※25mL	・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※50mL	・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	—	—	注入量 ※25mL	・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※25mL	・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※50mL
工法	種別	施工箇所	仕上塗料種類	使用量	高日射反射率塗料の適用	備考																																																																																			
・POX ・L4X	・X-1 ・X-1H ・X-2 ・X-2H		※2成分形アクリル樹脂系 ・アクリル樹脂系 ・ふっ素樹脂系 ・アクリル樹脂系	※製造所の仕様による		改修用ドレン ・設ける ・設けない																																																																																			
・P1Y ・P2Y	※Y-2					保護層 ・設ける ・設けない																																																																																			
だれ	接着強さ(MPa)	圧縮強さ(MPa)	曲げ強さ(MPa)																																																																																						
形状に異常がなく、だれが生じないこと	1.0以上	20.0以上	10.0以上 (3日後の値)																																																																																						
改修工法の種類	アンカーの本数			注入口の箇所数			備考																																																																																		
	一般部分指定部分本/m <sup>2</sup>	狭幅部本/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分箇所/m <sup>2</sup>	狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	備考																																																																																			
・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	※5	—	—	注入量 ※25mL																																																																																			
・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※25mL																																																																																			
・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※50mL																																																																																			
・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	—	—	注入量 ※25mL																																																																																			
・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※25mL																																																																																			
・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※50mL																																																																																			
7 FRP防水	ガラスマット ・1層タイプ ・2層タイプ 表面の仕上げ ・平滑 ・粗面 押え金物の材質 ※アルミニウム 押え金物の寸法 ※図示	エポキシ樹脂モルタル [4.2.4] <table border="1"> <tr> <th>だれ</th> <th>曲げ強さ(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>圧縮強さ(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>接着強さ(N/mm<sup>2</sup>)</th> </tr> <tr> <td>下がり量5mm以内</td> <td>ひびわれの発生がないこと</td> <td>6.0以上</td> <td>20.0以上</td> </tr> </table> <p>1)透水性 裏面のぬれ、水滴の付着がないこと。  2)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。  3)ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルションは、常温常湿において製造後6ヶ月間保存しても変質しないこと。</p>	だれ	曲げ強さ(N/mm <sup>2</sup> )	圧縮強さ(N/mm <sup>2</sup> )	接着強さ(N/mm <sup>2</sup> )	下がり量5mm以内	ひびわれの発生がないこと	6.0以上	20.0以上	ポリマーセメントモルタル [4.2.4] <table border="1"> <tr> <th>だれ</th> <th>曲げ強さ(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>圧縮強さ(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>接着強さ(N/mm<sup>2</sup>)</th> </tr> <tr> <td>下がり量5mm以内</td> <td>ひびわれの発生がないこと</td> <td>6.0以上</td> <td>20.0以上</td> </tr> </table> <p>1)透水性 裏面のぬれ、水滴の付着がないこと。  2)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。  3)ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルションは、常温常湿において製造後6ヶ月間保存しても変質しないこと。</p>	だれ	曲げ強さ(N/mm <sup>2</sup> )	圧縮強さ(N/mm <sup>2</sup> )	接着強さ(N/mm <sup>2</sup> )	下がり量5mm以内	ひびわれの発生がないこと	6.0以上	20.0以上	外壁改修工事 タイル張り仕上げ	1 タイル材料 [4.4.5] <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">形状寸法(mm)</th> <th colspan="3">吸水率の区分</th> <th rowspan="2">色</th> <th rowspan="2">耐凍害性</th> <th rowspan="2">耐滑り性</th> <th rowspan="2">役物の適用</th> <th rowspan="2">品質(公表単価(円/m<sup>2</sup>))</th> </tr> <tr> <th>I類</th> <th>II類</th> <th>III類</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>標準的な曲がりの役物は一体成形とする。  タイルの試験張り ※行わない ・行う [4.4.8]  タイルの見本焼き ※行わない ・行う [4.4.8]</p>	施工箇所	形状寸法(mm)	吸水率の区分			色	耐凍害性	耐滑り性	役物の適用	品質(公表単価(円/m <sup>2</sup> ))	I類	II類	III類																																																							
だれ	曲げ強さ(N/mm <sup>2</sup> )	圧縮強さ(N/mm <sup>2</sup> )	接着強さ(N/mm <sup>2</sup> )																																																																																						
下がり量5mm以内	ひびわれの発生がないこと	6.0以上	20.0以上																																																																																						
だれ	曲げ強さ(N/mm <sup>2</sup> )	圧縮強さ(N/mm <sup>2</sup> )	接着強さ(N/mm <sup>2</sup> )																																																																																						
下がり量5mm以内	ひびわれの発生がないこと	6.0以上	20.0以上																																																																																						
施工箇所	形状寸法(mm)	吸水率の区分			色	耐凍害性	耐滑り性	役物の適用	品質(公表単価(円/m <sup>2</sup> ))																																																																																
		I類	II類	III類																																																																																					
8 シーリング	シーリング改修工法の種類 [3.1.4][3.7.4~3.7.7][表3.1.2] ①シーリング充填工法 ・シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法 ・ボンドブレーカー張り ・エッジング材張り ・適用する ・適用する [3.7.7]	ポリマーセメントモルタル [4.2.4] <table border="1"> <tr> <th>だれ</th> <th>曲げ強さ(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>圧縮強さ(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>接着強さ(N/mm<sup>2</sup>)</th> </tr> <tr> <td>下がり量5mm以内</td> <td>ひびわれの発生がないこと</td> <td>6.0以上</td> <td>20.0以上</td> </tr> </table> <p>1)透水性 裏面のぬれ、水滴の付着がないこと。  2)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。  3)ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルションは、常温常湿において製造後6ヶ月間保存しても変質しないこと。</p>	だれ	曲げ強さ(N/mm <sup>2</sup> )	圧縮強さ(N/mm <sup>2</sup> )	接着強さ(N/mm <sup>2</sup> )	下がり量5mm以内	ひびわれの発生がないこと	6.0以上	20.0以上	ポリマーセメントモルタル [4.2.4] <table border="1"> <tr> <th>だれ</th> <th>曲げ強さ(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>圧縮強さ(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>接着強さ(N/mm<sup>2</sup>)</th> </tr> <tr> <td>下がり量5mm以内</td> <td>ひびわれの発生がないこと</td> <td>6.0以上</td> <td>20.0以上</td> </tr> </table> <p>1)透水性 裏面のぬれ、水滴の付着がないこと。  2)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。  3)ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルションは、常温常湿において製造後6ヶ月間保存しても変質しないこと。</p>	だれ	曲げ強さ(N/mm <sup>2</sup> )	圧縮強さ(N/mm <sup>2</sup> )	接着強さ(N/mm <sup>2</sup> )	下がり量5mm以内	ひびわれの発生がないこと	6.0以上	20.0以上	2 ひび割れ部改修工法	2 ひび割れ部改修工法 [4.2.5][4.4.2][4.4.6] <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">ひび割れ幅(mm)</th> <th rowspan="2">注入口間隔(mm)</th> <th colspan="2">注入量(mL/m)</th> </tr> <tr> <th>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</th> <th>※製造所の仕様</th> </tr> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200~300</td> <td>※130</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>50~100</td> <td>※40</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>100~200</td> <td>※70</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0以下</td> <td>150~250</td> <td>※130</td> <td>※130</td> </tr> </table> <p>コバ抜き検査 ※行わない  ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による)</p>	種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)		※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	※製造所の仕様	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	※130	※130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40	※70	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70	※130		0.5以上1.0以下	150~250	※130	※130																																									
だれ	曲げ強さ(N/mm <sup>2</sup> )	圧縮強さ(N/mm <sup>2</sup> )	接着強さ(N/mm <sup>2</sup> )																																																																																						
下がり量5mm以内	ひびわれの発生がないこと	6.0以上	20.0以上																																																																																						
だれ	曲げ強さ(N/mm <sup>2</sup> )	圧縮強さ(N/mm <sup>2</sup> )	接着強さ(N/mm <sup>2</sup> )																																																																																						
下がり量5mm以内	ひびわれの発生がないこと	6.0以上	20.0以上																																																																																						
種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																						
			※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	※製造所の仕様																																																																																					
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	※130	※130																																																																																					
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40	※70																																																																																					
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70	※130																																																																																					
	0.5以上1.0以下	150~250	※130	※130																																																																																					
9 とい	シーリング材の種類、施工箇所 [3.1.4][3.7.2][表3.7.1] ※下表による(下表以外は表3.7.1による) <table border="1"> <tr> <th>種類(記号)</th> <th>主成分による区分</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・SR-1 ・SR-2</td> <td>シリコーン系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・MS-2</td> <td>変成シリコーン系</td> <td>外部新設建具廻り</td> </tr> <tr> <td>・PS-2</td> <td>ポリサルファイド系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・PU-2</td> <td>ポリウレタン系</td> <td></td> </tr> </table> <p>仕上げを行わない箇所 ( ) [表3.7.1]</p> <p>シーリング材の目地寸法 [3.7.3]  <table border="1"> <tr> <th>箇所</th> <th>打継ぎ/ひび割れ誘発目地</th> <th>ガラス回りの目地</th> <th>左記以外の目地</th> </tr> <tr> <td>幅(mm)</td> <td>※20以上</td> <td>※幅及び深さ5以上[5.13]</td> <td>※10以上</td> </tr> <tr> <td>深さ(mm)</td> <td>※10以上</td> <td>※3)による場合を除く</td> <td>※10以上</td> </tr> </table> <p>接着性試験 [3.7.8]  ※簡易接着性試験 ・引張接着性試験</p> </p>	種類(記号)	主成分による区分	施工箇所	・SR-1 ・SR-2	シリコーン系		・MS-2	変成シリコーン系	外部新設建具廻り	・PS-2	ポリサルファイド系		・PU-2	ポリウレタン系		箇所	打継ぎ/ひび割れ誘発目地	ガラス回りの目地	左記以外の目地	幅(mm)	※20以上	※幅及び深さ5以上[5.13]	※10以上	深さ(mm)	※10以上	※3)による場合を除く	※10以上	外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ	1 ひび割れ部改修工法 [4.2.5] <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">ひび割れ幅(mm)</th> <th rowspan="2">注入口間隔(mm)</th> <th colspan="2">注入量(mL/m)</th> </tr> <tr> <th>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</th> <th>※製造所の仕様</th> </tr> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0以下</td> <td>※200~300</td> <td>※130</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>50~100</td> <td>※40</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>100~200</td> <td>※70</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0以下</td> <td>150~250</td> <td>※130</td> <td>※130</td> </tr> </table> <p>コバ抜き検査 ※行わない  ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による)</p>	種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)		※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	※製造所の仕様	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※200~300	※130	※130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40	※70	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70	※130		0.5以上1.0以下	150~250	※130	※130																																
種類(記号)	主成分による区分	施工箇所																																																																																							
・SR-1 ・SR-2	シリコーン系																																																																																								
・MS-2	変成シリコーン系	外部新設建具廻り																																																																																							
・PS-2	ポリサルファイド系																																																																																								
・PU-2	ポリウレタン系																																																																																								
箇所	打継ぎ/ひび割れ誘発目地	ガラス回りの目地	左記以外の目地																																																																																						
幅(mm)	※20以上	※幅及び深さ5以上[5.13]	※10以上																																																																																						
深さ(mm)	※10以上	※3)による場合を除く	※10以上																																																																																						
種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																						
			※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	※製造所の仕様																																																																																					
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※200~300	※130	※130																																																																																					
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40	※70																																																																																					
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70	※130																																																																																					
	0.5以上1.0以下	150~250	※130	※130																																																																																					
10 アルミニウム製笠木	材料 [3.8.2][表3.8.1] <table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>寸法</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</td> <td></td> <td>※たてどい</td> </tr> <tr> <td>・硬質ポリ塩化ビニル管カラー(カラーVP)</td> <td>100φ、60φ</td> <td>※たてどい</td> </tr> <tr> <td>・硬質塩化ビニル雨どい(カラー塩化ビニル)</td> <td>前高120</td> <td>※軒どい ・たてどい</td> </tr> </table> <p>とい受金物及び足金物の材質、形状及び取付け間隔 [3.8.2]  材質: ※ステンレス製 ・溶融亜鉛めっき その他: ※表3.8.2による  防露材のホルムアルデヒド放出量 ※F☆☆☆☆ [3.8.2]  既存のといその他の撤去 ※図示  降雨等に対する養生方法 ※監督職員と協議による ・図示 [3.8.3]  鋼管製といの防露巻き ※表3.8.4による  たてどい受金物の取付け ※図示  ルーフドレンの取付け ・水はけがよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する。</p>	材種	寸法	施工箇所	・硬質ポリ塩化ビニル管(VP)		※たてどい	・硬質ポリ塩化ビニル管カラー(カラーVP)	100φ、60φ	※たてどい	・硬質塩化ビニル雨どい(カラー塩化ビニル)	前高120	※軒どい ・たてどい	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ	1 ひび割れ部改修工法 [4.2.5(1)~(5)][4.3.6] <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">ひび割れ幅(mm)</th> <th rowspan="2">注入口間隔(mm)</th> <th colspan="2">注入量(mL/m)</th> </tr> <tr> <th>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</th> <th>※製造所の仕様</th> </tr> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0以下</td> <td>※200~300</td> <td>※130</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>50~100</td> <td>※40</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>100~200</td> <td>※70</td> <td>※130</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0以下</td> <td>150~250</td> <td>※130</td> <td>※130</td> </tr> </table> <p>コバ抜き検査 ※行わない  ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による)</p>	種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)		※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	※製造所の仕様	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※200~300	※130	※130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40	※70	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70	※130		0.5以上1.0以下	150~250	※130	※130																																															
材種	寸法	施工箇所																																																																																							
・硬質ポリ塩化ビニル管(VP)		※たてどい																																																																																							
・硬質ポリ塩化ビニル管カラー(カラーVP)	100φ、60φ	※たてどい																																																																																							
・硬質塩化ビニル雨どい(カラー塩化ビニル)	前高120	※軒どい ・たてどい																																																																																							
種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																						
			※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	※製造所の仕様																																																																																					
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※200~300	※130	※130																																																																																					
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	50~100	※40	※70																																																																																					
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	100~200	※70	※130																																																																																					
	0.5以上1.0以下	150~250	※130	※130																																																																																					
11 保証書(シーリング除く)	受注者、施工者、材料製造所連名による10年保証(完成届提出日より15日後から)	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ	2 欠損部改修工法 [4.2.6][4.3.7] ・ウカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] ・シーリング材 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂	4 浮き部改修工法 [4.3.11~16][4.4.9~4.4.15] <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)</th> <th colspan="3">アンカーの本数</th> <th colspan="3">注入口の箇所数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>一般部分指定部分本/m<sup>2</sup></th> <th>狭幅部本/m<sup>2</sup></th> <th>一般部分指定部分狭幅部箇所/m<sup>2</sup></th> <th>一般部分指定部分箇所/m<sup>2</sup></th> <th>狭幅部箇所/m<sup>2</sup></th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>※5</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※5 注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※5 注入量 ※50mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5 注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5 注入量 ※50mL</td> </tr> </table> <p>アンカーピン  ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの。 [4.3.5]  注入口付アンカーピン  ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径6mm [4.3.5]  ・タイル部分張替え工法 [4.4.7]  張付け材料の種類  ・ポリマーセメントモルタル  ・有機系接着剤 ※JIS A 5557による一液反応硬化形成シリコーン樹脂系  ・タイル張替え工法 [4.4.8]  張付け材料の種類  ・現場調査モルタル ・既調査モルタル  伸縮調整目地及び、ひび割れ誘発目地の位置 ※表4.4.2による ・図示  外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗料塗りの接着性試験  ・行う ・行わない</p>	改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)	アンカーの本数			注入口の箇所数			備考	一般部分指定部分本/m <sup>2</sup>	狭幅部本/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分箇所/m <sup>2</sup>	狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	備考	・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	※5	—	—	注入量 ※25mL	・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※25mL	・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※50mL	・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	—	—	注入量 ※25mL	・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※25mL	・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※50mL																													
改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)	アンカーの本数			注入口の箇所数			備考																																																																																		
	一般部分指定部分本/m <sup>2</sup>	狭幅部本/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分箇所/m <sup>2</sup>	狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	備考																																																																																			
・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	※5	—	—	注入量 ※25mL																																																																																			
・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※25mL																																																																																			
・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※50mL																																																																																			
・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	—	—	注入量 ※25mL																																																																																			
・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※25mL																																																																																			
・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※50mL																																																																																			
12 高日射反射率塗料塗り	JIS K 5675(屋根用高日射反射率塗料)に適合するもの、または、グリーン購入法の高日射反射率防水に適合する保護塗料とする。	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ	2 欠損部改修工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ・モルタル塗替え工法 [4.3.10] 仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※ステンレス製アンカーピン縦横φ200打込、ステンレス製ラス等張り ・図示	4 浮き部改修工法 [4.3.11~16][4.4.9~4.4.15] <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)</th> <th colspan="3">アンカーの本数</th> <th colspan="3">注入口の箇所数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>一般部分指定部分本/m<sup>2</sup></th> <th>狭幅部本/m<sup>2</sup></th> <th>一般部分指定部分狭幅部箇所/m<sup>2</sup></th> <th>一般部分指定部分箇所/m<sup>2</sup></th> <th>狭幅部箇所/m<sup>2</sup></th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>※5</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※5 注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※5 注入量 ※50mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5 注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5 注入量 ※50mL</td> </tr> </table> <p>アンカーピン  ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの。 [4.3.5]  注入口付アンカーピン  ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径6mm [4.3.5]  ・タイル部分張替え工法 [4.4.7]  張付け材料の種類  ・ポリマーセメントモルタル  ・有機系接着剤 ※JIS A 5557による一液反応硬化形成シリコーン樹脂系  ・タイル張替え工法 [4.4.8]  張付け材料の種類  ・現場調査モルタル ・既調査モルタル  伸縮調整目地及び、ひび割れ誘発目地の位置 ※表4.4.2による ・図示  外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗料塗りの接着性試験  ・行う ・行わない</p>	改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)	アンカーの本数			注入口の箇所数			備考	一般部分指定部分本/m <sup>2</sup>	狭幅部本/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分箇所/m <sup>2</sup>	狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	備考	・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	※5	—	—	注入量 ※25mL	・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※25mL	・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※50mL	・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	—	—	注入量 ※25mL	・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※25mL	・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※50mL																													
改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)	アンカーの本数			注入口の箇所数			備考																																																																																		
	一般部分指定部分本/m <sup>2</sup>	狭幅部本/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分箇所/m <sup>2</sup>	狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	備考																																																																																			
・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	※5	—	—	注入量 ※25mL																																																																																			
・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※25mL																																																																																			
・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※50mL																																																																																			
・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	—	—	注入量 ※25mL																																																																																			
・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※25mL																																																																																			
・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※50mL																																																																																			
外壁改修工事(共通事項)	可とう性エポキシ樹脂 [4.2.4] JIS A 6024による。 <table border="1"> <tr> <th>比重</th> <th>押出し性(秒)</th> <th>スランプ(Mm)</th> <th>質量変化率(%)</th> <th>引張り強さ(MPa)</th> <th>破断時伸び(%)</th> <th>引張り接着性</th> </tr> <tr> <td>表示値±0.10</td> <td>60以下</td> <td>3.0以下</td> <td>5.0以下</td> <td>標準 1.0以上 低温 1.0以上 加熱劣化1.0以上</td> <td>標準 30.0以上 低温 30.0以上 加熱劣化30.0以上</td> <td>最大引張強さ 1.0MPa以上 破断時の伸び 10.0%以上</td> </tr> </table> <p>1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。  2)対象とする被着体を侵さず、かつ周囲を汚損しないこと。  3)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目に適合していること。</p>	比重	押出し性(秒)	スランプ(Mm)	質量変化率(%)	引張り強さ(MPa)	破断時伸び(%)	引張り接着性	表示値±0.10	60以下	3.0以下	5.0以下	標準 1.0以上 低温 1.0以上 加熱劣化1.0以上	標準 30.0以上 低温 30.0以上 加熱劣化30.0以上	最大引張強さ 1.0MPa以上 破断時の伸び 10.0%以上	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ	2 欠損部改修工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル ・モルタル塗替え工法 [4.3.10] 仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の処置 ※ステンレス製アンカーピン縦横φ200打込、ステンレス製ラス等張り ・図示	4 浮き部改修工法 [4.3.11~16][4.4.9~4.4.15] <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)</th> <th colspan="3">アンカーの本数</th> <th colspan="3">注入口の箇所数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>一般部分指定部分本/m<sup>2</sup></th> <th>狭幅部本/m<sup>2</sup></th> <th>一般部分指定部分狭幅部箇所/m<sup>2</sup></th> <th>一般部分指定部分箇所/m<sup>2</sup></th> <th>狭幅部箇所/m<sup>2</sup></th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>※5</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※5 注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※5 注入量 ※50mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5 注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5 注入量 ※50mL</td> </tr> </table> <p>アンカーピン  ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの。 [4.3.5]  注入口付アンカーピン  ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径6mm [4.3.5]  ・タイル部分張替え工法 [4.4.7]  張付け材料の種類  ・ポリマーセメントモルタル  ・有機系接着剤 ※JIS A 5557による一液反応硬化形成シリコーン樹脂系  ・タイル張替え工法 [4.4.8]  張付け材料の種類  ・現場調査モルタル ・既調査モルタル  伸縮調整目地及び、ひび割れ誘発目地の位置 ※表4.4.2による ・図示  外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗料塗りの接着性試験  ・行う ・行わない</p>	改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)	アンカーの本数			注入口の箇所数			備考	一般部分指定部分本/m <sup>2</sup>	狭幅部本/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分箇所/m <sup>2</sup>	狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	備考	・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	※5	—	—	注入量 ※25mL	・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※25mL	・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※50mL	・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	—	—	注入量 ※25mL	・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※25mL	・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※50mL															
比重	押出し性(秒)	スランプ(Mm)	質量変化率(%)	引張り強さ(MPa)	破断時伸び(%)	引張り接着性																																																																																			
表示値±0.10	60以下	3.0以下	5.0以下	標準 1.0以上 低温 1.0以上 加熱劣化1.0以上	標準 30.0以上 低温 30.0以上 加熱劣化30.0以上	最大引張強さ 1.0MPa以上 破断時の伸び 10.0%以上																																																																																			
改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合)	アンカーの本数			注入口の箇所数			備考																																																																																		
	一般部分指定部分本/m <sup>2</sup>	狭幅部本/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	一般部分指定部分箇所/m <sup>2</sup>	狭幅部箇所/m <sup>2</sup>	備考																																																																																			
・アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	※5	—	—	注入量 ※25mL																																																																																			
・アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※25mL																																																																																			
・アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※13	※20	※5	※12	※20	※5 注入量 ※50mL																																																																																			
・注入口付アンカーピンニング 部分エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	—	—	注入量 ※25mL																																																																																			
・注入口付アンカーピンニング 全面エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※25mL																																																																																			
・注入口付アンカーピンニング 全面ポリマーセメント注入工法	※9	※16	※5	※9	※16	※5 注入量 ※50mL																																																																																			

高知市 都市建設部 公共建築課

昭和小学校給食棟耐震補強工事

工事名	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
昭和小学校給食棟耐震補強工事	田部	島田	松本	高村	A-03
図面名	改修特記仕様書(3)	縮尺	1/	作図	年月日

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項
5 目地改修工事	・セメントモルタルによるタイル張り タイル張りの工法 外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り ・有機接着剤によるタイル張り ・下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ※目荒し工法 ・目地ひび割れ部改修工法 [4.4.16] ・伸縮調整目地改修工法 [4.4.16] 伸縮調整目地の位置及び寸法 ※図示	6 樹脂製建具	・防音ドア、防音サッシの遮音性の等級 ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 [5.2.2] 適用箇所 ※図示 ・断熱ドア、断熱サッシの断熱性の等級 ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 適用箇所 ※図示 ステンレス鋼板の種類 ※SUS304, SUS430J1L又はSUS443J1 [5.2.3][5.6.3(1)] 網戸等 [5.2.3]	11 建具用金物	・ふすま 種別 ※I型 ・II型 [5.7.2][表5.7.10] 上張りの種類 ※鳥の子 ・新鳥の子 ※ビニル紙 ・雲花紙(押入等の裏側) ・ 見込み寸法(mm) ※図示(図示がない場合は表5.7.7による) [5.7.3][表5.7.7] 縁の仕上げ ※塗り縁 ・生地縁(素地) ・生地縁(ウレタンクリヤー塗装) [5.7.4] ・戸ぶすまの見込み寸法(mm) ※図示(図示がない場合は表5.7.7による) [5.7.3][表5.7.7] 品質等 ※5.7.2(2)(i)(a)～(c)による 上張りの種類 ※鳥の子 ・新鳥の子 ※ビニル紙 ・雲花紙(押入等の裏側) ・ ・紙張り障子の見込み寸法(mm) ※図示(図示がない場合は表5.7.7による) [5.7.3][表5.7.7] 枠、くつずりの材料 ※図示 接着剤の材料 ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ [5.7.2]
外壁改修工事 仕上げ塗材仕上げ	既存塗膜の劣化部の除去及び下地の処理の工法 [4.5.4]	7 鋼製建具	外部に面する建具 表面処理の種類別 ※BB-1種 ・BB-2種 [5.2.4][表5.2.2] 色合い等 ※標準色( ) ・特注色( ) 屋内に使用する建具 表面処理の種類別 ※BC-1種 ・BC-2種 [5.2.4][5.4.4] 色合い等 ※標準色( ) ・特注色( ) ステンレス製くつずりの仕上げ ※HL [5.2.4][5.4.4] 結露水の処理方法 ※製造所の仕様による ・図示 水切り板、ぜん板 ※製造所の仕様による ・図示 製造所 評価名簿による [5.3.2～5.3.5][表5.3.1]	12 鍵	種類及び見掛け部分の材質 ※表 5.8.1による [5.8.2] 金属製建具用の丁番の枚数及び大きさ ※表 5.8.2による [5.8.2] 樹脂製建具用の丁番の枚数及び大きさ ※表 5.8.3による [5.8.2] 木製建具用の丁番の枚数及び大きさ ※表 5.8.4による [5.8.2] 木製建具の戸車及びレール ※表 5.8.5による [5.8.2] 撥り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置 ※図示 [5.8.3]
① 既存塗膜等の除去及び 下地処理	既存塗膜の劣化部の除去及び下地の処理の工法 [4.5.4]	8 鋼製軽量建具	種類別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み 備考 ※A種 S-4 W-4 ※図示 ※B種 S-5 A-4 W-5 ※図示 ※C種 S-6 W-5 ※図示 ・防音ドア、防音サッシの遮音性の等級 ・T-1 ・T-2 [5.3.2][表5.3.2] 適用箇所 ※図示 ・断熱ドア、断熱サッシの断熱性の等級 ・H-4 ・H-5 ・H-6 [5.3.2][表5.3.3] 適用箇所 ※図示 外部に面する建具の日射熱取得特性の等級 ・N-1 ・N-2 ・N-3 [5.3.2] 網戸等 [5.2.3]	13 自動ドア開閉装置	戸の開閉方式 ・図示 ・片引き ・引分け ・片開き [5.9.2] 引き戸用駆動装置 [5.9.2] 性能値 ※表5.9.1による パリアフリートイレ出入口に設置される引き戸用駆動装置 性能値 ※表5.9.2による 引き戸用検出装置の種類 パリアフリートイレスイッチ ・大形(開・閉)押しボタンスイッチ ・非接触スイッチ [5.9.2][表5.9.3]
② 下地調整材	材料 ※下地調整塗材 ※C-1( ) ・C-2( ) ・CM-2( ) [4.5.2～4.5.4] ・ポリマーセメントモルタル ・合成樹脂エマルジョンシーラー 工法 ※製造所の仕様による [4.5.4]	9 ステンレス製建具	種類別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み 備考 ※A種 S-4 W-4 ※図示 ※B種 S-5 A-4 W-5 ※図示 ※C種 S-6 W-5 ※図示 ガラス ・複層ガラス ・単板ガラス ※図示 [5.3.3] ステンレス製くつずりの仕上げ ※HL [5.3.4][5.4.4] 表面色 ※標準色( ) ・特注色( ) [5.3.4] 水切り板、ぜん板 ※製造所の仕様による ・図示 [5.2.5][5.3.2] 製造所 評価名簿による	14 自閉式上吊り引戸装置	性能 ※表5.9.3による 種類 ・光線(反射)センサー ・熱線センサー ・音波センサー [5.9.2][表5.9.4] ・光電センサー ・電波センサー ・押しボタンスイッチ ・タッチスイッチ (無線式タッチスイッチ ・光電式タッチスイッチ) 防錆 ・適用する(塩害のある場合) ※適用しない 凍結防止措置 ・行う 製造所 評価名簿による
③ 仕上げ塗材仕上げ	薄付け仕上げ塗材 [4.1.5][4.5.2][4.5.6][表4.5.1]	10 木製建具	簡易気密型ドアセット ・適用する [5.4.2][表5.4.1] 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6 [5.4.2][表5.2.1] 枠の見込み(※図示) ・防音ドア、防音サッシの遮音性の等級 ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 [5.2.2][5.4.2] 適用箇所 ※図示 ・断熱ドア、断熱サッシの断熱性の等級 ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 適用箇所 ※図示 ・耐震ドアの面内変形追従性の等級 ・D-1 ・D-2 ・D-3 適用箇所 ※図示 点検口の類のくつずりの材料 ・枠と同材 ・ステンレス [5.4.3] ステンレス鋼板の種類 ※SUS304, SUS430J1L又はSUS443J1 [5.4.3][5.6.3(1)] 鋼板の厚さ ※図示(図示がない場合は表5.4.2による) [5.4.4] ステンレス製くつずりの仕上げ ※HL [5.4.4] 標準型鋼製建具の有効内法寸法(表5.4.5による) [5.4.6] ・適用する(建具符号、形式及び寸法は建具表による) 製造所 評価名簿による	15 重量シャッター	シャッターの種類 ・管理用シャッター 耐風圧強度(N/m2) [5.11.2] ・外壁用防火シャッター 耐風圧強度(N/m2) ・屋内用防火シャッター ・防塵シャッター 開閉方式の種類 ※電動式(手動併用) ・手動式 [5.11.2][表5.11.1] 急降下制動装置、急降下停止装置の設置箇所 ※図示 障害物感知装置の設置箇所 ※図示 危害防止機構の設置箇所 ※図示 管理用シャッターのシャッターケース ・設ける [5.11.2] スラット及びシャッターケース用鋼板 [5.11.3] 鋼板の種類 ・JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※Z12又はF12を満足するもの ステンレス鋼板の種類 ※SUS304, SUS430J1L又はSUS443J1 [5.6.3][5.11.3] 製造所 評価名簿による
4 マスチック塗材塗り	種別 ・A種 ・B種 [4.6.2][表4.6.1]	16 軽量シャッター	簡易気密型ドアセット ・適用する [5.6.3] 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6 [5.6.3] 枠の見込み(※図示) ・防音ドア、防音サッシの遮音性の等級 ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 [5.2.2][5.4.2] 適用箇所 ※図示 ・断熱ドア、断熱サッシの断熱性の等級 ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5 適用箇所 ※図示 ・耐震ドアの面内変形追従性の等級 ・D-1 ・D-2 ・D-3 適用箇所 ※図示 鋼板の種類 ※亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 [5.5.3] ステンレス鋼板の種類 ※SUS304, SUS430J1L又はSUS443J1 召合わせ、縦口包み板等の材質 ※鋼板 ・ステンレス鋼板 ・アルミニウム合金押出型材 鋼板の厚さ ※図示(図示がない場合は表5.5.1による) [5.4.4][5.5.4] ステンレス製くつずりの仕上げ ※HL [5.4.4][5.5.4] 標準型鋼製建具の有効内法寸法(表5.4.5による) [5.5.6] ・適用する(建具符号、形式及び寸法は建具表による) 製造所 評価名簿による	17 オーバーヘッドドア	開閉方式 ・電動式(手動併用) ※手動式 [5.12.2][表5.12.1] 耐風圧強度(N/m2) [5.12.2] 障害物感知装置の設置箇所 ※図示 [5.12.2] スラットの材質の種類 [5.12.3] ・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※Z06又はF06を満足するもの ・JIS G 3322(塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※AZ90を満足するもの スラットの種類 ・インターロック型 ・オーバーラッピング型 [5.12.4] 製造所 評価名簿による [5.13.2][5.13.3]
5 外壁用塗膜防水材塗り	仕上げの形状及び工法 [4.1.5][4.7.2～3][表4.7.1] 仕上塗材の耐水性 下地準動緩衝材 ・適用する ・適用しない 模様材の種類 仕上げを砂壁状、じゅらく状等とする場合の模様材の種類 仕上塗材の種類	18 ガラス	ステンレス鋼板の種類 ※SUS304, SUS430J1L又はSUS443J1 [5.6.3] 表面仕上げ ※HL ・鏡面仕上げ [5.6.4] 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ角出し曲げ(・a角 ・b角 ・c角) [5.6.5] ステンレス製くつずりの仕上げ ※HL [5.4.4][5.6.4] 製造所 評価名簿による	19 ガラス留め材	セクション材料による区分 開閉方式による区分 収納形式による区分 ガイドレールの材料 耐風圧性能区分 ※スチールタイプ ※スタンダード形 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・アルミニウムタイプ ・チェーン式 ・ローヘッド形 ・ステンレス鋼板 ・ファイバーグラスタイプ ・電動式 ・ハイリフト形 ・バーチカル形 ・パーチカル形 [5.14.2]
建具改修工事	※かぶせ工法 ○撤去工法 [5.1.3] 壁部分の開口の開け方 ※図示 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※図示	19 ガラス留め材	簡易気密型ドアセット ・適用する [5.6.3] 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6 [5.6.3] 枠の見込み(※図示) ・防音ドア、防音サッシの遮音性の等級 ・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4 [5.2.2][5.4.2] 適用箇所 ※図示 ・断熱ドア、断熱サッシの断熱性の等級 ・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 [5.3.2][表5.3.3] 適用箇所 ※図示 ・耐震ドアの面内変形追従性の等級 ・D-1 ・D-2 ・D-3 適用箇所 ※図示 ステンレス鋼板の種類 ※SUS304, SUS430J1L又はSUS443J1 [5.6.3] 表面仕上げ ※HL [5.6.4] 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ角出し曲げ(・a角 ・b角 ・c角) [5.6.5] ステンレス製くつずりの仕上げ ※HL [5.4.4][5.6.4] 製造所 評価名簿による	① 改修工法	種別 建具の種類 材 質 板ガラスをはめ込む溝の大きさ(mm) アルミニウム製 ※シーリング材 ※建具の製造所の仕様による ・ガスケット ・グレイジングチャンネル 樹脂製 ※シーリング材 ※建具の製造所の仕様による ・ガスケット ・グレイジングビード 鋼製及び鋼製軽量 ※シーリング材 ・ガスケット ※建具の製造所の仕様による ステンレス製 ※シーリング材 ・ガスケット ※建具の製造所の仕様による 木製 ※シーリング材 ・押縁留め シーリング材 ※SR-1 [表3.7.1]
② 改修工法	※かぶせ工法 ○撤去工法 [5.1.3] 壁部分の開口の開け方 ※図示 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※図示	19 ガラス留め材	建具材の加工、組立て時の含水率 ※A種 ・B種 [5.7.2][表5.7.1] ① フラッシュ戸 [5.7.2][表5.7.2] 表面材の合板の種類 ※図示 品質等 ※5.7.2(2)(i)(a)～(c)による 表面板の厚さ ※表5.7.6による ○図示 かまち戸 かまちの樹種 ( ) 鏡板の樹種 ( ) [5.7.2] 見込み寸法(mm) ※図示(図示がない場合は表5.7.7による) [5.7.3][表5.7.7]	2 防火戸	防火戸の指定等 ※図示 [5.1.4] 防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸について、連動させる装置等 ※図示
3 建具見本の製作等	建具見本の製作 ・行う(建具番号) ※行わない [5.1.5] ・工事に使用するものとして、あらかじめ製作するもの ・納まり等がわかる程度のもの 特殊な建具の仮組 ・行う(建具番号) ※行わない [5.1.5]	19 ガラス留め材	① フラッシュ戸 [5.7.2][表5.7.2] 表面材の合板の種類 ※図示 品質等 ※5.7.2(2)(i)(a)～(c)による 表面板の厚さ ※表5.7.6による ○図示 かまち戸 かまちの樹種 ( ) 鏡板の樹種 ( ) [5.7.2] 見込み寸法(mm) ※図示(図示がない場合は表5.7.7による) [5.7.3][表5.7.7]	3 建具見本の製作等	建具見本の製作 ・行う(建具番号) ※行わない [5.1.5] ・工事に使用するものとして、あらかじめ製作するもの ・納まり等がわかる程度のもの 特殊な建具の仮組 ・行う(建具番号) ※行わない [5.1.5]
4 防犯建物部品	・適用する 適用箇所: ※図示 [5.1.7]	19 ガラス留め材	① フラッシュ戸 [5.7.2][表5.7.2] 表面材の合板の種類 ※図示 品質等 ※5.7.2(2)(i)(a)～(c)による 表面板の厚さ ※表5.7.6による ○図示 かまち戸 かまちの樹種 ( ) 鏡板の樹種 ( ) [5.7.2] 見込み寸法(mm) ※図示(図示がない場合は表5.7.7による) [5.7.3][表5.7.7]	4 防犯建物部品	・適用する 適用箇所: ※図示 [5.1.7]
5 アルミニウム製建具	外部に面する建具の性能等 [5.2.2][表5.2.1]	19 ガラス留め材	① フラッシュ戸 [5.7.2][表5.7.2] 表面材の合板の種類 ※図示 品質等 ※5.7.2(2)(i)(a)～(c)による 表面板の厚さ ※表5.7.6による ○図示 かまち戸 かまちの樹種 ( ) 鏡板の樹種 ( ) [5.7.2] 見込み寸法(mm) ※図示(図示がない場合は表5.7.7による) [5.7.3][表5.7.7]	5 アルミニウム製建具	外部に面する建具の性能等 [5.2.2][表5.2.1] 種類別 耐風圧性 気密性 水密性 枠の見込み 備考 ・A種 S-4 A-3 W-4 ※図示 ※B種 S-5 A-3 W-4 ※図示 ・C種 S-6 A-4 W-5 ※図示

高知市 都市建設部 公共建築課

工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
図面名	改修特記仕様書(4)	2023/07	縮尺	1/	作図	年 月 日

A-04

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項				
20	ガラスブロック積み ガラスブロック材料 [5.14.5] 表面形状 呼び寸法 厚さ 色調 防火性能 ※なし・あり 壁用金属枠及び補強材 図示 ステンレス(SUS304) アルミニウム 力骨 [5.14.5] 材質 寸法 形状 ※ステンレス鋼(SUS304) ※径5.5mm ※はしご形状複筋及び単筋 化粧目地モルタルの色 [5.14.5] シーリング材の種類 ※SR-1 [5.14.5] 金属製化粧カバー 材質 ステンレス製 アルミニウム製 [5.14.5] 寸法 ※図示 [5.14.5] 形状 ※図示 [5.14.5] 工法 [5.14.5] ・建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※図示 目地幅の寸法 ※図示 伸縮調整目地の位置 ※図示	8	造作用単板積層材 ・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材 [6.5.2] 施工箇所 樹種 化粧薄板の厚さ(mm) 寸法(mm) 見付け材面の品質 含水率 化粧薄板: ※図示 ※15%以下 芯材: 化粧薄板: 芯材: ・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 [6.5.2] 施工箇所 品名 厚さ(mm) 表面の化粧加工 防虫処理 ・有(天然木化粧加工・塗装加工) ・行う ・無(等級:1等・2等・3等) ・行わない ・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材 [6.5.2] 施工箇所 厚さ(mm) 表面の化粧加工 防虫処理 含水率 ・有(天然木化粧加工・塗装加工) ・行う ※14%以下 ・無(等級:1等・2等・3等) ・行わない ・CLT(直交集成材) 施工箇所 品名 曲げ強度(強度等級) 種別 接着性能(使用環境) 樹種 寸法(mm) ※図示	19	軽量鉄骨天井下地 野縁等の種類 [6.6.2][表6.6.1] 屋内 (※19形・25形) 屋外 (19形 ※25形) 屋外の軒天井, ピロティ天井 野縁等の間隔 [6.6.3][表6.6.2] 野縁 野縁受 つりボルト及びインサート 周辺部の端からの距離 新規天井下地のつりボルト受け等のインサート及びあと施工アンカー [6.6.4] ※既存の埋込みインサートを使用する・新たにつりボルト用あと施工アンカーを設ける つりボルトの引張試験 試験箇所数及び確認強度は6.6.4(9)による 屋内 ※行う 屋外 ※行う ・耐風圧性を考慮した補強 補強方法: ※図示 [6.6.4] 適用箇所: ※図示 ・つりボルトの間隔が900mmを超える場合の補強 補強方法: ※図示 [6.6.4] 適用箇所: ※図示 ○天井下地材における耐震性を考慮した補強 適用箇所: ※すべて・図示 補強方法: ・国土交通省平成25年告示第771号の基準に適合するもの ※6.6.4(8)による。ただし, ふところ1.5m以下の場合も適用し, 固定方法は専用金具又はボルトとし, 溶接は不可とする。 ・天井のふところが3mを超える場合の補強 補強方法: ※図示 適用箇所: ※図示	20	軽量鉄骨壁下地 スタッド, ランナー等の種類 ※表6.7.1による 図示 [6.7.3][表6.7.1] スタッドの高さが5mを超える場合 ※図示 [6.7.3] 出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※14.5.4(5)による 図示 [6.7.4]	21	ビニル床シート張り (床仕上げ) 種類の記号 色柄 厚さ(mm) 特殊機能 施工箇所 備考 [6.8.2~6.8.3] ※FS ※無地 ※2.0 ・帯電防止 ・耐動荷重性 ・マフ柄 ・防滑性 ・耐薬品性 ※FS ※無地 ※2.0 ・帯電防止 ・耐動荷重性 ・マフ柄 ・防滑性 ・耐薬品性 接合部の処理 ※熱溶接工法 突付け(施工箇所) 帯電防止性能 ※帯電防止性能評価値(JIS A 1455)1.2以上~3.2未満又は 体積電気抵抗値(JIS A 1454) $1 \times 10^{17} \sim 10^{19} \Omega$ 程度 下地 ※図示
21	建築窓ガラス用フィルム 名称 種類, 記号 ※ガラス飛散防止フィルム ※G I-1, G D-1 G I-2, G D-2 品質 JIS A 5759による	9	直交集成材 下地用合板 [6.5.2] ・普通合板 施工箇所 品名 厚さ(mm) 単板の樹種名 接着の程度 板面の品質 防虫処理 難燃処理 防火処理 ※5.5 ※12.0 ・ラワン ※1類 広葉樹(※2等以上) ・ ・しな ・2類 針葉樹(※C-D以上) ・	21	ビニル床シート張り 種類の記号 色柄 厚さ(mm) 特殊機能 施工箇所 備考 [6.8.2~6.8.3] ※KT ※無地 ※300×300 ※2.0 ・帯電防止 ・防滑性 ・T T ・FT ・柄物 ・2.0 ・帯電防止 ・防滑性 ・FOA ・FOB ・帯電防止 ・防滑性 帯電防止性能 ※帯電防止性能評価値(JIS A 1455)1.2以上~3.2未満又は 体積電気抵抗値(JIS A 1454) $1 \times 10^{17} \sim 10^{19} \Omega$ 程度	22	ビニル床タイル張り 種類の記号 色柄 寸法 厚さ(mm) 特殊機能 施工箇所 [6.8.2~6.8.3] ※KT ※無地 ※300×300 ※2.0 ・帯電防止 ・防滑性 ・T T ・FT ・柄物 ・2.0 ・帯電防止 ・防滑性 ・FOA ・FOB ・帯電防止 ・防滑性 帯電防止性能 ※帯電防止性能評価値(JIS A 1455)1.2以上~3.2未満又は 体積電気抵抗値(JIS A 1454) $1 \times 10^{17} \sim 10^{19} \Omega$ 程度		
内装改修工事		10	合板等 構造用合板 [6.5.2] 施工箇所 品名 厚さ(mm) 単板の樹種名 接着の程度 板面の品質 防虫処理 強度等級 ※15.0 ※12.0 ○針葉樹 ※1類 ※2級以上 ※C-D以上 ・ ○特等 ・1級 ・	23	誘導用床材及び警告用床材 種類 寸法(mm) 厚さ(mm) 備考 [6.8.2] ・レジンコンクリート系 ※300×300 ※30 ※JIS T 9251適合品 ・タイル系 ・60 ・塩化ビニル系 ※300×300 ※図示	24	ビニル幅木 材種 厚さ(mm) 高さ(mm) 施工箇所 [6.8.2] ※軟質 ・硬質 ※1.5 ※60 ・75 ・100		
1	他の部位との取合い等 撤去壁と取合う天井, 壁及び床の改修範囲 ※図示 ・壁厚程度 [6.1.3] 天井内の撤去壁と取合う天井の改修範囲 ※図示 ・壁面から両側600程度 撤去天井と取合う壁の改修範囲 ※図示 ・既存のまま 各部仕上げは, 既存仕上げに準じたものとする	11	接合具等 造作材の化粧面の釘打ち [6.5.3] ・適用する(※隠し釘打ち) ・適用しない [6.5.3][表6.5.3~6.5.5] 諸金物の形状, 寸法及び材質 ・6.5.3(2)(7)による 接着剤 ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ [6.5.3]	25	ゴム床タイル張り 色柄 種類 厚さ(mm) 寸法(mm) 備考 [6.8.2] ・単層 ・複層 ・3.0 ・4.0 ・5.0 ・6.0 ・9.0	26	カーペット敷き ・織じゅうたん [6.9.2][表6.9.1] 織り方 パイル形状 帯電性 品質(公表単価(円/m <sup>2</sup> )) ・ウルトンカーペット ・カットパイル ・摘要する ・クォーターズカーペット ・ループパイル ・アキスカーペット ・カット, ループ併用 色柄, パイル糸の種類 ※模様のない無地のもの 種別(・A種 ・B種 ・C種) ・タフテッドカーペット [6.9.2] パイル形状 パイル長 工法 帯電性 品質(公表単価(円/m <sup>2</sup> )) ・カットパイル ・ループパイル ※全面接着工法 ・摘要する ・レベーループパイル ・グリッパー工法 ・カット, ループ併用 ・タイルカーペット [6.9.2] 種類 パイル形状 寸法(mm) 総厚さ(mm) 品質(公表単価(円/m <sup>2</sup> )) ※第一種 ・カットパイル ※ループパイル ※500×500 ※6.5 ・第二種 ・カットパイル, ループ併用 ・7.0 タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し [6.9.3] 階段部分 ※模様流し ・市松敷き		
2	既存床の撤去及び下地補修 ・ビニル床シート等の除去等 ※仕上げ材のみ(接着剤等共) [6.2.2] ・下地モルタル共(撤去範囲: ※図示 ・撤去範囲すべて) ・合成樹脂塗床材の除去等 ・機械的除去工法 目視し工法 改修後の床の清掃範囲 ※改修部分の端部から1.0m程度の範囲(工事で汚した範囲共)	12	木れんが 取付工法 ※接着工法 ・あと施工アンカー(径: ) 長さ: ) [6.5.4] 接着剤 ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ [6.5.4]	27	合成樹脂塗床 種別 施工箇所 工法 仕上げの種類 [6.10.3][表6.10.4~表6.10.8] ・厚膜型塗床材 ※図示 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・弾性ウレタン樹脂系塗床 ・つや消し仕上げ ・厚膜型塗床材 ※図示 ・薄膜流しのべ工法 ・平滑仕上げ エポキシ樹脂系塗床 ・厚膜流しのべ工法 ・防滑仕上げ ・薄膜型塗床 ※図示 ※平滑仕上げ				
3	既存壁の撤去及び下地補修 間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 ※図示 ・モルタル塗り([4.3.10]による) [6.3.2]	13	防腐・防蟻処理 ・薬剤の加圧注入による防腐及び防蟻処理 [6.5.5] 適用部材 保存処理性能区分 ・K 2 ・K 3 ・K 4 ・K 2 ・K 3 ・K 4 ・薬剤の塗布等による防腐及び防蟻処理 適用部材 処理の方法 薬剤の種類 ※ 薬剤製造所の仕様による	27	合成樹脂塗床 種別 施工箇所 工法 仕上げの種類 [6.10.3][表6.10.4~表6.10.8] ・厚膜型塗床材 ※図示 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・弾性ウレタン樹脂系塗床 ・つや消し仕上げ ・厚膜型塗床材 ※図示 ・薄膜流しのべ工法 ・平滑仕上げ エポキシ樹脂系塗床 ・厚膜流しのべ工法 ・防滑仕上げ ・薄膜型塗床 ※図示 ※平滑仕上げ				
4	ホルムアルデヒド放散量 ※6.5.2(9)のいずれかによる。 [6.5.2]	14	間仕切軸組に用いる木材 ※図示 [6.5.6]	27	合成樹脂塗床 種別 施工箇所 工法 仕上げの種類 [6.10.3][表6.10.4~表6.10.8] ・厚膜型塗床材 ※図示 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・弾性ウレタン樹脂系塗床 ・つや消し仕上げ ・厚膜型塗床材 ※図示 ・薄膜流しのべ工法 ・平滑仕上げ エポキシ樹脂系塗床 ・厚膜流しのべ工法 ・防滑仕上げ ・薄膜型塗床 ※図示 ※平滑仕上げ				
5	目視検査 日本農林規格以外の製材及び集成材について, 目視による材の欠点がないことの確認は, 樹種ごとに無作為に抽出し, その抽出割合は10%以上とする。	15	床組に用いる木材 ※図示 [6.5.6]	27	合成樹脂塗床 種別 施工箇所 工法 仕上げの種類 [6.10.3][表6.10.4~表6.10.8] ・厚膜型塗床材 ※図示 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・弾性ウレタン樹脂系塗床 ・つや消し仕上げ ・厚膜型塗床材 ※図示 ・薄膜流しのべ工法 ・平滑仕上げ エポキシ樹脂系塗床 ・厚膜流しのべ工法 ・防滑仕上げ ・薄膜型塗床 ※図示 ※平滑仕上げ				
6	製材 ○下地用針葉樹製材 [6.5.2] 施工箇所 ※図示 ○間柱, 脚縁, 根太 樹種 ○杉 ○松 寸法(mm) ※図示 等級 日本農林規格を使用する場合 : ・1級 ※2級 日本農林規格以外を使用する場合 : ※特一等 ・一等 含水率 ※15%以下 保存処理 ・行う ○行わない 防虫処理 ・行う ○行わない 難燃処理 ・行う ○行わない ○造作用針葉樹製材 施工箇所 ※図示 ○額縁 樹種 ・杉 ○松 寸法(mm) ※図示 等級 日本農林規格を使用する場合 見え掛り面: ※上小節 ・無節 日本農林規格以外を使用する場合 見え掛り面以外: 小節以上 見え掛り面: ※上小節 ・無節 ・特一等 見え掛り面以外: 小節以上 ・特一等 含水率 ※15%以下 保存処理 ・ 防虫処理 ・行う ○行わない 難燃処理 ・行う ○行わない ・広葉樹製材 施工箇所 ※図示 樹種 ・ 寸法(mm) ※図示 等級 日本農林規格を使用する場合 : ・特等 ※1等 ・2等 日本農林規格以外を使用する場合 : ※特一等 ・一等 含水率 ※10%以下 保存処理 ・ 防虫処理 ・行う ・行わない 難燃処理 ・行う ・行わない	16	窓, 出入口, その他に用いる木材 ※図示 [6.5.7]	27	合成樹脂塗床 種別 施工箇所 工法 仕上げの種類 [6.10.3][表6.10.4~表6.10.8] ・厚膜型塗床材 ※図示 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・弾性ウレタン樹脂系塗床 ・つや消し仕上げ ・厚膜型塗床材 ※図示 ・薄膜流しのべ工法 ・平滑仕上げ エポキシ樹脂系塗床 ・厚膜流しのべ工法 ・防滑仕上げ ・薄膜型塗床 ※図示 ※平滑仕上げ				
7	造作用集成材 ホルムアルデヒド放散量等 ※6.5.2(9)による [6.5.2] ・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 施工箇所 品名 樹種 寸法(mm) 見付け材面数 見付け材面の品質 ※図示 ※1等 ・2等 ・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材 施工箇所 品名 樹種 化粧薄板の厚さ(mm) 寸法(mm) 見付け材面数 見付け材面の品質 化粧薄板: ※図示 ※1等 ・2等 芯材: 化粧薄板: 芯材: ・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 見付け材面の品質 含水率 ※図示 ※15%以下	17	縁甲板及び上がりがまちに用いる木材 ※図示 [6.5.8]	27	合成樹脂塗床 種別 施工箇所 工法 仕上げの種類 [6.10.3][表6.10.4~表6.10.8] ・厚膜型塗床材 ※図示 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・弾性ウレタン樹脂系塗床 ・つや消し仕上げ ・厚膜型塗床材 ※図示 ・薄膜流しのべ工法 ・平滑仕上げ エポキシ樹脂系塗床 ・厚膜流しのべ工法 ・防滑仕上げ ・薄膜型塗床 ※図示 ※平滑仕上げ				
		18	壁及び天井に用いる木材 ※図示 [6.5.9]						

高知市 都市建設部 公共建築課

工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	係	保長	課長補佐	課長	図面番号
図面名	改修特記仕様書(5)	2023/07	縮尺	1/	作図	年 月 日

A-05



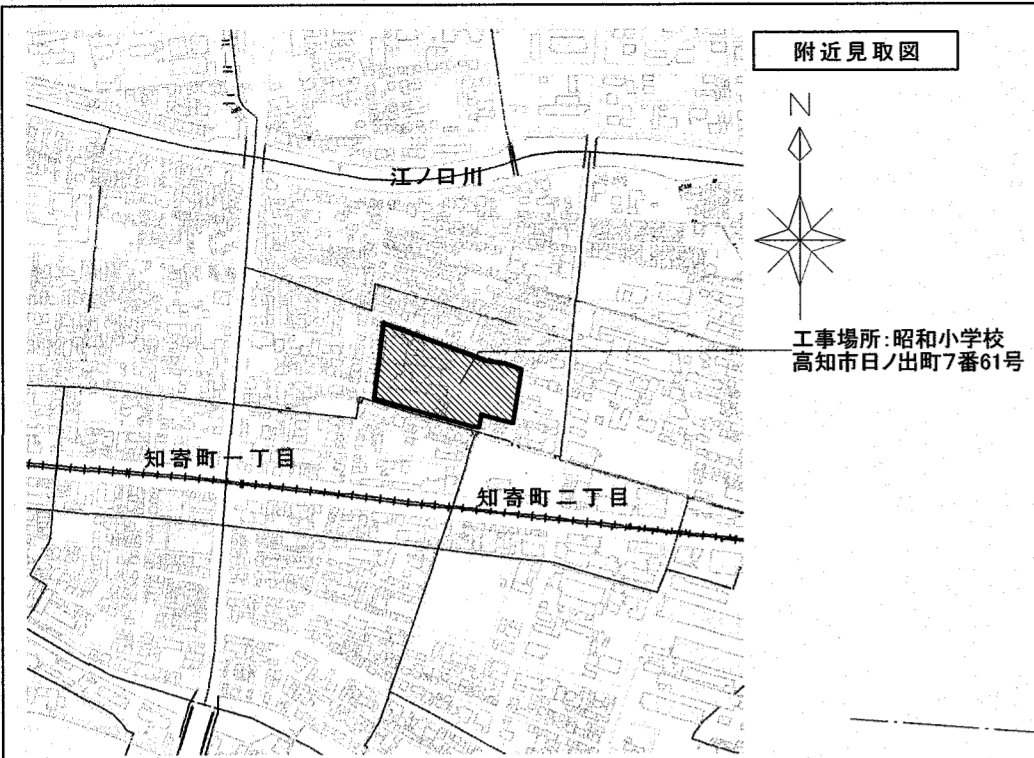
項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項
7 帯筋組立の形、継手及び定着	※ 図示 [8.3.4]	(鉄骨) 鉄骨製作工場	※ 「指定性能評価機関」による大臣認定工場で当該設計図書の内容を満たす評価基準を有する工場 ○Sグレード ○Hグレード ○Mグレード ○Rグレード ○Jグレード	40 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	既存仕上げ等の撤去 ※ 図示 [8.21.2] 既存構造体の撤去 ※ 図示 [8.21.2] 割製補強筋の仕様 ※ 図示 [8.21.6] コンクリートの打込み工法 ※ 図示 [8.21.8] 既存構造体との取合い ※ 図示 [8.21.9] 増設壁工事後の仕上げ ※ 図示 [8.21.10]
8 壁の配筋	壁筋の定着長さ ※ 図示 [8.3.7] シアコネクタの種類、径、長さ、彫込み深さ及び間隔 ※ 図示 [8.3.7][8.7.8]	18 鉄骨製作工場における施工管理技術者の配置	適用する [8.1.6]	41 鉄骨ブレースの設置工事	割製補強筋の仕様 ※ 図示 [8.22.7] ブレース設置工事後の仕上げ ※ 図示 [8.22.9] 外側補強一枠付鉄骨ブレースの仕上げ 防錆処理 : 亜鉛・アルミニウム溶射 (AL-15%, ZN-85%) 厚さ 100μm 素地ごしらせ : 亜鉛メッキ面B種 (18.2.4) 封孔処理 : 亜鉛メッキ面用エポキシ樹脂塗料2回以上 塗装 : DP3級
9 壁開口部の補強	※ 図示 [8.3.7]	19 鋼材	※ (一社)日本建築学会「建築工事標準仕様書6 鉄骨工事」による。 [8.13.2] [8.2.8][表 8.2.7]	42 柱補強工事	溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 ※ 図示 [8.23.5] 構造用モルタルの厚さ ※ 図示 [8.23.5] コンクリート及び構造用モルタルの打込み工法 ※ 図示 [8.23.6] フープ筋 径 ※ 図示 [8.23.6] 鋼板巻き工法及び帯巻巻き付け工法 ※ 図示 [8.23.6] 柱頭及び柱脚の隙間 ※ 図示 [8.24.1][4.1.4] 連続繊維補強工法 ※ 図示 [8.24.1][4.1.4] ひび割れ部の改修工法 ※ 樹脂注入工法 [8.24.13] 隅角部の面取り ※ 図示 [8.24.13] 連続繊維補強材の強度試験 ※ 引張強度試験 (JIS A 1191に準拠) ※ 行う [8.24.13] 付着強度試験 (JIS A 6909に準拠) ※ 行う [8.24.13]
10 スリーブの材質、規格等	※ 下記の通り [8.2.7][表 8.2.6] (i) 外壁の地中部分等水密を要する部分に用いるスリーブは、つば付き鋼管とする。 (ii) 地中部分で水密を要しない部分に用いるスリーブは、硬質ポリ塩化ビニル管とする。 (iii) (i)及び(ii)以外の円形スリーブは、溶融亜鉛めっき鋼板とし、原則として、筒形の両端を外側に折り曲げてつばを設ける。また、必要に応じて、円筒部を両方から差し込む伸縮形とする。 (iv) 硬質ポリ塩化ビニル管は、防火区画を貫通する場合には使用しない。 なお、柱及び梁以外の箇所、開口補強が不要であり、かつ、スリーブ径が 200mm 以下の部分は、紙チューブとすることができる。	20 ホールのゲージ、ホール間隔、縁端距離等	種類等 ※ 図示 [8.2.9] ※ トルシア形高力ボルト (S10T) (ねじの呼び ※ 図示) [8.2.9] ○ JIS 形高力ボルト (F10T) (ねじの呼び ※ 図示) [8.2.9] ナット回転法の場合、ホールの長さが呼びの5倍を超える場合の回転量 (※ 図示) [8.14.7] 溶融亜鉛めっき高力ボルト (F8T 相当) (ねじの呼び ※ 図示) [8.2.9]	43 連続繊維補強工事	材料 ※ 炭素繊維、アラミド繊維 [8.23.7] 強度試験 ※ 引張強度試験、付着強度試験 [8.23.7] 補強工事後の仕上げ ※ 図示 [8.23.7][8.24.5]
11 圧接完了後の試験	試験方法 ※ 超音波探傷試験 (全数) [8.3.8]	21 スタッド	種類等 ※ 図示 [8.2.11]	44 耐震スリット新設工事	耐震スリットの幅及び深さ ※ 図示 [8.25.2] 既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示 ※ 8.21.2(1), (3)及び8.21.3(4) [8.25.2] 耐火材 ※ 図示 [8.25.2] 遮音材 ※ 図示 [8.25.2] 撤去部の補修 ※ 図示 [8.25.2]
12 既存部分の取り扱い	既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示 [8.21.2]による [8.21.2][8.22.2][8.23.2] 設備機器、配管等の撤去及び移設 ※ 図示 [8.21.2]による [8.21.2] 既存構造体の撤去範囲 ※ 図示 [8.21.2]による [8.21.2] はつりだした鉄筋及び鉄骨の処理 ※ 図示 ※ 鉄筋の場合、必要に応じて先端にキャップ等を取付けて養生。鉄骨の場合は発泡スチロール等で養生。 目荒らしの程度 [8.21.3][8.22.3][8.23.3][8.26.6] 既存柱・梁 ※ 平均深さで2~5mm (最大で5~7mm)程度の凹面を、合計が打継ぎ面の15~30%程度の面積となるように全体にわたってつける。 増打り壁増設 ※ 既存壁には打継ぎ面の10~15%程度を目安として目荒しを行う。 割製補強筋の仕様 ※ 図示 [8.21.6][8.22.7] ※ I類 [8.1.3][表 8.1.1] II類 [8.1.3][表 8.1.1]	22 高力ボルトの種類等	※ 実施しない [8.13.10]	45 免震改修工事	支承材、減衰材 [8.26.7] 材質及び諸元 ※ 図示 [8.26.7] 性能確認試験 ※ 行う (項目: , 数量: ) ・行わない [8.26.7] 製品検査 [8.26.7]
13 (コンクリート等) コンクリートの種別	※ 普通コンクリート [8.1.3][8.1.4] 設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> ) スランプ (cm) 適用箇所 ○21 15 18 壁 ○18 15 18 土間 セメントの種類 ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 [8.2.5] 高炉セメントB種 適用箇所 ( ) フライアッシュセメントB種 適用箇所 ( ) 軽量コンクリート [8.1.3][8.9.1~8.9.2] 設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> ) スランプ (cm) 使用箇所 ※ 21 18 種類 1種 ( t/m <sup>3</sup> ) 2種 ( t/m <sup>3</sup> ) [8.9.1][表 8.9.1] 骨材 [8.2.5] アルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B 混和材料 [8.2.5] ○ 混和剤 ※ A E剤又はA E減水剤標準形 (JIS A 6204) 高性能A E減水剤標準形 (JIS A 6204) 混和材 ※ フライアッシュ ( I種 ・ II種 ・ IV種 ) (JIS A 6201) コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) コンクリート用シリカフューム (JIS A 6207) コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)	23 溶接接合 (技能資格者)	溶接技能者への技量付加試験 [8.15.3] 行う ※ 行わない 代替エンドタブを使用する場合は、技量付加試験を行うか、AW検定協議会が実施する代替エンドタブ検定により認定された溶接技能者でなければならない [8.13.10]	46 制振改修工事	既存部分の撤去等 [8.27.2] 既存部分の鉄骨造の場合 既存鉄骨の撤去範囲及び方法 ※ 図示 [8.27.4] 既存鉄骨の処理 ※ 図示 [8.27.4] 減衰材 [8.27.4] 材質及び諸元 ※ 図示 [8.27.4] 性能確認試験 ※ 行う (項目: , 数量: ) [8.27.4] 製品検査 [8.27.4]
14 コンクリートの材料及び割合	※ 普通コンクリート [8.1.3][8.1.4] 設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> ) スランプ (cm) 適用箇所 ○21 15 18 壁 ○18 15 18 土間 セメントの種類 ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 [8.2.5] 高炉セメントB種 適用箇所 ( ) フライアッシュセメントB種 適用箇所 ( ) 軽量コンクリート [8.1.3][8.9.1~8.9.2] 設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> ) スランプ (cm) 使用箇所 ※ 21 18 種類 1種 ( t/m <sup>3</sup> ) 2種 ( t/m <sup>3</sup> ) [8.9.1][表 8.9.1] 骨材 [8.2.5] アルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B 混和材料 [8.2.5] ○ 混和剤 ※ A E剤又はA E減水剤標準形 (JIS A 6204) 高性能A E減水剤標準形 (JIS A 6204) 混和材 ※ フライアッシュ ( I種 ・ II種 ・ IV種 ) (JIS A 6201) コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) コンクリート用シリカフューム (JIS A 6207) コンクリート用膨張材 (JIS A 6202)	24 材料試験等	板厚方向に引張力を受ける鋼板のJIS G 0901による試験 [8.2.14] 溶接技能者への技量付加試験 [8.15.3] 行う ※ 行わない 代替エンドタブを使用する場合は、技量付加試験を行うか、AW検定協議会が実施する代替エンドタブ検定により認定された溶接技能者でなければならない [8.13.10]	47 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
15 打放し仕上げの種別	※ 合板せき板を用いる場合 [8.1.4][8.2.7][表 8.1.4] 種別 厚さ (mm) 施工箇所 A種 ※ 12 B種 ※ 12 壁 C種 ※ 12 せき板の材料として合板を用いない場合 材料 (厚さ) 適用部位 ※ 下表 [8.1.4][表 8.1.5] 種別 コンクリートの内外仕上げ a種 コンクリートが見え掛りとなる場合又は仕上げ厚さが極めて薄い場合その他非常に良好な平坦さ及び良好な表面状態が必要な場合 3mにつき7mm以下 化粧打放しコンクリート 塗装仕上げ 壁紙張り 接着剤による陶磁器質タイル張り b種 仕上げ厚さが7mm未満の場合その他良好な平坦さが必要な場合 3mにつき10mm以下 仕上げ塗材塗り 外装タイルセメントモルタル張り カーペット張り 防水下地 セメントモルタル材塗り c種 仕上げ厚さが7mm以上の場合又は下地の影響を受けにくい仕上げの場合 1mにつき10mm以下 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り モルタル塗り 二重床	25 溶接接合 (技能資格者)	溶接技能者への技量付加試験 [8.15.3] 行う ※ 行わない 代替エンドタブを使用する場合は、技量付加試験を行うか、AW検定協議会が実施する代替エンドタブ検定により認定された溶接技能者でなければならない [8.13.10]	48 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
16 コンクリートの仕上りの平坦さ	※ 合板せき板を用いる場合 [8.1.4][8.2.7][表 8.1.4] 種別 厚さ (mm) 施工箇所 A種 ※ 12 B種 ※ 12 壁 C種 ※ 12 せき板の材料として合板を用いない場合 材料 (厚さ) 適用部位 ※ 下表 [8.1.4][表 8.1.5] 種別 コンクリートの内外仕上げ a種 コンクリートが見え掛りとなる場合又は仕上げ厚さが極めて薄い場合その他非常に良好な平坦さ及び良好な表面状態が必要な場合 3mにつき7mm以下 化粧打放しコンクリート 塗装仕上げ 壁紙張り 接着剤による陶磁器質タイル張り b種 仕上げ厚さが7mm未満の場合その他良好な平坦さが必要な場合 3mにつき10mm以下 仕上げ塗材塗り 外装タイルセメントモルタル張り カーペット張り 防水下地 セメントモルタル材塗り c種 仕上げ厚さが7mm以上の場合又は下地の影響を受けにくい仕上げの場合 1mにつき10mm以下 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り モルタル塗り 二重床	26 仮組	※ 実施しない [8.13.10]	49 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
17 構造体用モルタルの材料及び割合 (グラウト材)	材料 ※ 早強型特殊セメント系無収縮モルタル (プレミックスタイプ) [8.2.6][表 8.2.5] 設計基準強度 ※ fc=30 (N/mm <sup>2</sup> ) (材齢: 28日) コンシステンシー ※ J14ロート試験法による フロー値 ※ 製造所 ※ 評価名簿による 試験 種別 圧縮強度試験 供試体: φ50, H=100 (J14ロート流下速度試験を行い作成する) 回数 1組の作業班が1日に行った施工箇所毎かつ2.0m <sup>3</sup> 及びその数値毎につき1回	27 摩擦面のすべり試験	※ 実施しない [8.13.10]	50 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
		28 溶接部の試験	○超音波探傷試験 (監督職員の指示する5箇所) [8.15.11] 放射線透過試験 (試験箇所) マクロ試験 (エンドタブ使用) 試験箇所 ( ) 浸透探傷試験 (監督職員の指示する5箇所)	51 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
		29 開先、スラッグの形状	※ 図示 [8.15.4][8.15.7]	52 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
		30 エンドタブ	※ 切断する [8.15.7] 切断する箇所 ※ 見えがかり部 [8.15.7] 切断範囲 ※ 図示 [8.15.7]	53 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
		31 錆止め塗料の種類	項目「塗装改修工事-4」の「錆止め塗料の種類」による [8.17.1]	54 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
		32 錆止め塗装の範囲	※ 8.17.2による [8.17.2]	55 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
		33 耐火被覆	種別 [8.18.2] 耐火材吹付け工法 [8.18.4] ロックウール吹付け工法 (乾式工法 ・ 半乾式工法 ・ 湿式工法) [8.18.5] 耐火板張り工法 (繊維入けい酸カルシウム板) [8.18.6] 耐火材巻付け工法 (高断熱ロックウール) [8.18.7] ラス張りモルタル塗り 左官工法 [8.18.8] 耐火塗料 塗装工法 [8.18.8] 耐火性能 [8.18.3] 耐火性能 適用箇所 30分 ・ 1時間 ・ 2時間	56 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
		34 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合	摩擦面の処理 ※ プラスト処理又はりん酸塩処理 [8.20.5] ただし、りん酸塩処理とする場合は、すべり耐力等の確認をすべり試験により行うこと。	57 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
		35 柱底均しモルタル及びグラウト材	※ 無収縮モルタル [8.2.12] 製造所 (製品名) 評価名簿による	58 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
		36 あと施工アンカー	○金属系アンカー [8.2.4] アンカー本体 構造計算で用いた 構造計算で用いた 構造計算で用いた 径 埋込み長さ 引張耐力 せん断耐力 アンカーのセット方式 接合筋の種類 径 長さ 使用箇所 D10 ※ 図示 ※ SD295 ○D10 図示 ※ 径×5以上 ※ SD345 ○D16 ※ 図示 ○D19 ○D22	59 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
		37 あと施工アンカー性能確認試験	※ 行う [8.2.4] 試験の種類 対象 [8.2.4]	60 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
		38 埋め込み配管等の探査	探査方法 ※ 鉄筋探査器により確認する [8.12.4] (鉄筋探査器で確認できない場合は、はつりを行い、埋設の鉄筋、金物類の位置を確認する)	61 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成
		39 あと施工アンカーの施工後の確認試験	※ 抜取試験 [8.12.7] 引張試験 試験数 ※ 8.12.7による 引張試験の確認強度	62 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 除去工法 飛散性 石綿含有吹付け材 ※ 9.1.3による 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 石綿含有成形板等 内壁・天井・物置屋根 ○けい酸カルシウム板 ※ 9.1.4による ○大波スレート ○アスファルトフェルト ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 面形成

高知市 都市建設部 公共建築課

工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	係長	課長補佐	課長	図面番号
図面名	改修特記仕様書 (7)	2023/07	縮尺	1 /	A-07
作図	年	月	日		

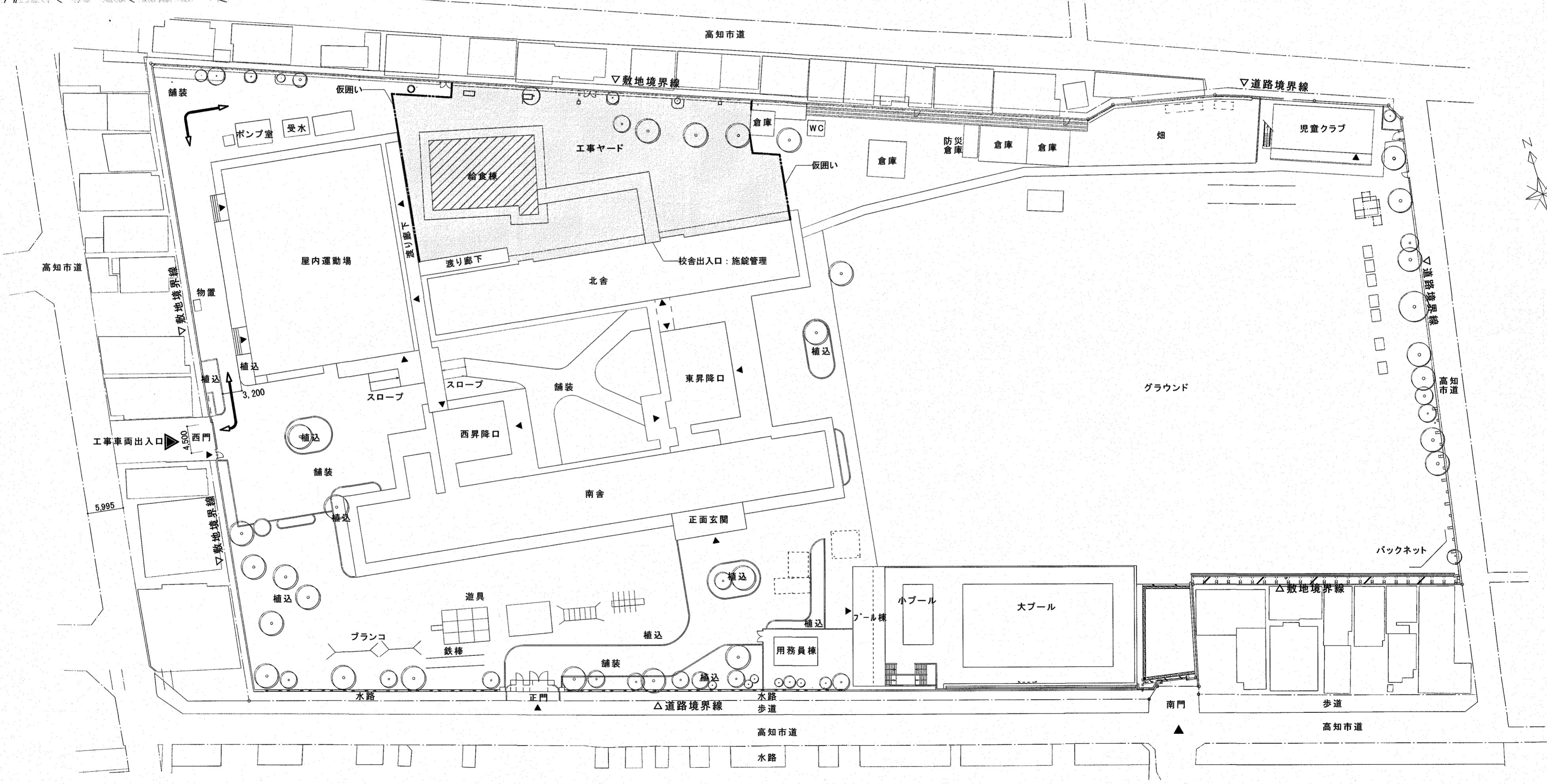


項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																																																																																										
2 外断熱改修工事	<p>石綿含有仕上塗材の除去 [9.1.6]</p> <p>使用部位 ( )</p> <p>使用材料 ( )</p> <p>除去工法</p> <p>※厚生労働省「石綿飛散漏洩防止対策徹底マニュアル」による工法の内、飛散防止に関し隔離措置と同等と判断できる工法</p> <p>除去範囲 ※ 図示</p> <p>試験施工 ※ 行わない ・ 行う</p> <p>処分 [9.1.3]</p> <p>管理型・安定型を確認の上、廃棄物処理法による許可を受けた施設で適切に処理すること。</p> <p>石綿粉じん濃度測定 [9.1.1]</p> <p>※建築物石綿含有建材調査報告書により、監督職員と協議する。</p> <p>・ 行う ・ 行わない</p> <table border="1"> <tr> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定名称</th> <th>測定点</th> </tr> <tr> <td>処理作業前</td> <td>・ 処理作業室内</td> <td>測定1</td> <td>※2点 ・ 3点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 施工区画周辺又は敷地境界</td> <td>測定2</td> <td>※2点</td> </tr> <tr> <td>処理作業中</td> <td>・ 処理作業室内</td> <td>測定3</td> <td>※2点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※セキュリティゾーン入口</td> <td>測定4</td> <td>※1点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※集じん、排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)</td> <td>測定5</td> <td>※1点</td> </tr> <tr> <td>処理作業後 (隔離シート撤去前)</td> <td>※施工区画周辺又は敷地境界</td> <td>測定6</td> <td>※4方向 各1点</td> </tr> <tr> <td></td> <td>※処理作業室内</td> <td>測定7</td> <td>※2点以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 施工区画周辺又は敷地境界</td> <td>測定8</td> <td>※4方向 各1点</td> </tr> </table> <p>測定方法 [9.2.2]</p> <p>・ JIS K3850-1に基づいた測定 (測定4 ・ 測定5 ・ 測定6 ・ 測定7 ・ )</p> <p>・ 自動測定器による測定 (測定4 ・ 測定5 ・ )</p> <p>断熱材の種類 ※ 図示 [9.2.2]</p> <p>断熱材の厚さ ※ 図示 [9.2.2]</p> <p>外装材の種類及び防火性能 [9.2.2]</p> <p>種類 防火性能</p> <p>既存外壁の仕上材の撤去 ※ 図示 [9.2.3]</p> <p>下地面の清掃 ※ 図示 [9.2.3]</p> <p>欠損部の改修工法 ・ 適用 ( ※ 図示 ※ 4.1.4 ) [9.2.3]</p> <p>建築基準法に基づく風圧力の (※1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 [9.2.4]</p> <p>不陸等の下地調整 ※ 図示 [9.2.4]</p> <p>断熱材の施工 ※ 製造所の仕様による [9.2.4]</p> <p>外装材の施工 ※ 図示 [9.2.4]</p> <p>通気層 ※ 有(厚さ ※ 図示) ・ 無 [9.2.4]</p> <p>外装材の外壁への取付 ※ 図示 [9.2.4]</p> <p>笠木の施工 ※ 3章9節による [9.2.4]</p>	測定時期	測定場所	測定名称	測定点	処理作業前	・ 処理作業室内	測定1	※2点 ・ 3点		・ 施工区画周辺又は敷地境界	測定2	※2点	処理作業中	・ 処理作業室内	測定3	※2点		※セキュリティゾーン入口	測定4	※1点		※集じん、排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	測定5	※1点	処理作業後 (隔離シート撤去前)	※施工区画周辺又は敷地境界	測定6	※4方向 各1点		※処理作業室内	測定7	※2点以上		・ 施工区画周辺又は敷地境界	測定8	※4方向 各1点	<p>盛土の種類 [9.5.3][表9.5.1]</p> <p>・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種</p> <p>路床安定処理用添加材料の種類 [9.5.3][表9.5.2]</p> <p>ジオテキスタイル ・ 適用する(品質 ・ ) ・ 適用しない</p> <p>発生土の処理 [9.5.3]</p> <p>※ 構外搬出適切処理</p> <p>(搬出前に建設発生土の受入証明又は法令による許可書等を提出する)</p> <p>・ 構内指示の場所に敷き均し</p> <p>・ 構内指示の場所にたい積</p> <p>・ 構外指示の場所に処分(搬出調書等を提出する)</p> <p>・ 受入れ施設名:</p> <p>・ 受入れ場所:</p> <p>・ 仮置き場所:</p> <p>試験 [9.5.3]</p> <p>路床土の支持力比(CBR)試験 ・ 行う ・ 行わない</p> <p>現場CBR試験 ・ 行う ・ 行わない</p> <p>路床締め度の試験 [9.5.3]</p> <p>・ 行う ・ 行わない</p> <p>砂の粒度試験 [9.5.3]</p> <p>・ 行う ・ 行わない</p> <p>路盤 厚さ [9.5.4]</p> <p>管理用車両通行部 (※ 150mm )</p> <p>歩行者用通路 (※ 100mm )</p> <p>材料 [9.5.4][表9.5.3]</p> <p>・ クラッシュラン ・ 粒度調整砕石</p> <p>※再生クラッシュラン ・ 再生粒度調整砕石</p> <p>・ クラッシュラン鉄鋼スラグ ・ 粒度調整鉄鋼スラグ</p> <p>・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ</p> <p>締め度の試験 ※ 行う ・ 行わない [9.5.4]</p> <p>舗装の構成及び仕上り [9.5.5]</p> <p>厚さ 管理用車両通行部 (※ 50mm )</p> <p>歩行者用通路 (※ 30mm )</p> <p>平坦性 ※ 著しい不陸がないもの [9.5.5]</p> <p>開粒度アスファルト混合物の抽出試験 [9.5.9]</p> <p>・ 行う ※ 行わない</p>	<p>① 点検口</p> <table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>材 種</th> <th>寸 法</th> <th>形 式</th> <th>鍵</th> </tr> <tr> <td>天井</td> <td>※ アルミニウム製</td> <td>※ 450×450 ・ 600×600</td> <td>一般 ○ 額縁タイプ ○ 額縁タイプ ○ 目地タイプ ・ 密閉形</td> <td>※ なし ・ あり</td> </tr> <tr> <td>床</td> <td>・ アルミニウム製 ※ ステンレス製</td> <td>・ 450×450 ※ 600×600</td> <td>・ 一般形 ・ 密閉形 ・ 結露防止形 ・ 屋内外用</td> <td>※ なし ※ あり</td> </tr> </table> <p>製造所 評価名簿による</p> <p>材種 ・ アルミニウム製 ※ 塩ビ</p> <p>② 天井見切縁</p> <p>③ 長尺金属板葺</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>板及びコイルの種類</th> <th>塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>屋根葺形式</th> <th>下地</th> </tr> <tr> <td>屋根</td> <td>※ JIS G 3322の屋根用コイル</td> <td>AZ150</td> <td>0.4</td> <td>・ 心木なし瓦葺 ・ 立平葺 ・ 横葺 ○ 加工工法瓦葺き</td> <td></td> </tr> </table> <p>下葺材料</p> <p>・ アスファルトルーフィング940</p> <p>○ 改質アスファルトルーフィング下葺材</p> <p>( ○ 一般タイプ ・ 複層基材タイプ ・ 粘着層付タイプ )</p> <p>工法</p> <p>建築基準法に基づく風圧力の (※1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対して構造耐力上安全である工法</p> <p>横葺きのけらば納め ・ つかみ込み納め ・ けらば包み納め</p> <p>④ 折板葺</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>形式</th> <th>タイフレーム (mm)</th> <th>耐力による区分</th> <th>材料による区分</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>軒先面戸板</th> <th>耐火性能</th> </tr> <tr> <td>屋根</td> <td>○ 重ね形 ・ はせ締め形 ・ かん合形</td> <td>88程度 200程度</td> <td>( ) 種</td> <td>※ 鋼板製 ・ アルミ合金製</td> <td>0.6</td> <td>○ 有り ○ 無し</td> <td>・ 30分 ○ 無し</td> </tr> </table> <p>材料 板及びコイルの種類 ( JIS G 3322 )</p> <p>塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号 ( AZ150 )</p> <p>タイフレームにJIS G 3302以外の鋼材を直接外気の影響を受けない屋内の場合の表面処理</p> <p>※表14.2.2のF種</p> <p>断熱材張り ・ 適用する (種別: 厚さ(mm): 防火性能: 時間)</p> <p>工法 (13.3.3)</p> <p>建築基準法に基づく風圧力の (※1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対して構造耐力上安全である工法</p> <p>折板のけらば納め ※ けらば包みによる方法</p> <p>※ 図示 (公表価格175,000円程度)</p>	形式	材 種	寸 法	形 式	鍵	天井	※ アルミニウム製	※ 450×450 ・ 600×600	一般 ○ 額縁タイプ ○ 額縁タイプ ○ 目地タイプ ・ 密閉形	※ なし ・ あり	床	・ アルミニウム製 ※ ステンレス製	・ 450×450 ※ 600×600	・ 一般形 ・ 密閉形 ・ 結露防止形 ・ 屋内外用	※ なし ※ あり	施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ (mm)	屋根葺形式	下地	屋根	※ JIS G 3322の屋根用コイル	AZ150	0.4	・ 心木なし瓦葺 ・ 立平葺 ・ 横葺 ○ 加工工法瓦葺き		施工箇所	形式	タイフレーム (mm)	耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	軒先面戸板	耐火性能	屋根	○ 重ね形 ・ はせ締め形 ・ かん合形	88程度 200程度	( ) 種	※ 鋼板製 ・ アルミ合金製	0.6	○ 有り ○ 無し	・ 30分 ○ 無し	<p>3 断熱 ・ 防露改修工事</p> <p>断熱材打込み工法又は断熱材後張り工法 [9.3.2][9.3.4]</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>等 級</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・ JIS A 9521(建築用断熱材)によるビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし)</td> <td>※ 2種 b A</td> <td>※ 25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 硬質ウレタンフォーム断熱材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ フェノールフォーム断熱材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ JIS A 9521(建築用断熱材)によるビーズ法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 押出法ポリスチレンフォーム保温材 (スキンなし)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>フェノールフォーム断熱材のホルムアルデヒド放散量 [9.3.2][9.3.4]</p> <p>※ F☆☆☆☆、またはそれと同等と認められるもの</p> <p>断熱材現場発泡工法 [9.3.3]</p> <p>材料 (JIS A 9526による)</p> <p>※ A種1 ・ B種</p> <p>厚さ (mm) ・ 25 ・ 30</p> <p>製造所 評価名簿による</p> <p>4 屋上緑化改修工事</p> <p>材料 芝及び地被類の種類等 [9.4.2]</p> <p>見切り材 [9.4.2]</p> <p>舗装材 [9.4.2]</p> <p>排水孔 [9.4.2]</p> <p>マルチング材 [9.4.2]</p> <p>建築基準法に基づく風圧力の (※1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 [9.4.3]</p> <p>かん水装置及び種類 ※ 図示 [9.4.3]</p> <p>既存保護層等の撤去 ※ 図示 [9.4.3]</p> <p>新植樹木等の枯補償期間 ※ 引渡しの日から1年 [9.4.4]</p> <p>5 透水性アスファルト舗装改修工事</p> <p>既存舗装の撤去 ・ 撤去する ・ 一部再利用する [9.5.2]</p> <p>路床 凍上抑制層 ・ 適用する [9.5.3]</p> <p>厚さ ※ 図示 [9.5.3]</p> <p>材料 ※ 有機物、ごみ等を含まないもの [9.5.3]</p> <p>※ 適用しない</p> <p>透水性舗装のフィルターの厚さ管理用車両通行部 (※ 150mm ) [9.5.3]</p> <p>歩行者用通路 (※ 50mm )</p> <p>路床安定処理 ・ 適用する [9.5.3]</p> <p>方法 ※ 添加材料による安定処理</p> <p>厚さ ※ 300mm</p> <p>目標CBR ※ 5以上</p> <p>・ 適用しない</p>	種 類	等 級	厚さ (mm)	施工箇所	・ JIS A 9521(建築用断熱材)によるビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材				※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし)	※ 2種 b A	※ 25		・ 硬質ウレタンフォーム断熱材				・ フェノールフォーム断熱材				・ JIS A 9521(建築用断熱材)によるビーズ法ポリスチレンフォーム保温材				・ 押出法ポリスチレンフォーム保温材 (スキンなし)			
測定時期	測定場所	測定名称	測定点																																																																																																												
処理作業前	・ 処理作業室内	測定1	※2点 ・ 3点																																																																																																												
	・ 施工区画周辺又は敷地境界	測定2	※2点																																																																																																												
処理作業中	・ 処理作業室内	測定3	※2点																																																																																																												
	※セキュリティゾーン入口	測定4	※1点																																																																																																												
	※集じん、排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	測定5	※1点																																																																																																												
処理作業後 (隔離シート撤去前)	※施工区画周辺又は敷地境界	測定6	※4方向 各1点																																																																																																												
	※処理作業室内	測定7	※2点以上																																																																																																												
	・ 施工区画周辺又は敷地境界	測定8	※4方向 各1点																																																																																																												
形式	材 種	寸 法	形 式	鍵																																																																																																											
天井	※ アルミニウム製	※ 450×450 ・ 600×600	一般 ○ 額縁タイプ ○ 額縁タイプ ○ 目地タイプ ・ 密閉形	※ なし ・ あり																																																																																																											
床	・ アルミニウム製 ※ ステンレス製	・ 450×450 ※ 600×600	・ 一般形 ・ 密閉形 ・ 結露防止形 ・ 屋内外用	※ なし ※ あり																																																																																																											
施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ (mm)	屋根葺形式	下地																																																																																																										
屋根	※ JIS G 3322の屋根用コイル	AZ150	0.4	・ 心木なし瓦葺 ・ 立平葺 ・ 横葺 ○ 加工工法瓦葺き																																																																																																											
施工箇所	形式	タイフレーム (mm)	耐力による区分	材料による区分	厚さ (mm)	軒先面戸板	耐火性能																																																																																																								
屋根	○ 重ね形 ・ はせ締め形 ・ かん合形	88程度 200程度	( ) 種	※ 鋼板製 ・ アルミ合金製	0.6	○ 有り ○ 無し	・ 30分 ○ 無し																																																																																																								
種 類	等 級	厚さ (mm)	施工箇所																																																																																																												
・ JIS A 9521(建築用断熱材)によるビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材																																																																																																															
※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (スキン層なし)	※ 2種 b A	※ 25																																																																																																													
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材																																																																																																															
・ フェノールフォーム断熱材																																																																																																															
・ JIS A 9521(建築用断熱材)によるビーズ法ポリスチレンフォーム保温材																																																																																																															
・ 押出法ポリスチレンフォーム保温材 (スキンなし)																																																																																																															



附近見取図  
 工事場所: 昭和小学校  
 高知市日ノ出町7番61号

- 凡例
- 工事建物を示す
  - 工事ヤードを示す(工事車両置場、資材置場など)別途契約工事業者と共有
  - 仮囲い: ガードフェンス H=1800程度
  - 工事車両出入口を示す
  - 施設利用者の主要出入口を示す
  - 工事関係者動線を示す



配置図兼仮設計計画図 S=1/500

高知市 都市建設部 公共建築課		工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
		図面名	附近見取図・配置図兼仮設計計画図	縮尺	1 / 500	作図	年 月 日	A-09

外部仕上表

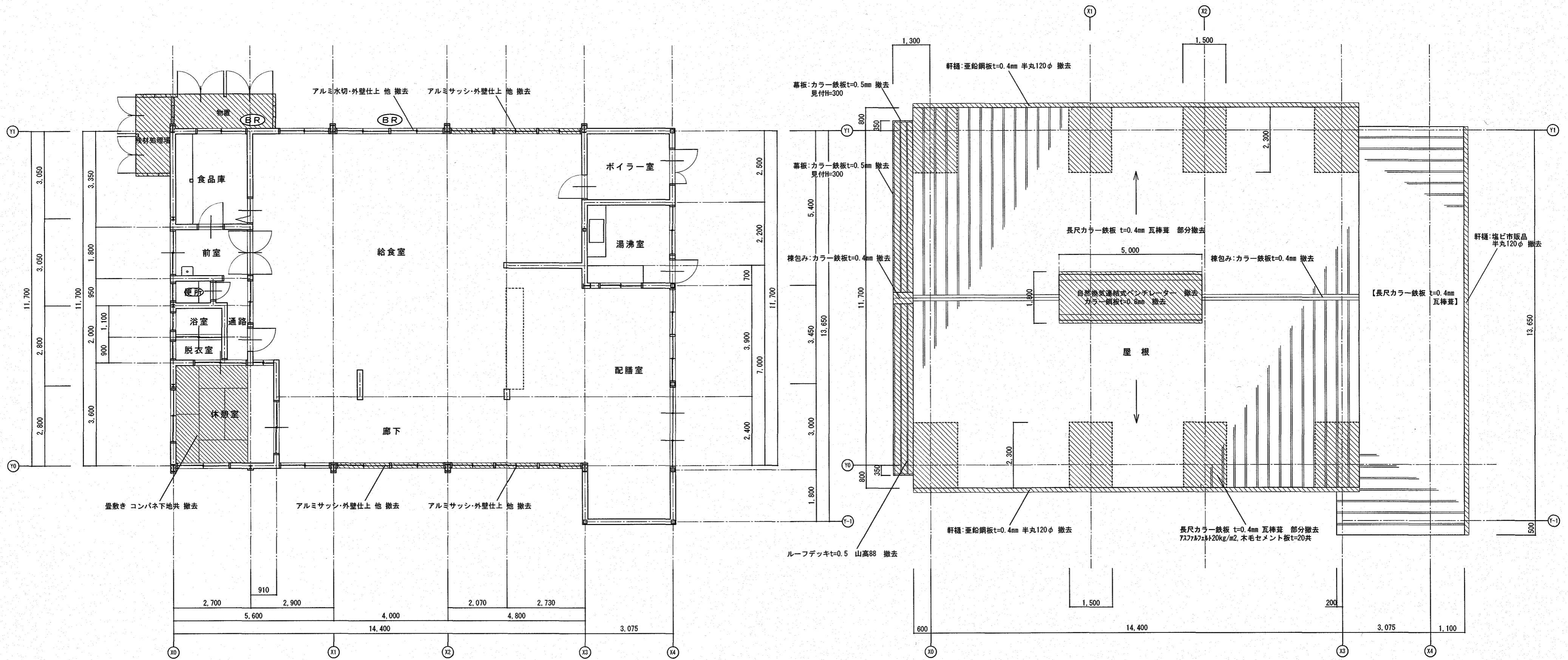
部位	改修前	改修後
根廻り	④コンクリートt=120下地 モルタル刷毛引 部分撤去	④コンクリート詰め t=120 モルタル刷毛引
外壁	①胴縁:24x54@450下地 せっこうボードt=12mm下地 角波カラー鉄板 t=0.3mm ②ラスシート下地 モルタル刷毛引 リシン吹付 部分撤去 ③コンクリートt=120下地 モルタル刷毛引 リシン吹付 部分撤去	①グラスウールt=50 透湿防水シート 胴縁:(λ)24×54@450 せっこうボードt=12下地 K型スパンドレル カラーガルバリウム鋼板 t=0.4mm 縦張り ②ラスシート下地 モルタル刷毛引 複層塗材E吹付 ③コンクリート詰め t=120 モルタル刷毛引 複層塗材E吹付 ⑤グラスウールt=50 透湿防水シート 胴縁:(λ)75×45@450 K型スパンドレル カラーガルバリウム鋼板 t=0.4mm 縦張り ⑥既存コンクリート打放シ下地 複層塗材E吹付
軒天	けい酸カルシウム板t=6 目透かし張り VP塗 撤去 野縁(λ)40×40@450共	木野縁(λ)40×40@450下地 けい酸カルシウム板t=6 突付け EP-G塗
屋根	長尺カラー鉄板 t=0.4 瓦棒葺 部分撤去 下地:木毛セメント板 t=20 部分撤去 アスファルトフェルト20kg 部分撤去 自然換気連結式ベンチレーター:カラー鋼板 t=0.8 撤去	カラーガルバリウム鋼板 カバー工法t=0.4 瓦棒葺き 改質アスファルトルーフィング 下葺き 撤去部:下地:木毛セメント板t=20共
庇	ルーフデッキt=0.5 山高88 撤去 幕板:カラー鉄板t=0.5撤去 見付H=300・棟包み:カラー鉄板t=0.4撤去	ルーフデッキt=0.6 山高88程度(カラーガルバリウム鋼板) タイプフレーム 剣先SUS 幕板:カラーガルバリウム鋼板t=0.5 見付H=300・棟包み:カラーガルバリウム鋼板t=0.4 水上面戸・エプロン面戸共
土間	モルタルコテ押エt=30mm 部分撤去	モルタルコテ押エt=30mm 部分復旧
その他	コンクリートブロック造 物置・残材処理場 全撤去 軒樋:亜鉛鋼板t=0.4mm 半丸120φ 撤去 壁樋:VP管100φ・60φ OP塗 撤去 支持金物共	カラーガルバリウム製 物置 設置 軒樋:カラー塩ビ製角樋(前高)120x120 壁樋:カラーVP100φ・60φ (SUS掴み金物共)

内部仕上表

階	室名	床	巾木	壁	天井	備考	
1	給食室	改修前	土間コンクリートt=100 モルタル刷毛引t=30 部分撤去	モルタルコテ押エH=200 部分撤去	コンクリートt=120下地 モルタルコテ押エt=25 VP塗 間柱:(λ)100x30@450・胴縁:(λ)21x45@450下地 部分撤去 けい酸カルシウム板 t=6 目透かし張り VP塗 部分撤去	軽鉄天井下地 撤去 けい酸カルシウム板t=6 目透かし張り VP塗 撤去	アルミサッシ 撤去 ガラス 撤去
		改修後	土間コンクリートt=100 モルタル刷毛引t=30 部分復旧	モルタルコテ押エH=200 部分復旧	コンクリートt=120下地 モルタルコテ押エt=25 VP塗 既存のまま 間柱:(λ)100x30@450・胴縁:(λ)21x45@450下地 部分復旧 けい酸カルシウム板 t=6 突付け EP-G塗	LGS19型@225下地 けい酸カルシウム板t=6mm 突付け EP-G塗	新設アルミサッシ ガラス 新設
	廊下	改修前	土間コンクリートt=100 モルタル刷毛引t=30 部分撤去	モルタルコテ押エH=200 部分撤去	柱型:ラスシート下地 モルタルコテ押エ VP塗 柱型:けい酸カルシウム板 t=6 目透かし張り VP塗	木軸天井下地・鋼製吊ボルト 撤去 化粧せっこうボードt=9 撤去	アルミサッシ 撤去 ガラス 撤去 アルミ天井点検口450×450撤去
		改修後	土間コンクリートt=100 モルタル刷毛引t=30 部分復旧	モルタルコテ押エH=200 部分復旧	既存のまま	LGS19型@225下地 化粧せっこうボード t=9.5mm	新設アルミサッシ ガラス 新設 アルミ天井点検口450×450新設
	配膳室	改修前	土間コンクリートt=100 モルタル刷毛引t=30 部分撤去	モルタルコテ押エH=200 部分撤去	コンクリートt=120下地 モルタルコテ押エt=25 VP塗 間柱:(λ)100x30@450・胴縁:(λ)21x45@450下地 けい酸カルシウム板 t=6 目透かし張り VP塗	木軸天井下地・鋼製吊ボルト 撤去 化粧せっこうボードt=9 撤去	ガラス 撤去 アルミ天井点検口450×450撤去
		改修後	土間コンクリートt=100 モルタル刷毛引t=30 部分復旧	モルタルコテ押エH=200 部分復旧	既存のまま	LGS19型@225下地 化粧せっこうボード t=9.5mm	ガラス 新設 アルミ天井点検口450×450新設
	食品庫	改修前	土間コンクリートt=100 モルタルコテ押エt=30	—————	コンクリートt=120下地 モルタルコテ押エt=25 ラスシート下地 モルタルコテ押エt=25	木軸天井下地 撤去 けい酸カルシウム板t=6 目透かし張り VP塗 撤去	ガラス 撤去 アルミ天井点検口450×450撤去
		改修後	既存のまま	—————	既存のまま	LGS19型@225下地 けい酸カルシウム板t=6mm 突付け EP-G塗	ガラス 新設
	休憩室	改修前	タタミ敷きt=54撤去 桧縁甲板t=15	タタミ寄せ (t)33×120	ラスボードt=7下地 プラスター中塗 砂壁状じゅらく吹付	木軸天井下地 撤去 杉板合板t=3mm 敷目地張り 撤去	ガラス 撤去 木製建具(戸板のみ)撤去
		改修後	フローリング張り(7)15.0新設	既存のまま	既存のまま	LGS19型@225下地 化粧せっこうボード t=9.5	ガラス 新設 木製建具(戸板のみ)新設
	ボイラー室	改修前	土間コンクリートt=100 モルタル刷毛引t=30 部分撤去	—————	コンクリートt=120下地 モルタルコテ押エt=25 部分撤去 コンクリートブロック下地 モルタルコテ押エt=25	軽鉄天井下地 撤去 けい酸カルシウム板t=6 目透かし張り VP塗 撤去	—————
		改修後	土間コンクリートt=100 モルタル刷毛引t=30 部分復旧	—————	コンクリートt=120下地 モルタルコテ押エt=25 部分復旧 コンクリートブロック下地 モルタルコテ押エt=25 既存のまま	LGS19型@225下地 けい酸カルシウム板t=6mm 突付け EP-G塗	アルミ天井点検口450×450新設
	湯沸室	改修前	土間コンクリートt=100 モルタル刷毛引t=30	モルタルコテ押エH=100	コンクリートt=120下地 モルタルコテ押エt=25 VP塗 けい酸カルシウム板 t=6 目透かし張り VP塗 (北面・CB下地・他:木下地)	軽鉄天井下地 撤去 けい酸カルシウム板t=6 目透かし張り VP塗 撤去	ガラス 撤去
		改修後	既存のまま	既存のまま	既存のまま	LGS19型@225下地 けい酸カルシウム板t=6mm 突付け EP-G塗	ガラス 新設

改修前

共通改修事項 (撤去)		
部位	改修概要	備考
外部建具	網入りガラス以外のガラス⇒撤去	ガラスシーリング共
内部建具	網入りガラス以外のガラス⇒撤去 2mmのガラス入り建具⇒戸板撤去	
床	休憩室床 畳・コンパネ 撤去	
天井	下地・仕上 全面撤去	前室・便所・浴室・通路・脱衣室 対象外
とい	全撤去(縦樋・軒樋共)	揺金物共
軒天	仕上げ・木下地 全面撤去	



平面図 S=1:100

撤去範囲を示す

屋根伏図 S=1:100

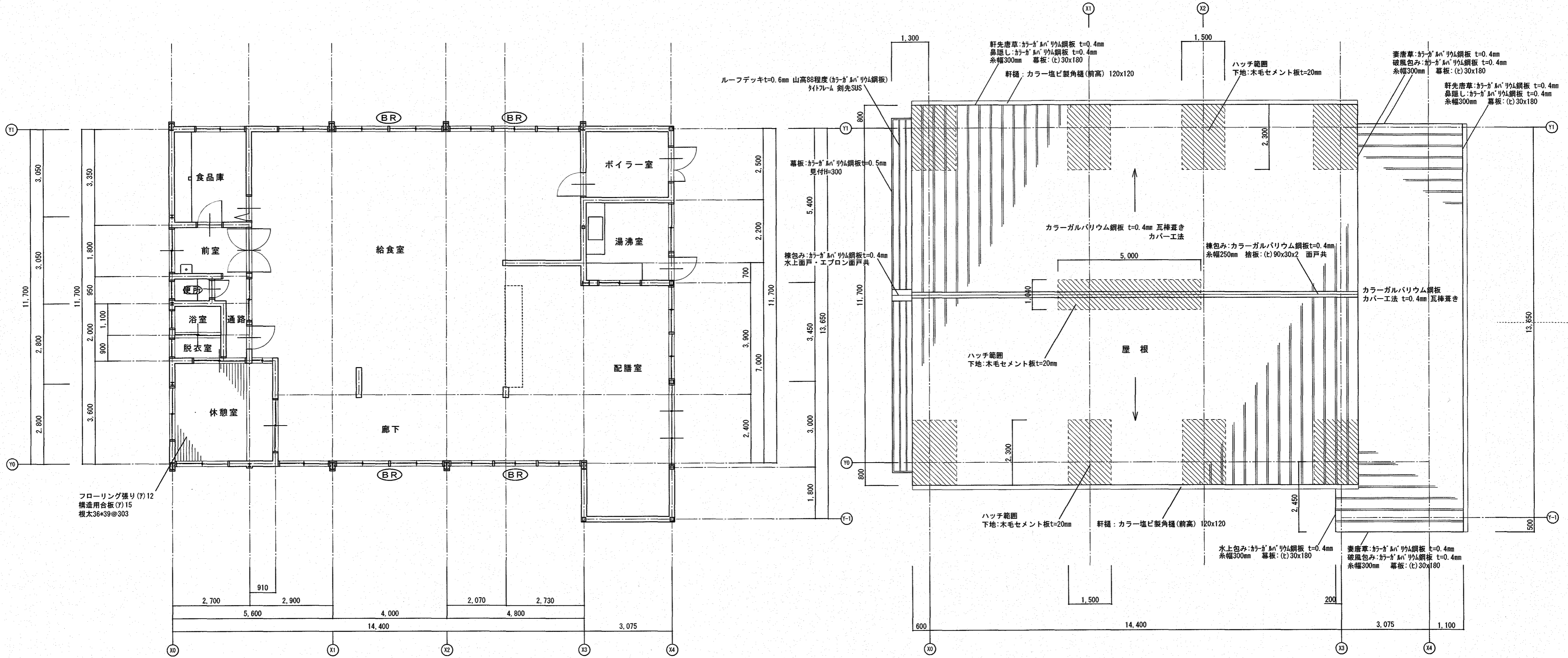
撤去範囲を示す

摘要	(BR) 壁ブレース 16φ 撤去 位置を示す	高知市都市建設部公共建築課	係長	課長補佐	課長	工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No.	A-11	年月日		株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823)1088 一級建築士登録 第55670号 高46 中嶋 新市
							平面図・屋根伏図(改修前)	縮尺	S=1:100	管理技術者	尾崎 健	

高知市都市建設部公共建築課	係長	課長補佐	課長	工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No.	A-11	年月日		株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823)1088 一級建築士登録 第55670号 高46 中嶋 新市
				平面図・屋根伏図(改修前)	縮尺	S=1:100	管理技術者	尾崎 健		

改修後

共通改修事項 (改修)		
部位	改修概要	備考
外部建具	網入りガラス以外のガラス⇒学校用強化ガラス	ガラスシーリング共
内部建具	網入りガラス以外のガラス⇒学校用強化ガラス 2mmのガラス入り建具⇒戸板新設	
床	休憩室床フローリング改修	
天井	LGS耐震化・仕上全面改修	内壁一天井見切り：塩ビ製
と	新設 (VP⇒カラーVP)	摺金物共
軒天	仕上げ・木下地新設 (けい酸カルシウム板t=6)	
屋根	新設 (カバー工法) カラーガルバリウム鋼板 t=0.4	



平面図 S=1:100

屋根伏図 S=1:100

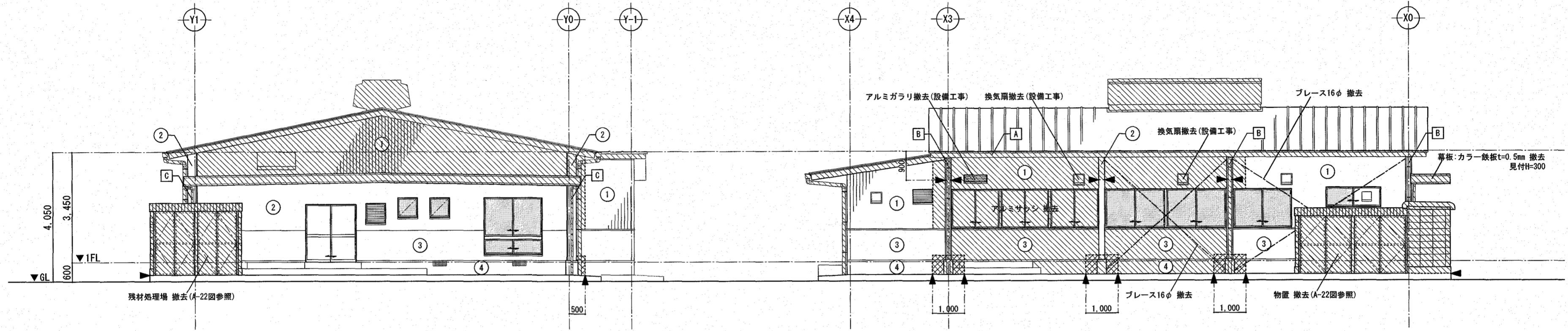
BR 新設 壁ブレース M-20 DP塗 位置を示す

高知市都市建設部公共建築課  
 係長 課長補佐 課長

工事名 昭和小学校給食棟耐震補強工事  
 平面図・屋根伏図 (改修後)

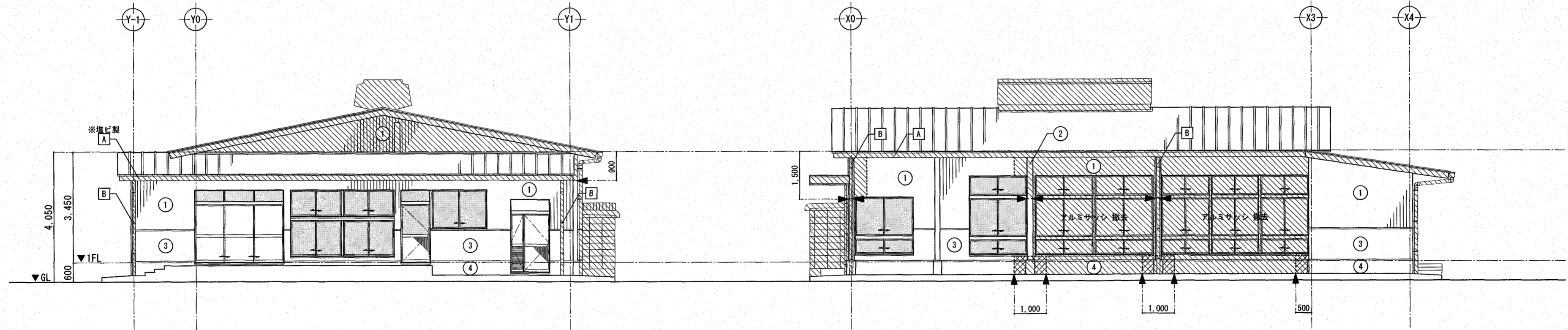
図面 No. A-12  
 縮尺 S=1:100  
 年月日  
 管理技術者 尾崎 健

株式会社 連合設計事務所  
 高知市比島町4丁目6番10号 TEL (823) 1088  
 一級建築士登録 第55670号  
 高46 中嶋 新市



西面 立面図 S=1:100

北面 立面図 S=1:100



東面 立面図 S=1:100


南面 立面図 S=1:100

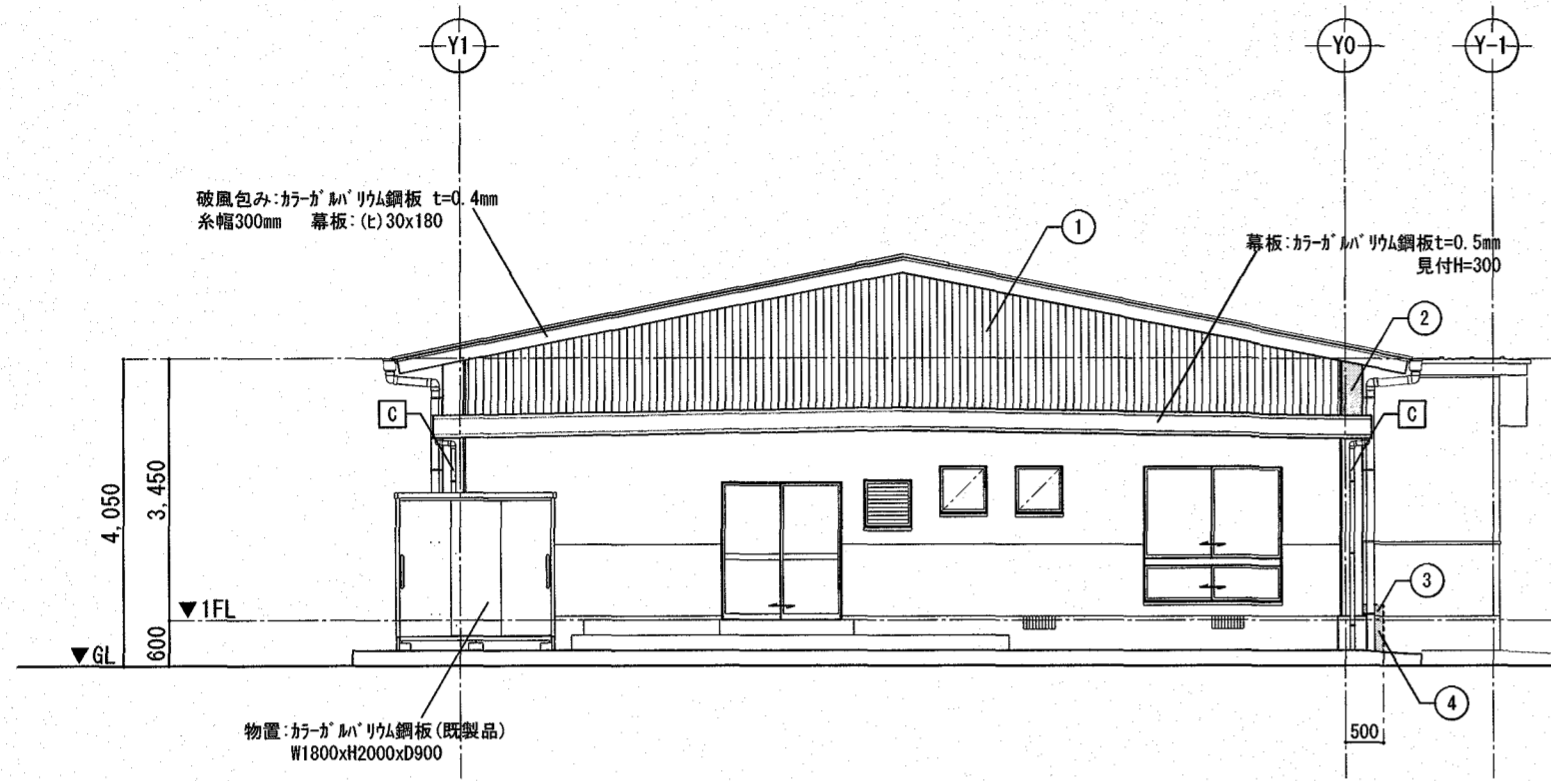
撤去範囲を示す (Wハッチ部はコンクリート腰壁 t=120共) ※鉄筋は残す

ガラスのみ撤去を示す

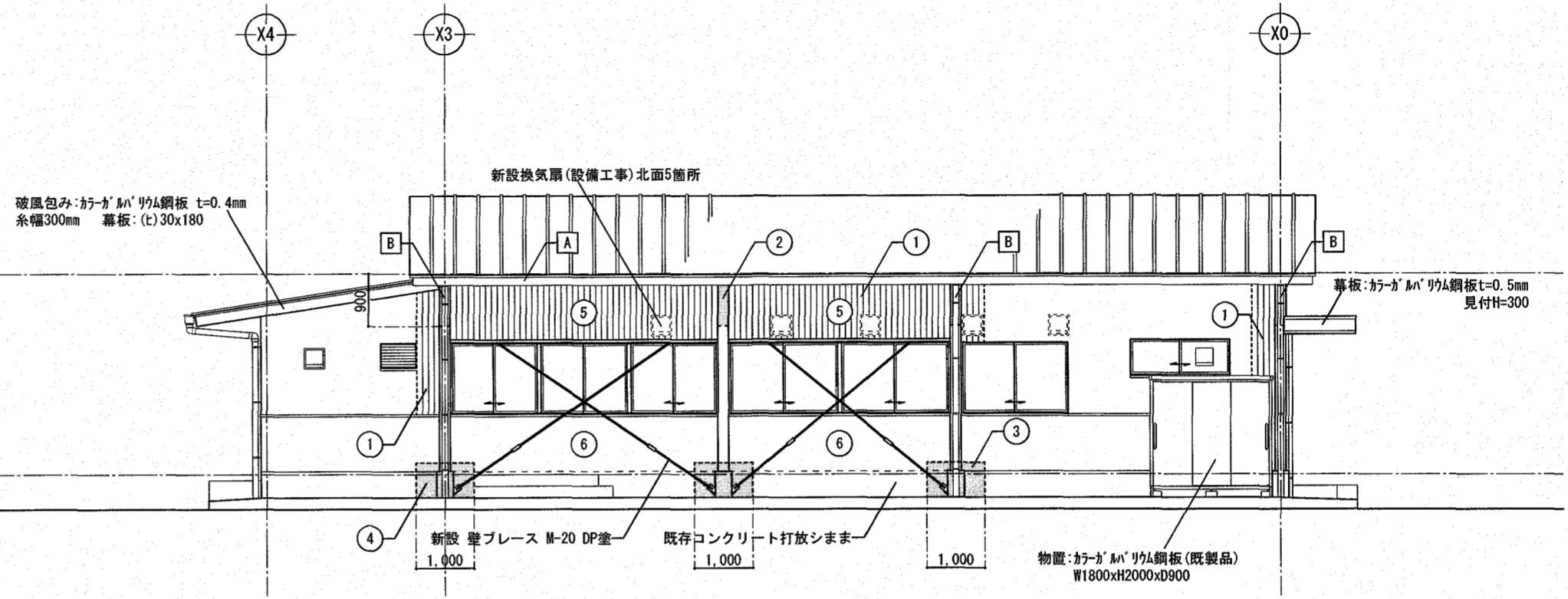
▼ カッター入れを示す

- ① 鋼線:24x54@450下地 せっこうボードt=12mm下地 角波カラー鉄板 t=0.3mm
- ② ラスシート下地 モルタル刷毛引 リシン吹付
- ③ コンクリート下地 モルタル刷毛引 リシン吹付
- ④ コンクリート下地 モルタル刷毛引
- A 軒樋:亜鉛鋼板t=0.4mm 半丸120φ 撤去
- B 縦樋:V P管100φ 0P塗 撤去 支持金物共
- C 縦樋:V P管 60φ 0P塗 撤去 支持金物共

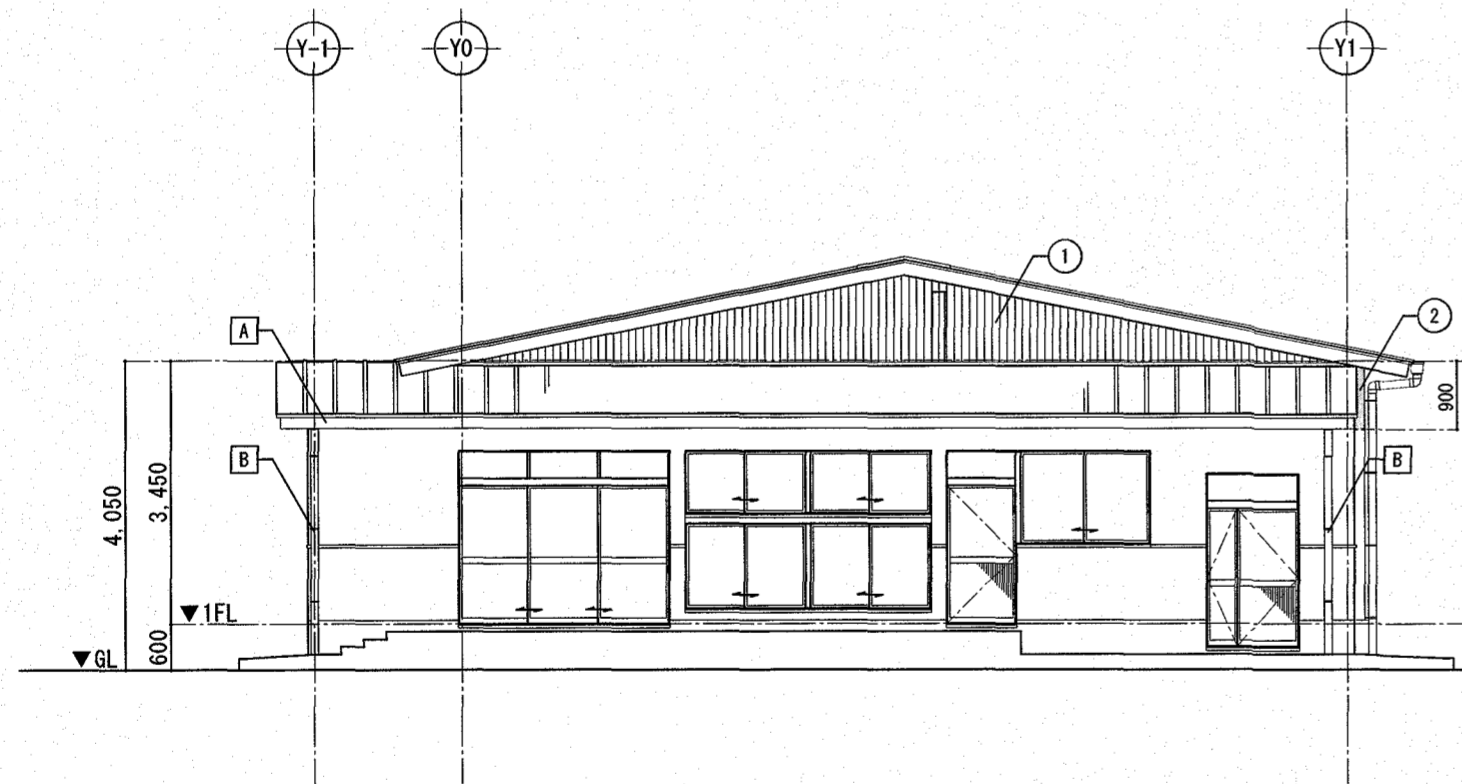
摘要	高知市都市建設部公共建設課 係長 課長補佐 課長	工事名 昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No. A-13	年月日	株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL代(823)1088
		立面図(改修前)	縮尺 S=1:100	管理技術者 尾崎 健	一級建築士登録 第55670号 高46 中嶋 新市



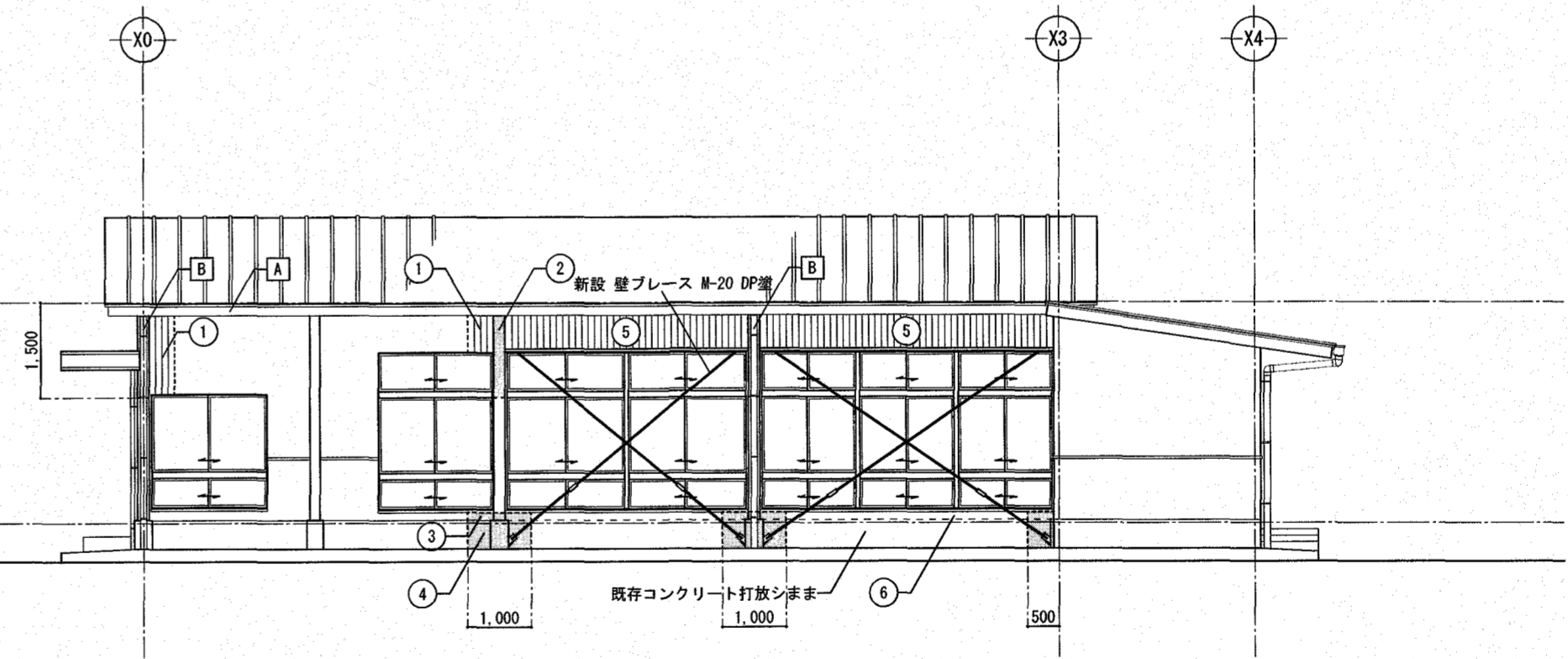
西面 立面図 S=1:100



北面 立面図 S=1:100



東面 立面図 S=1:100



南面 立面図 S=1:100

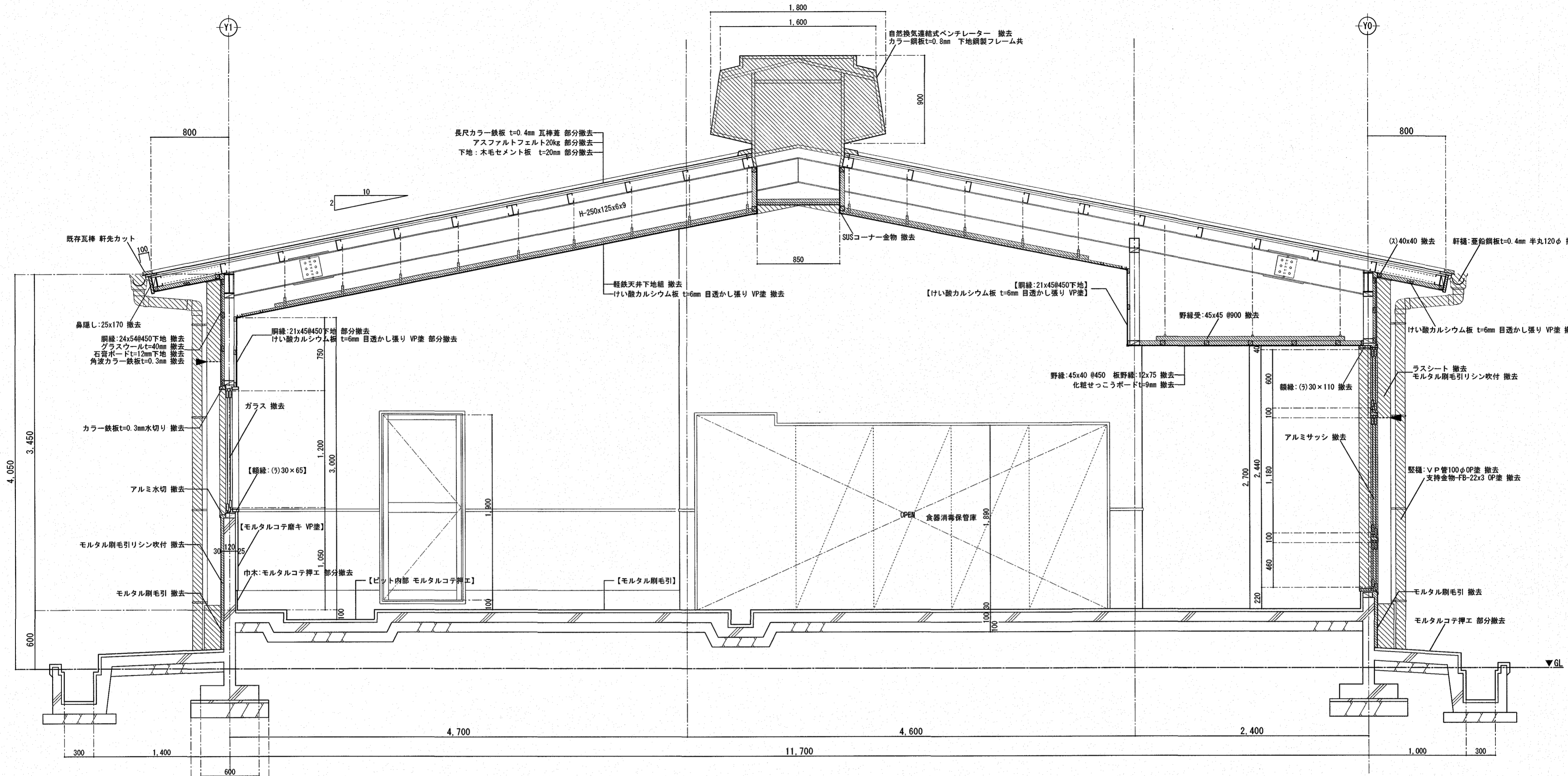
- ① グラスウールt=50 透湿防水シート  
鋼線: (A)24x54@450下地 セッコウボードt=12mm下地  
K型スバンドレル カラーガルバニウム鋼板 t=0.4mm 縦張り 部分復旧
- ② ラスシート下地 モルタル刷毛引 複層塗材E吹付
- ③ コンクリート詰め t=120 モルタル刷毛引 複層塗材E吹付
- ④ コンクリート詰め t=120 モルタル刷毛引
- ⑤ グラスウールt=50 透湿防水シート  
鋼線: (A)75x45@450  
K型スバンドレル カラーガルバニウム鋼板 t=0.4mm 縦張り
- ⑥ 既存コンクリート打放シ下地 複層塗材E吹付
- A 軒種: カラー塩ビ製角種(前高) 120x120
- B 壁種: カラーVP100φ (SUS組み金物共)
- C 壁種: カラーVP 60φ (SUS組み金物共)

摘要	高知市都市建設部公共建設課				工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No.	年月日	株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL代(823)1088
	係長	課長補佐	課長	主任					

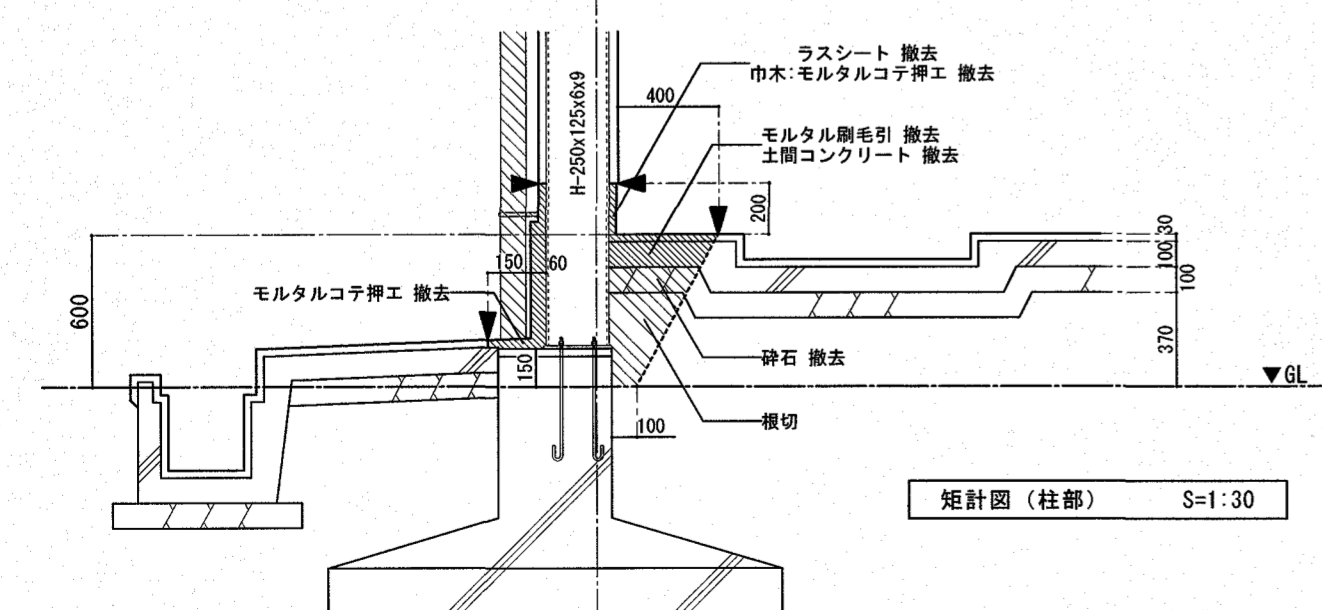


立面図(改修後)		縮尺	S=1:100	尾崎 健
----------	--	----	---------	------

尾崎 健	高 46	中嶋 新市
------	------	-------

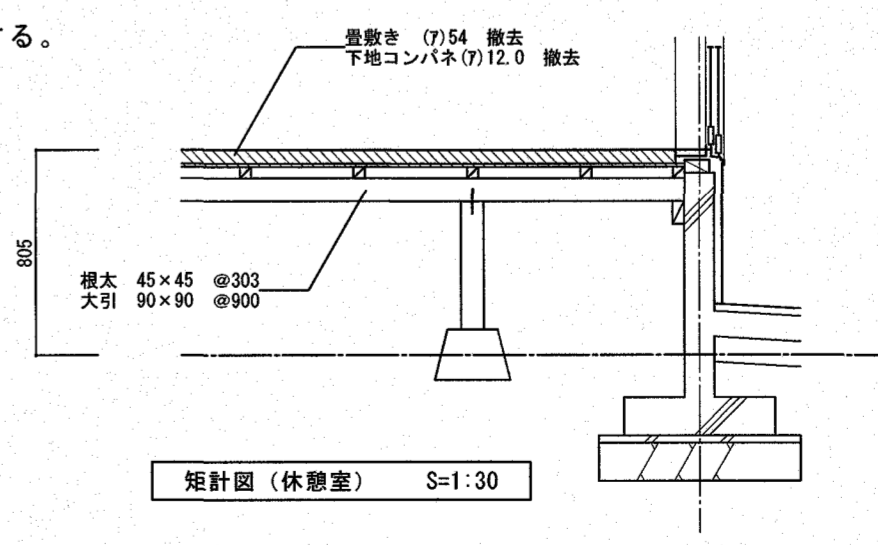


矩計図(改修前) S=1:30



矩計図(柱部) S=1:30

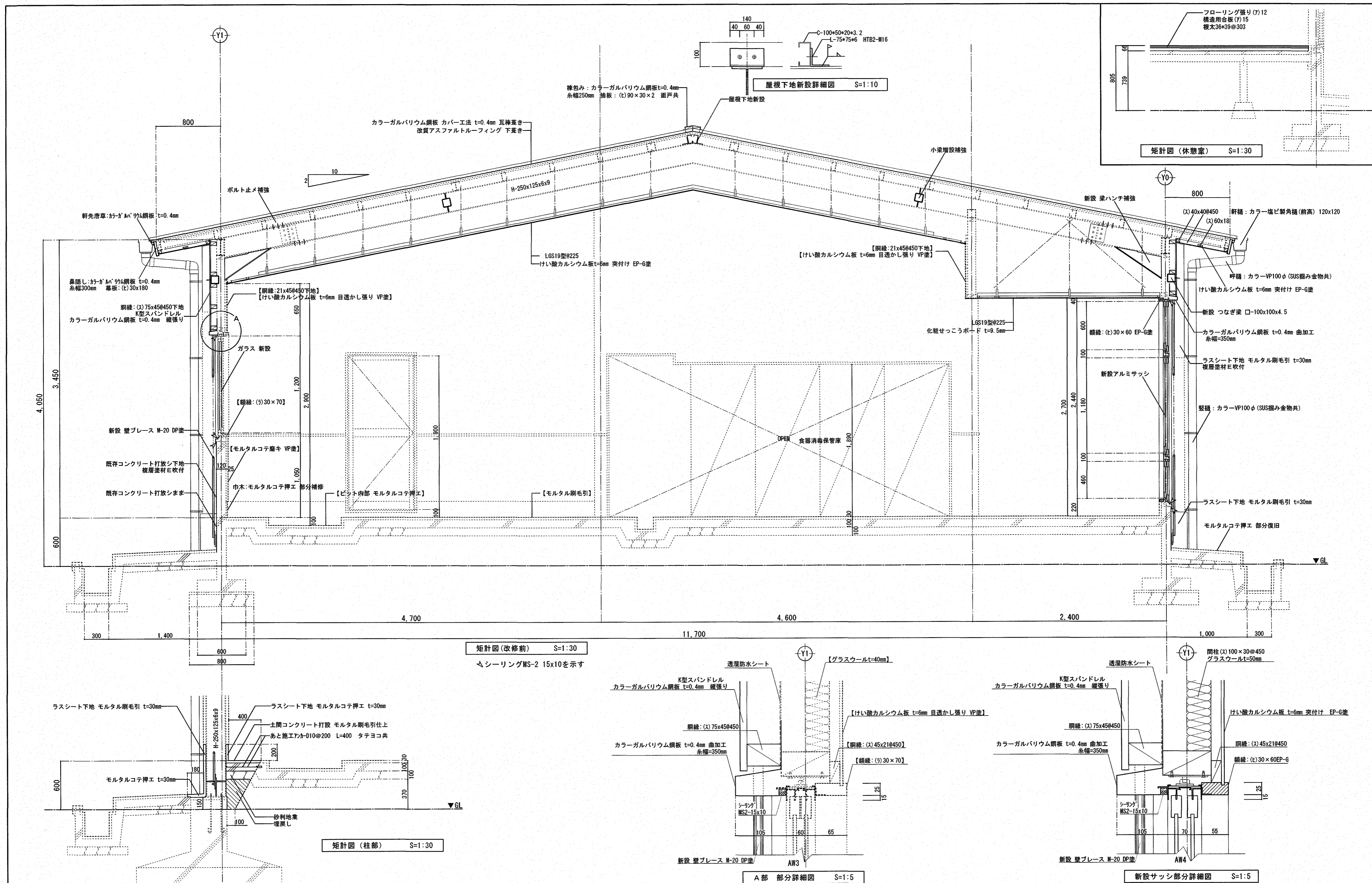
... 撤去範囲を示す。 【 】書きの仕上については、既存のままで改修対象外とする。  
 ... カッター入れ(モルタル)を示す。



矩計図(休憩室) S=1:30

摘要	高知市都市建設部公共建築課				工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No.	年月日	株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823)1088
	係	係長	課長補佐	課長					
						矩計図(改修前)	S=1:30	尾崎 健	

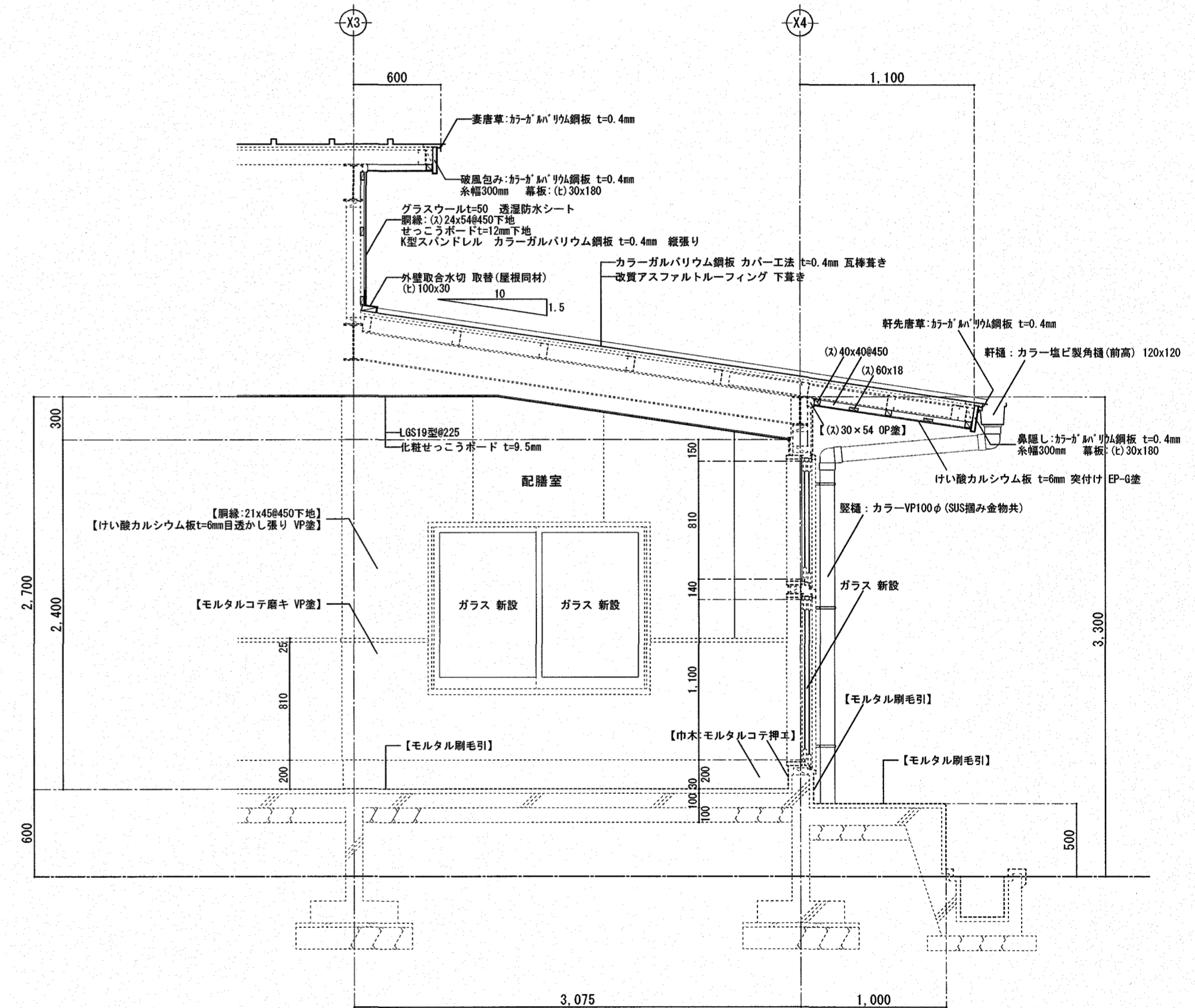
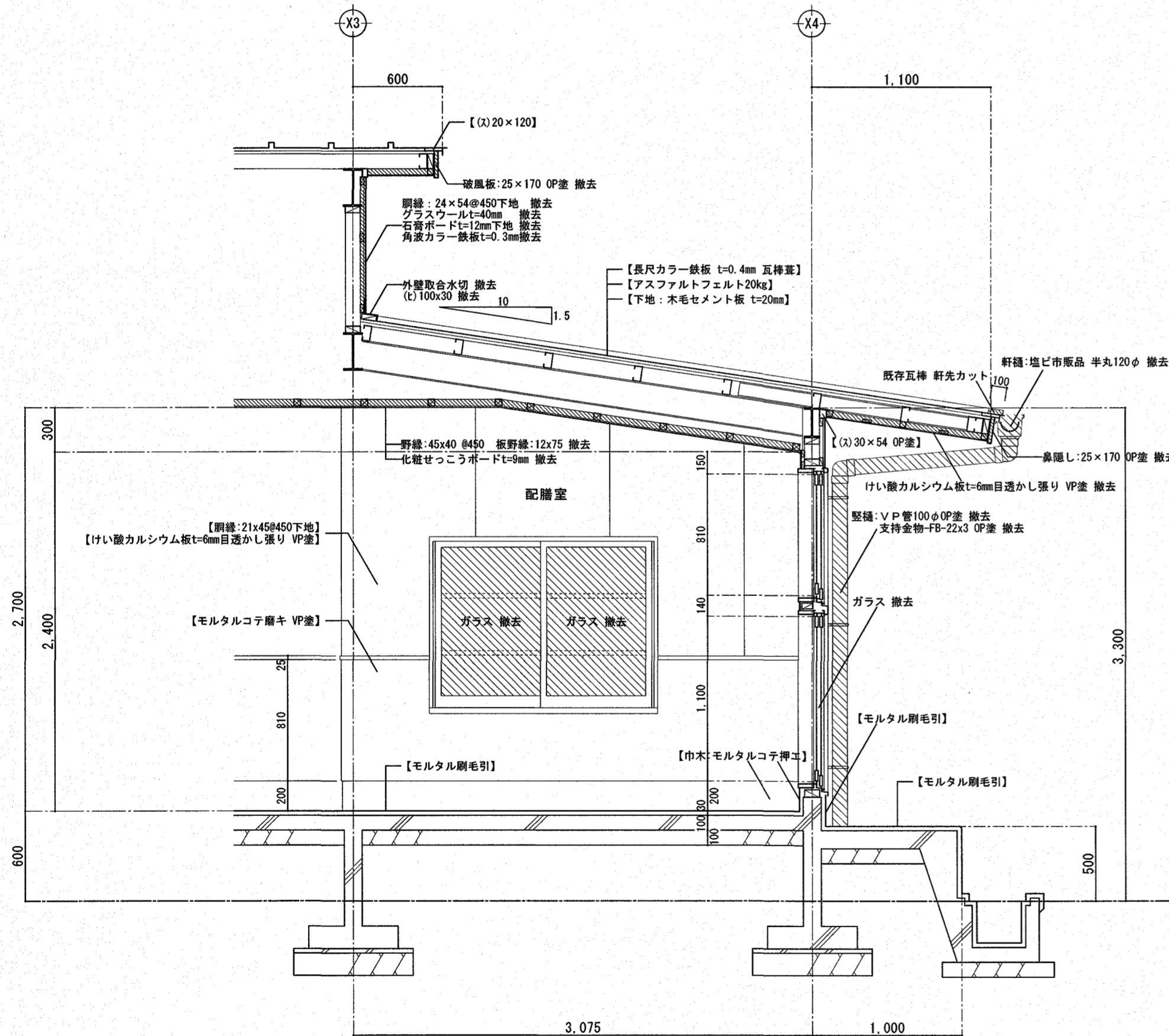
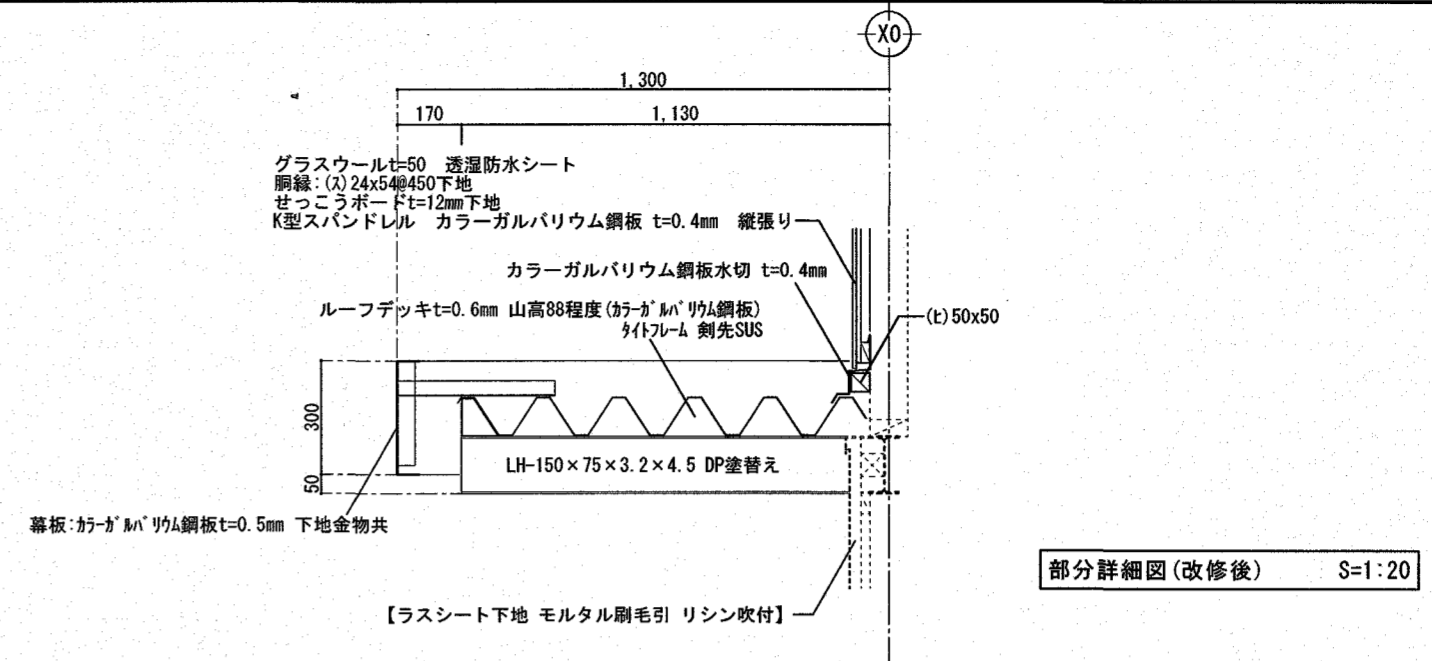
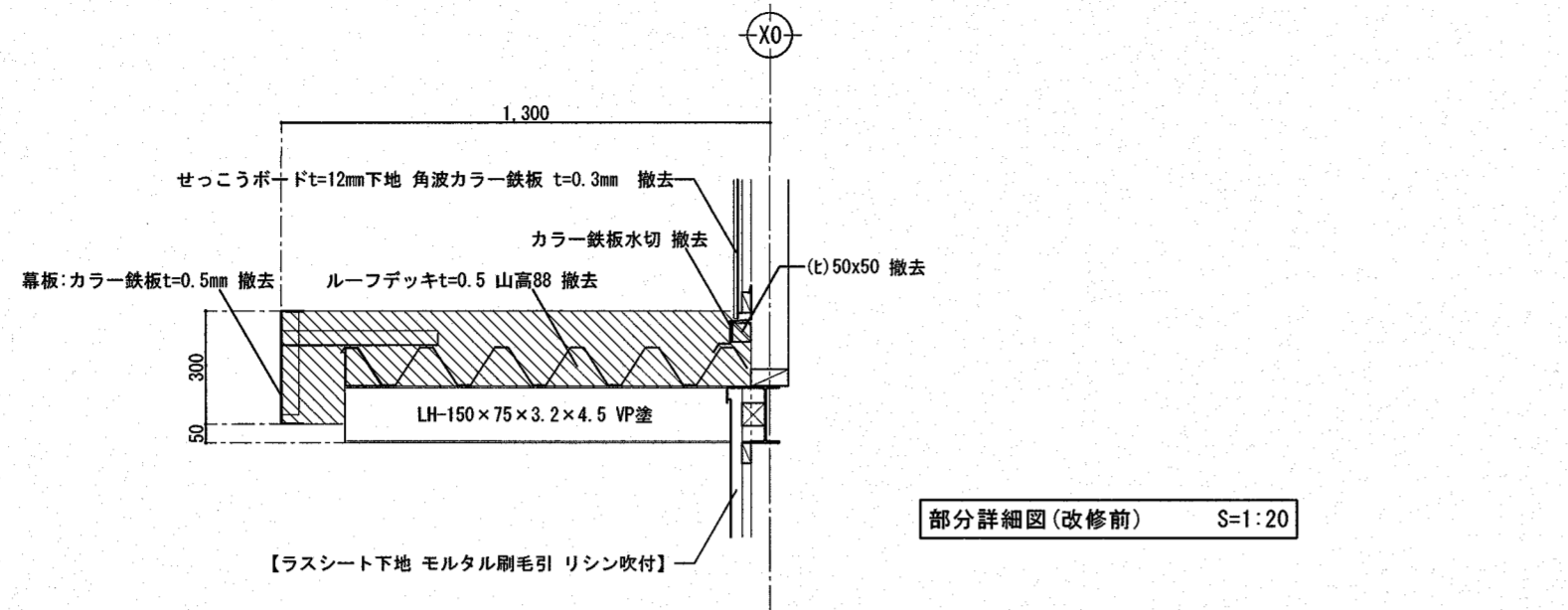




摘要	【 】書きの仕上については、既存のまま改修対象外とする。				高知市都市建設部公共建築課 係長 課長補佐 課長		工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No.	A-16	年月日		株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823) 1088
							縮尺	S=1:5-30	管理技術者	尾崎 健	一級建築士登録 高46	第5670号	

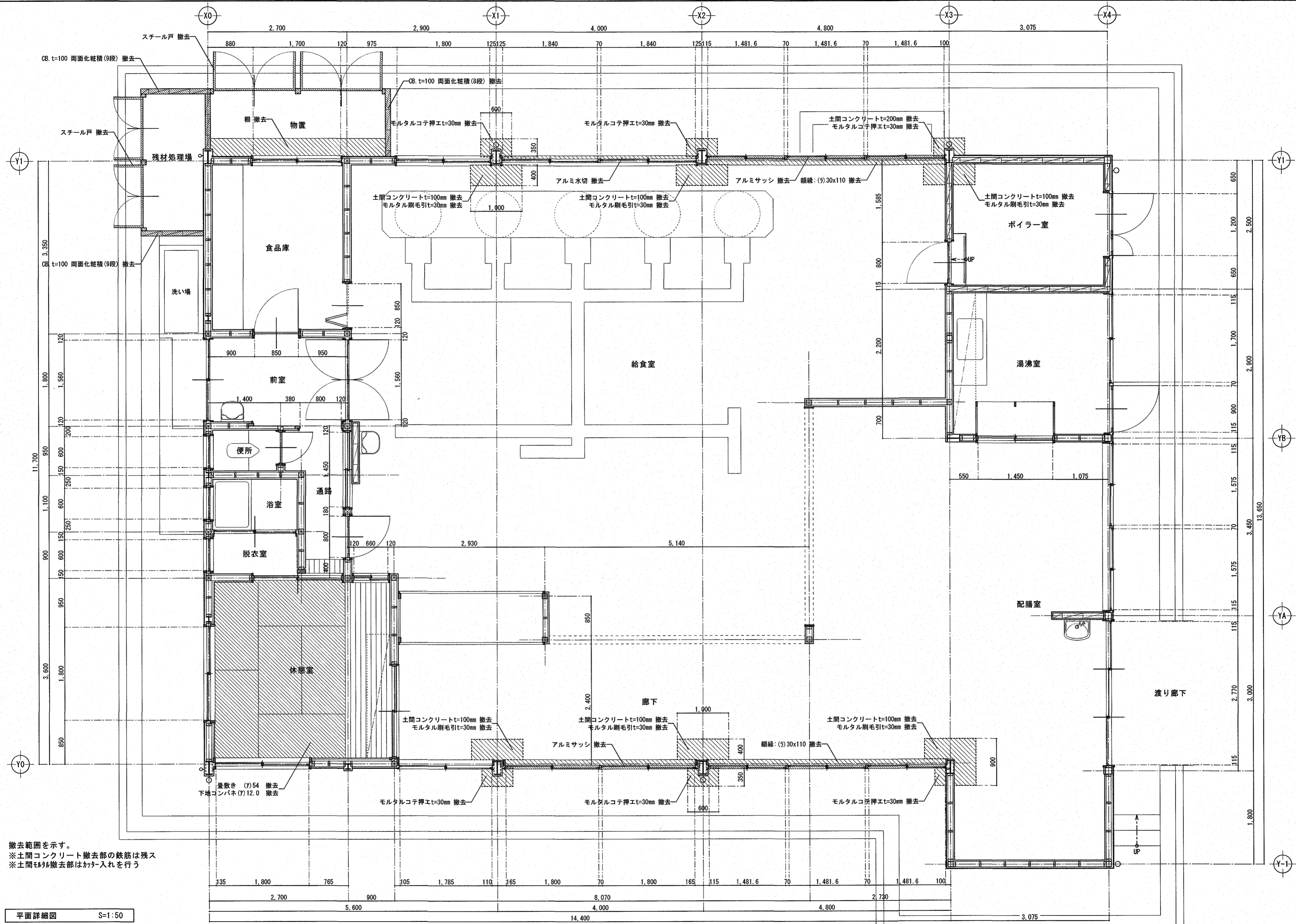
改修前

改修後



撤去範囲を示す。 【 】書きの仕上については、既存のまま改修対象外とする。

摘要	高知市都市建設部公共建築課				工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面No.	年月日	株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL代(823)1088
	係	係長	課長補佐	課長					
					断面詳細図		S=1:20・30	尾崎 健	

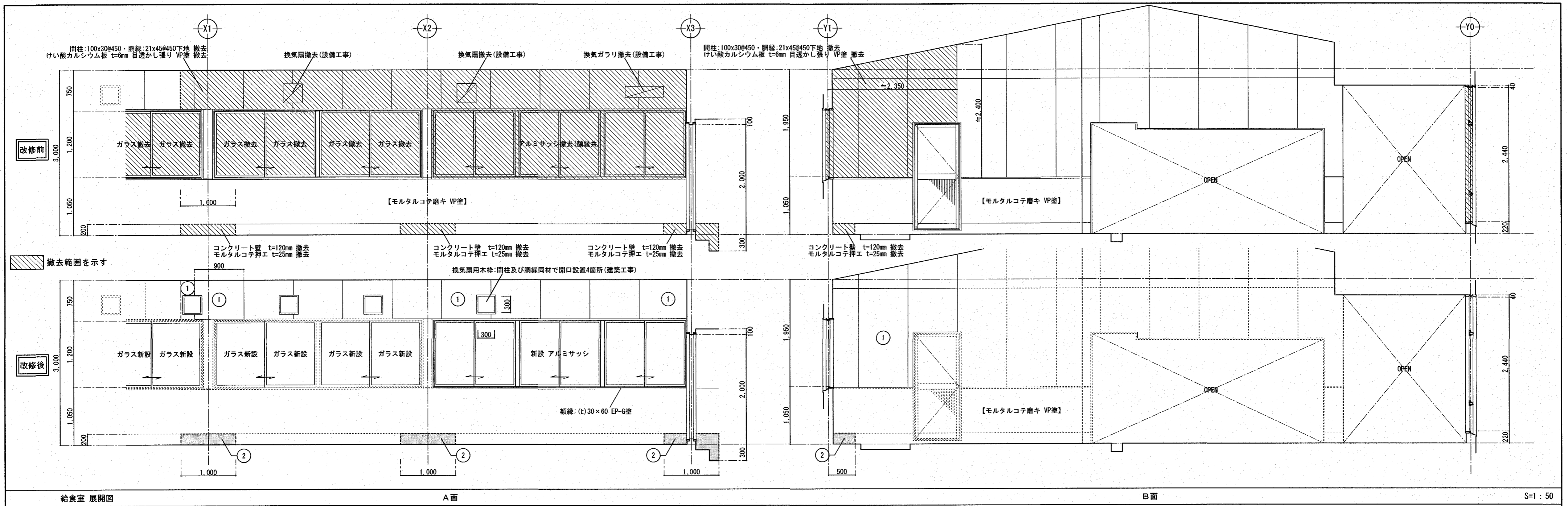


平面詳細図 S=1:50

撤去範囲を示す。  
 ※土間コンクリート撤去部の鉄筋は残す  
 ※土間モルタル撤去部はカッターを入れる

摘要	高知市都市建設部公共建築課 係長 藤村 課長補佐 藤村 課長				工事名 昭和小学校給食棟耐震補強工事 平面詳細図(改修前)	図面 No. A-18	年月日	 株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823)1088 一級建築士登録 第56670号 高46 尾崎 健 中嶋 新市
	縮尺 S=1:50		管理技術者	展開記号 A-B C				



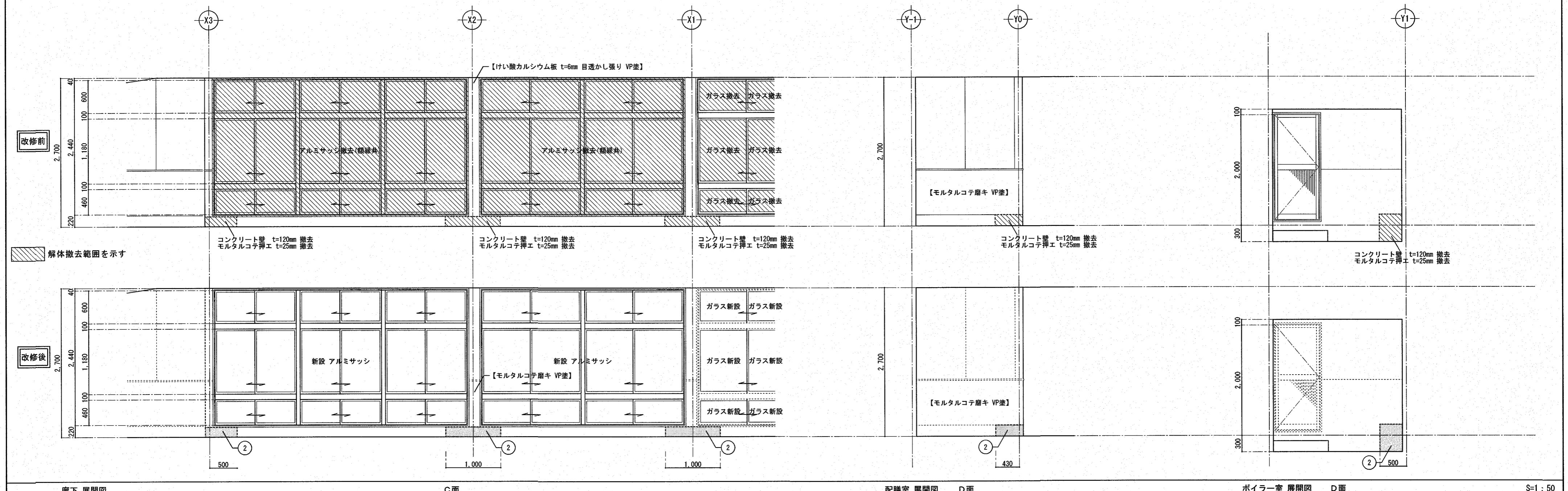


給食室 展開図

A面

B面

S=1:50



廊下 展開図

C面

配膳室 展開図

D面

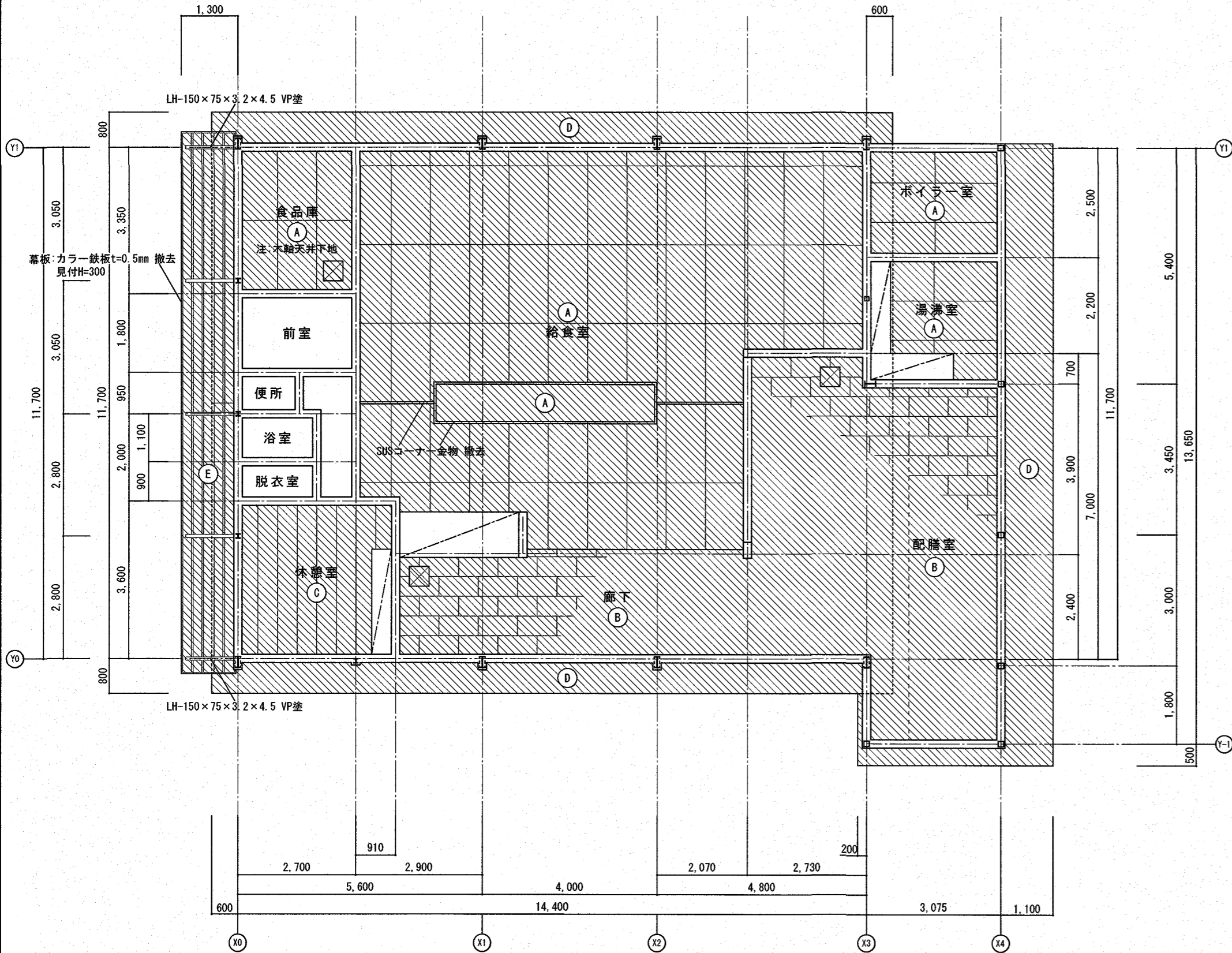
ボイラー室 展開図

D面

S=1:50

摘要	① けい酸カルシウム板 t=6mm 突付け EP-6塗	下地: 間柱-(X)100x30@450・胴縁-(X)21x45@450下地	高知市都市建設部公共建築課 係長 課長補佐 課長 田部 山本 西村	工事名 昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No. A-20	年月日	株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL (823)1088				
	② モルタルコテ押エ t=25mm	下地: コンクリート詰め t=120						縮尺 S=1:50	管理技術者 尾崎 健	第一級建築士登録 高46	第56670号 中嶋 新市
	③										

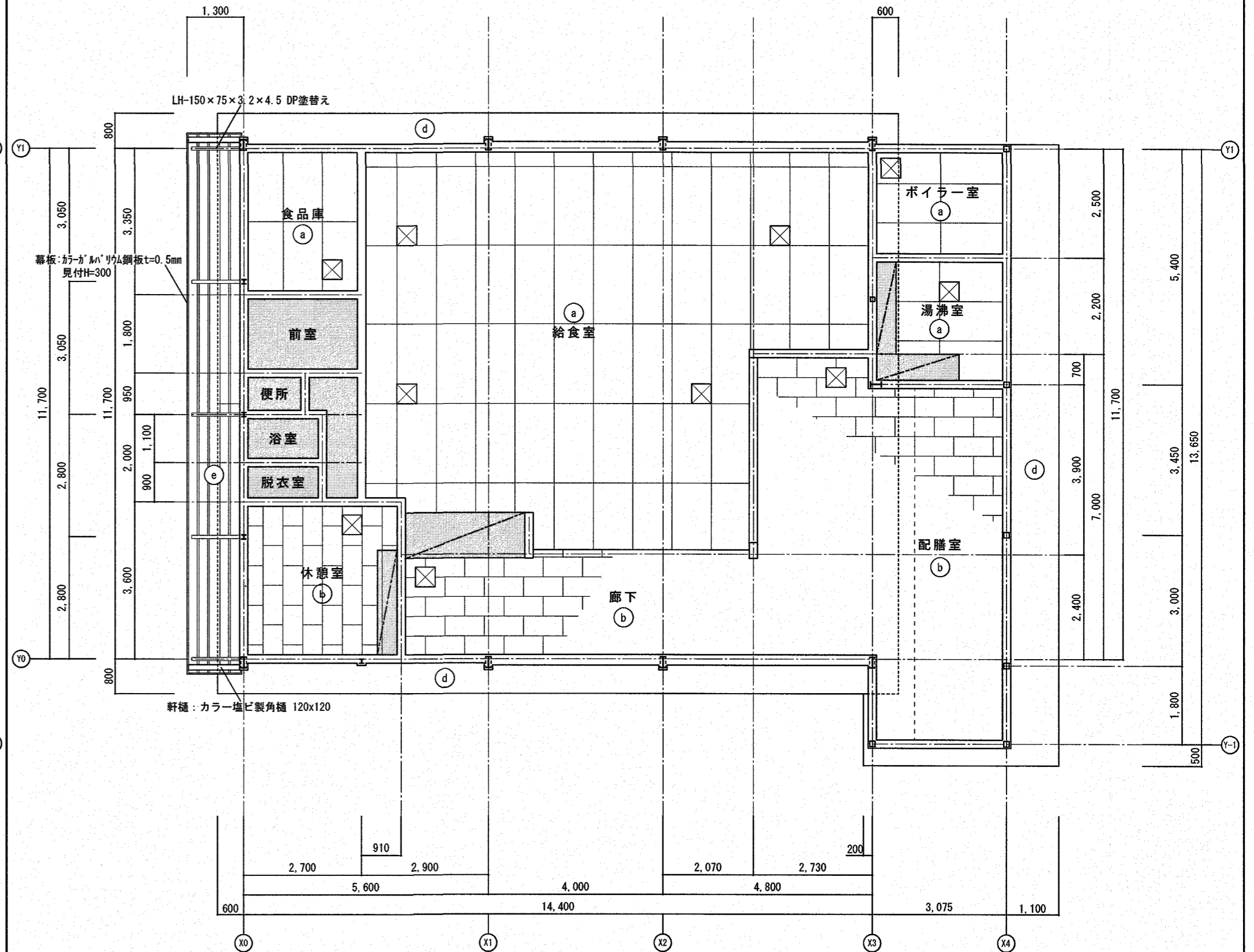
改修前



天井伏図 S=1:100 撤去範囲を示す

- A けい酸カルシウム板t=6mm目透かし張り VP塗 撤去 軽鉄天井地下共
- B 化粧せっこうボードt=9mm 撤去 木軸天井地下・鋼製吊ボルト共
- C 杉桁合板t=3mm 敷目地張り 撤去 木軸天井地下共
- D けい酸カルシウム板t=6mm目透かし張り VP塗 撤去 野縁(λ)40×40 @450共
- E ルーフデッキt=0.5 山高88 撤去

改修後



天井伏図 S=1:100 工事範囲外を示す

- a LGS19型@225下地 けい酸カルシウム板t=6mm 突付け EP-G塗
- b LGS19型@225下地 化粧せっこうボード t=9.5mm
- c —
- d 木野縁(λ)40×40@450・板野縁(λ)60×18下地けい酸カルシウム板t=6mm 突付け EP-G塗
- e ルーフデッキt=0.6 山高88程度(カラー鋼板) タイトフレーム 剣先SUS

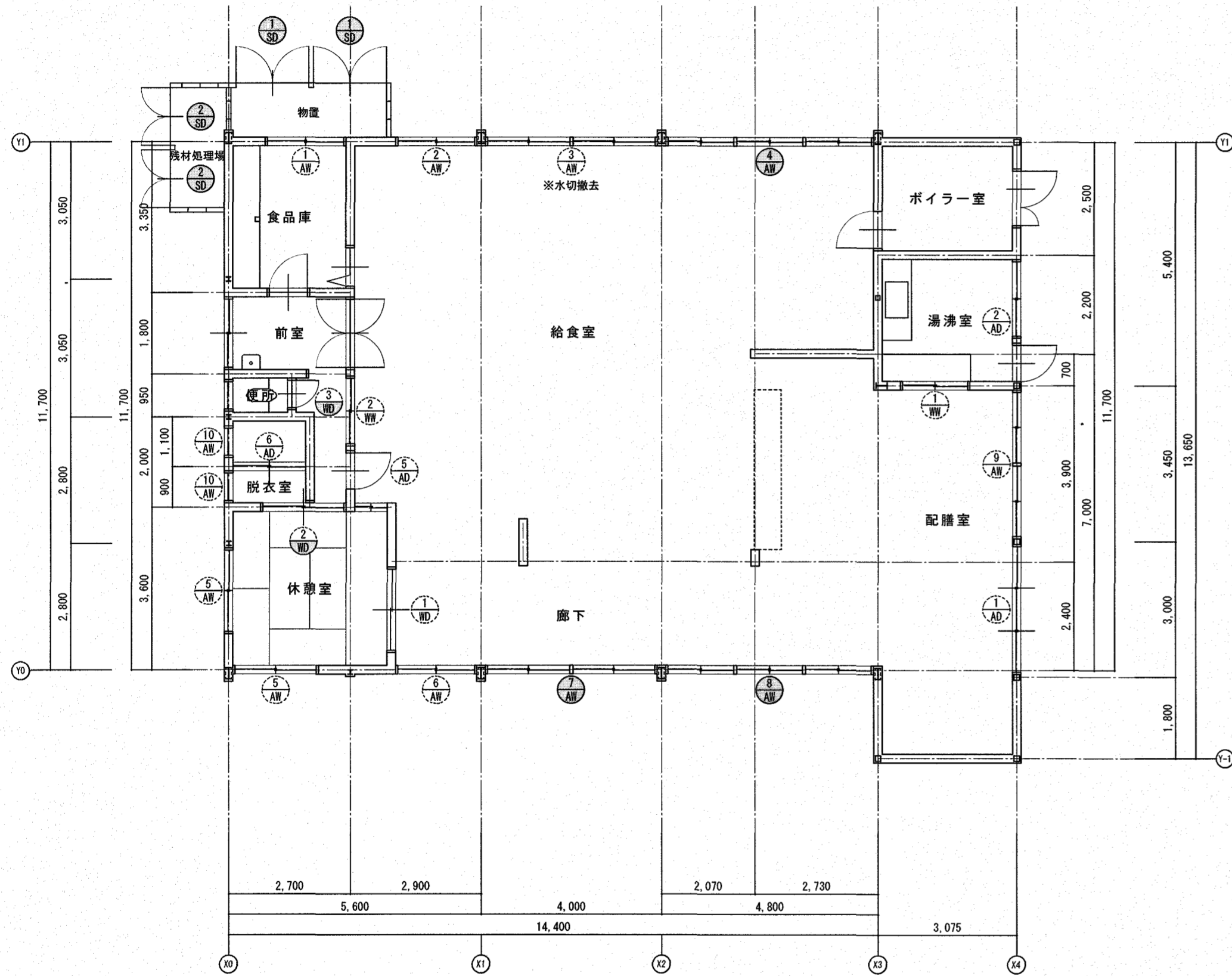
天井点検口:アルミ製450×450撤去、新設を示す  
 内壁-天井の廻り縁及び見切りは特記なき限り「塩ビ製コ型」撤去、新設とする  
 改修後LGSは水平補強-縦横方向に1.8m程度・斜め補強-縦横方向に3.6m程度配置する事

高知市都市建設部公共建築課  
 係長 課長補佐 課長

工事名 昭和小学校給食棟耐震補強工事  
 天井伏図

図面 No. A-21  
 年月日 管理技術者 尾崎 健  
 株式会社 連合設計事務所  
 高知市比島町4丁目6番10号 TEL.代(823)1088  
 一級建築士登録 第55670号 高46 中嶋 新市

改修前

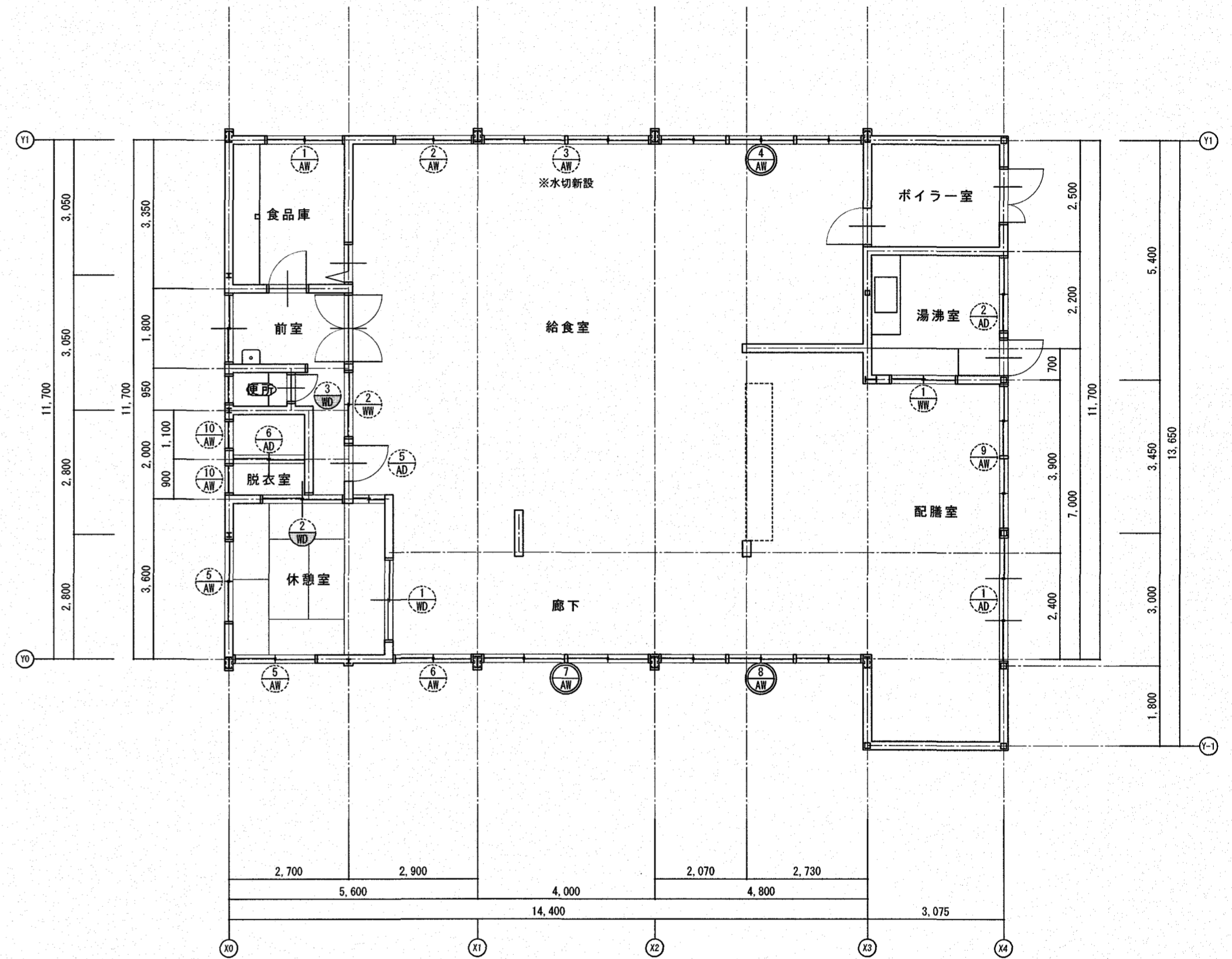


建具伏図 S=1:100

【凡例】

- 撤去建具を示す
- ガラス撤去建具を示す
- 戸板撤去建具を示す

改修後



建具伏図 S=1:100

【凡例】

- 新設建具を示す
- ガラス新設建具を示す
- 戸板新設建具を示す

摘要

高知市都市建設部公共建築課  
 係長 田部 課長補佐 西村 課長 杉本

工事名 昭和小学校給食棟耐震補強工事  
 建具伏図

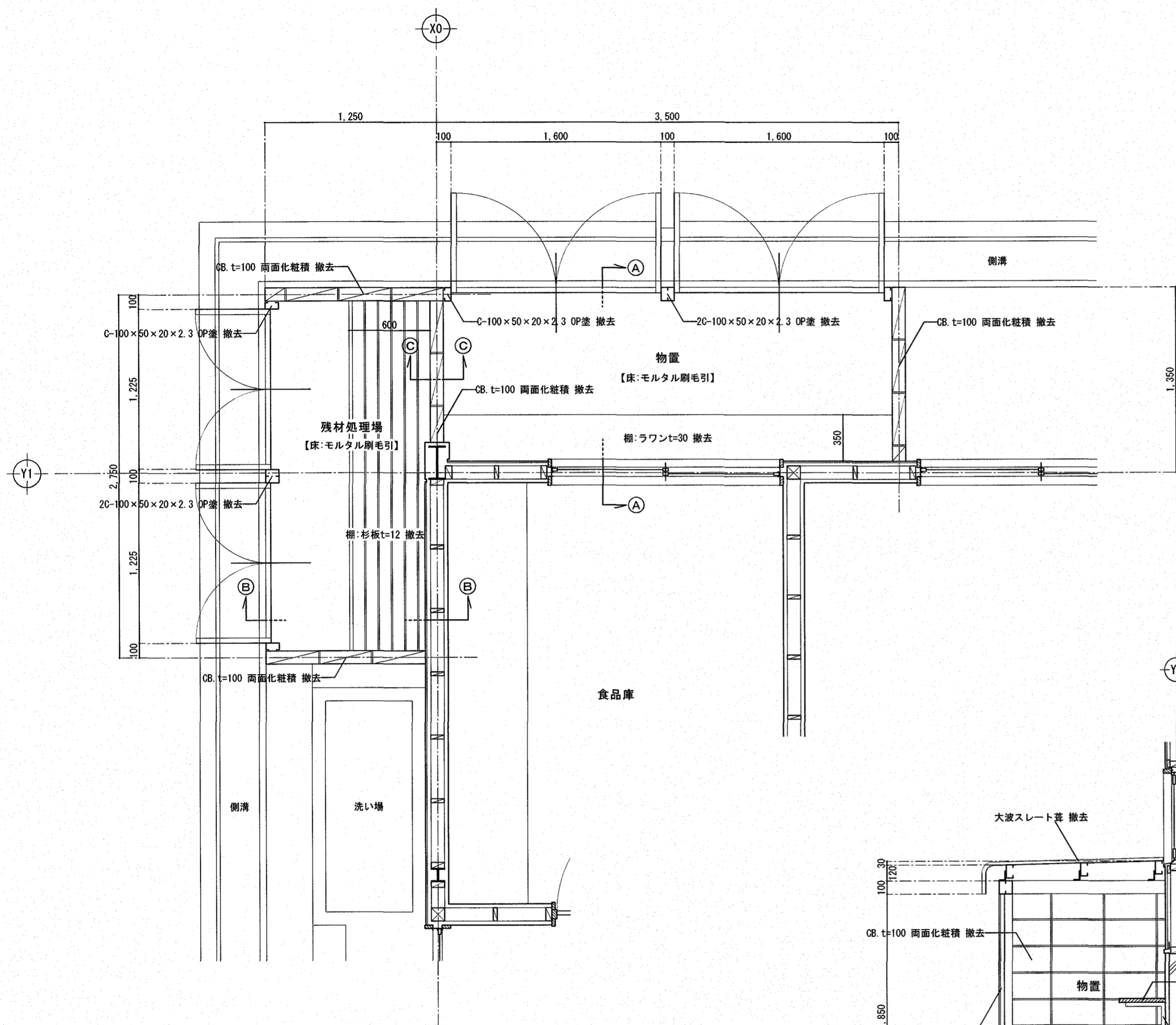
図面 No. A-22  
 縮尺 S=1:100

年月日  
 管理技術者 尾崎 健

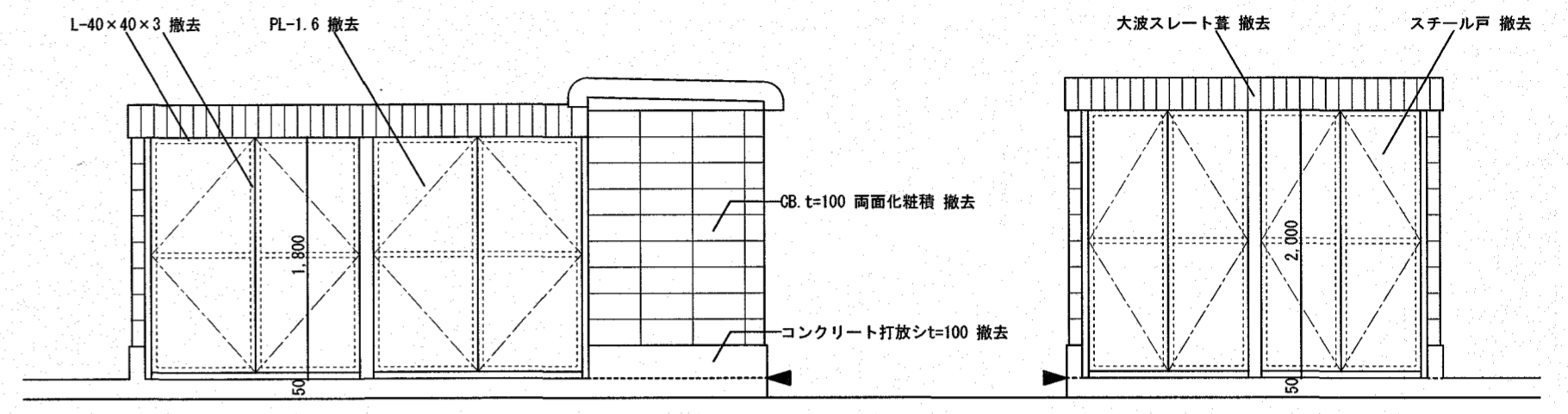
株式会社 連合設計事務所  
 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823)1088  
 一級建築士登録 高46 第56670号 中嶋 新市



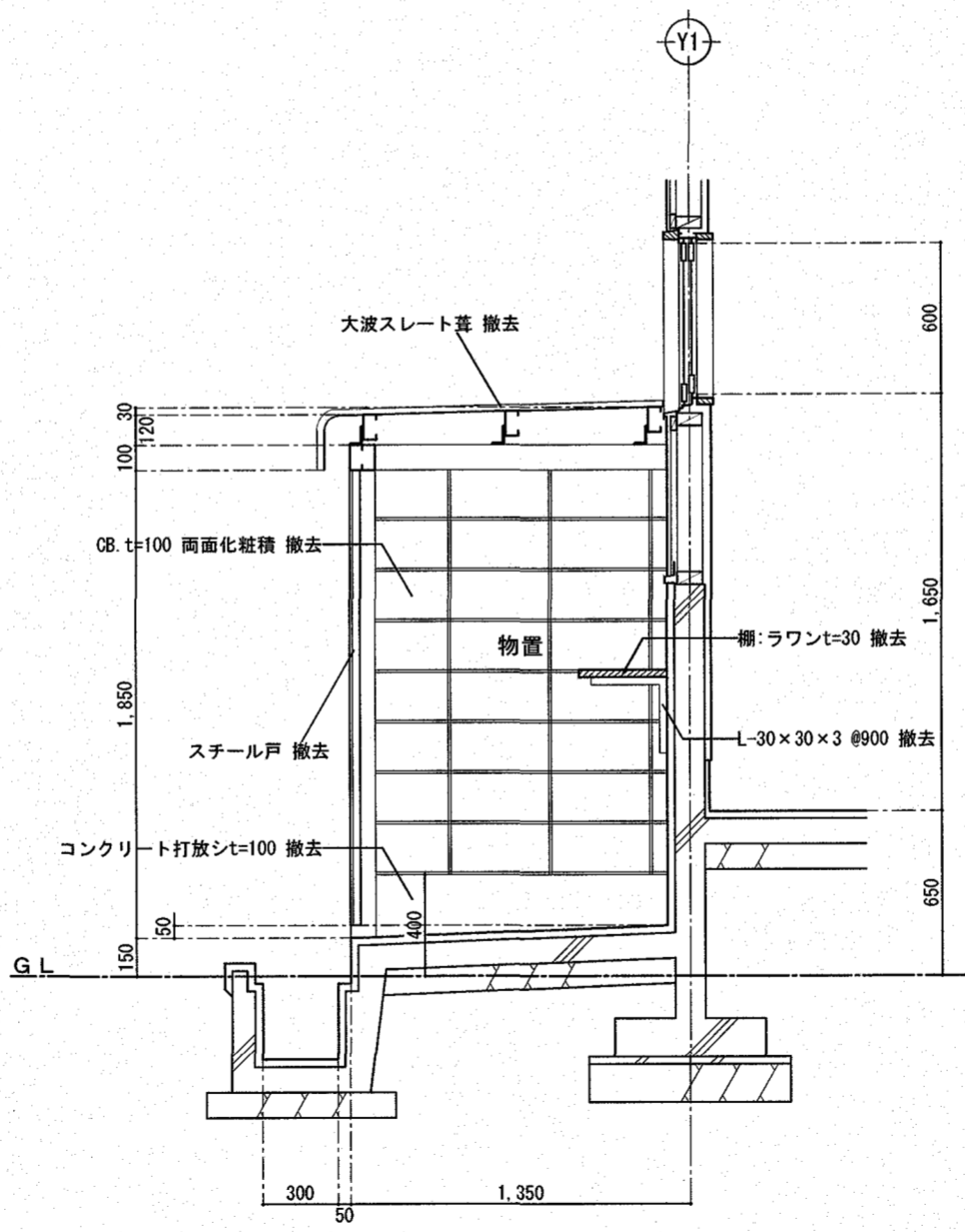




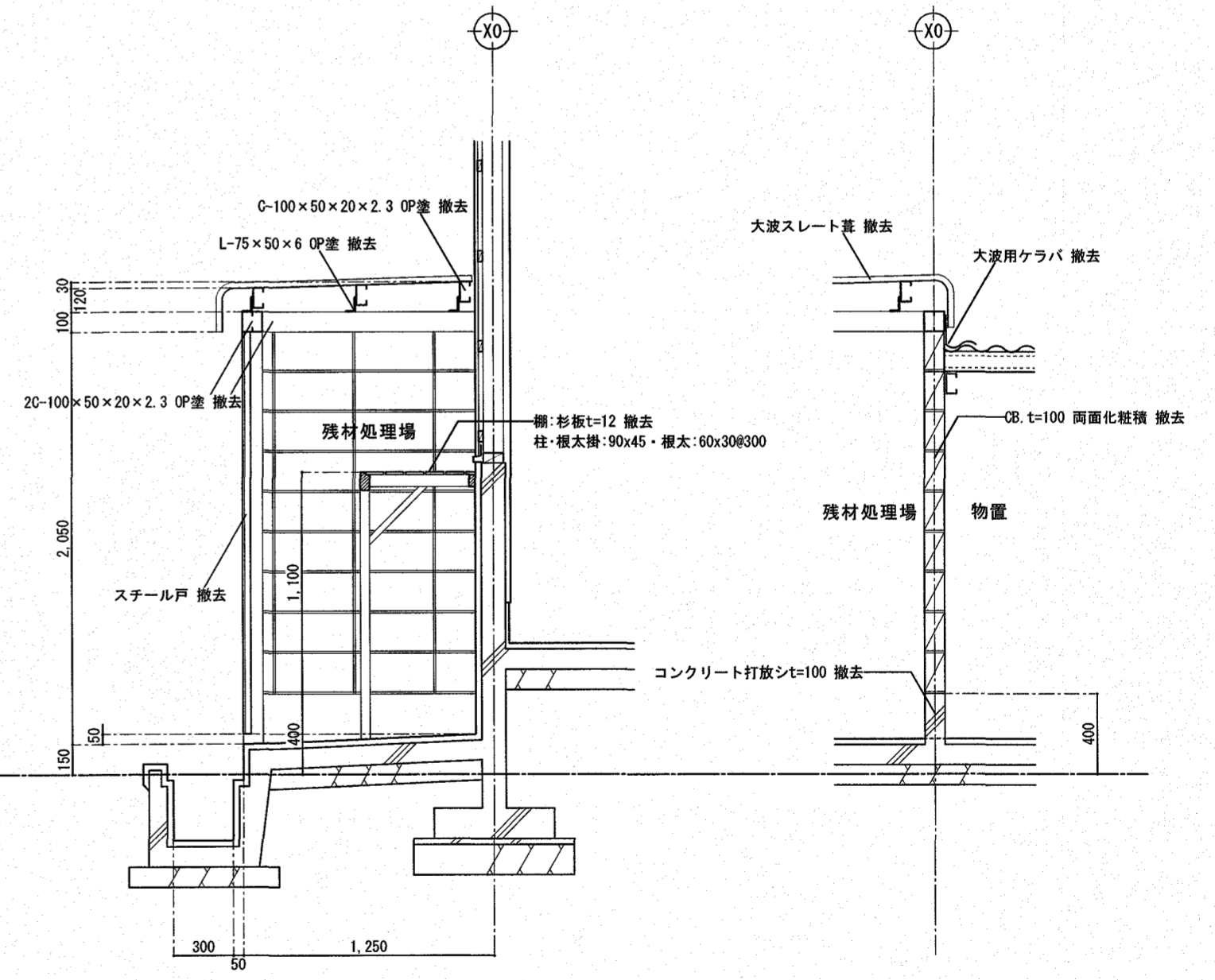
平面詳細図 S=1:30



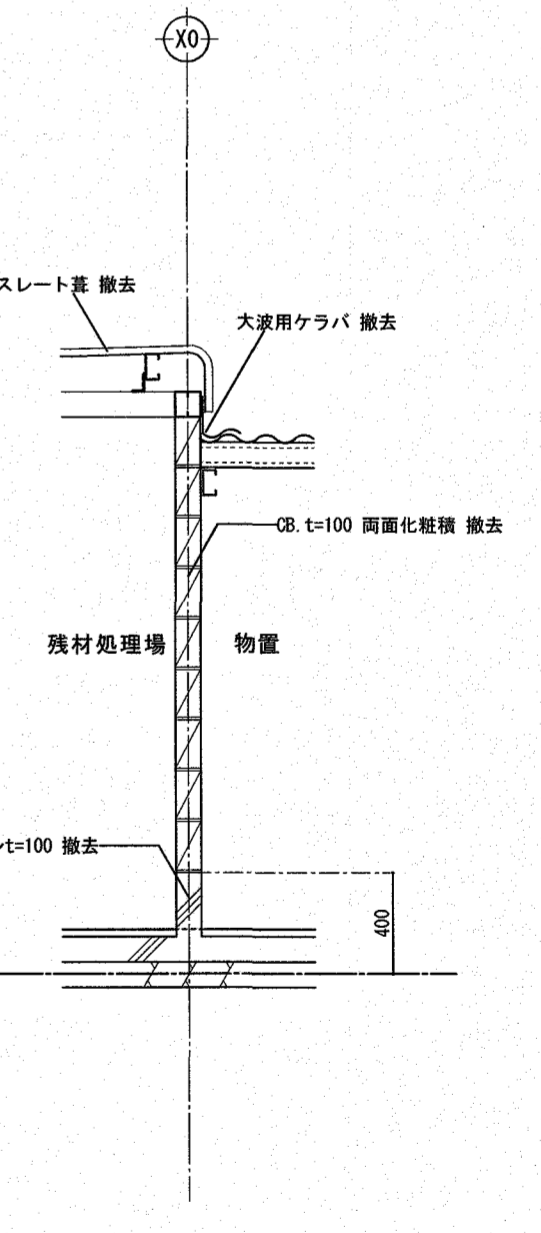
物置 立面図 S=1:50 ▼ カッター入れ (モルタル) を示す 残材処理場 立面図 S=1:50



A-A断面図 S=1:30



B-B断面図 S=1:30



C-C断面図 S=1:30

摘要	高知市都市建設部公共建築課 係長 田部 課長補佐 松本 課長 岡村				工事名 昭和小学校給食棟耐震補強工事 物置・残材処理場詳細図	図面 No. A-24	年月日	株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823)1088
	縮尺 S=1:30・50							



T型継手の開先標準

H (縦型アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$	$t \leq 6$	$t \leq 12$	$t \leq 12$
$6 < t \leq 19$	$6 < t \leq 19$	$12 < t \leq 22$	$12 < t \leq 22$
$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$	$22 < t \leq 40$	$22 < t \leq 40$
$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$	$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$	$D1 = (t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$	$D1 = (t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$

材目が異なる場合の開先標準

H (縦型アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	3 (両面溶接)
$6 < t \leq 40$	$6 < t \leq 19$	$19 < t \leq 40$
$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$	$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$	$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$

かど継手の開先標準

H (縦型アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$	$t \leq 6$	$t \leq 12$	$t \leq 12$
$6 < t \leq 19$	$6 < t \leq 19$	$12 < t \leq 19$	$12 < t \leq 19$
$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$	$19 < t \leq 40$
$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$	$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$	$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$	$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$

隅肉溶接の開先標準

H (縦型アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	3 (両面溶接)
$t \leq 16$	$t \leq 16$	$16 < t \leq 40$
$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$	$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$	$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$

隅肉溶接のサイズ

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接の開先標準

H (縦型アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$12 \leq t \leq 40$	$16 \leq t \leq 40$
$D1 = 2(t-2)/3$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$	$D1 = (t-6)/2$ $D2 = (t-6)/2$ $1/4 t \leq S \leq 10$

フレア溶接の開先標準

H (縦型アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)			
1 (丸筒等片面溶接)	2 (丸筒等両面溶接)	3 (軽量形V形溶接)	4 (軽量形傾し形溶接)
$d/2 \leq t/2$	$d/2 \leq t/2$	$t \geq 30$ のとき $S = 1$ $t < 30$ のとき $S = 3$	$t \geq 30$ のとき $S = 1$ $t < 30$ のとき $S = 3$

1-3 鋼管分岐継手詳細

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。

適用管径 3.2mm ≤ t ≤ 10mm  
交角 30° ≤ θ ≤ 150°

D-断面図  
本管の管軸と支管の管軸とは一致させること。

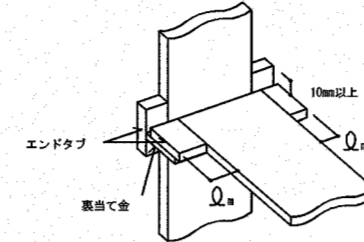
A断面図  
B断面図  
C断面図

1-4 鉄骨溶接施工

(a) フィラープレートの鋼材種別はSS400とする。

(b) エンドタブ

- エンドタブの形状は母材と同様・同開先のものとする。
- エンドタブ・裏当て金・スプライスプレートの鋼材の種別及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。

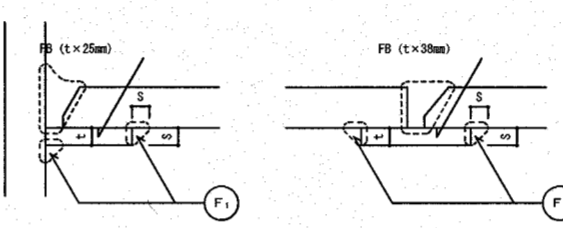


溶接方法	Q <sub>235</sub>
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

(c) 裏当て金

裏当て金の溶接

- 裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ距離から10mm以内の位置には行ってはならない。
- 完全溶込み位置溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。



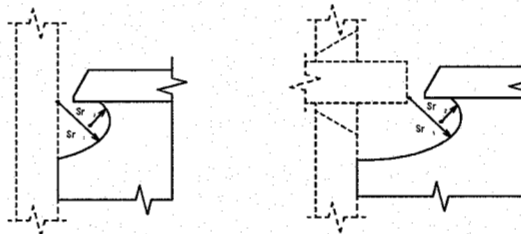
裏当て金の厚さ (単位: mm)	
溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ (単位: mm)	
裏当て金の厚さ	S
t ≤ 9	5

(d) スカラップ

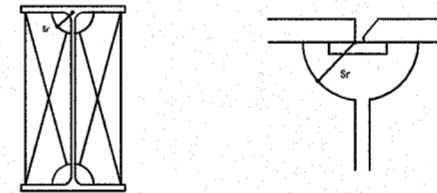
改良型スカラップ

- スカラップ半径Rは35mmとする。Srは10mmとする。
- スカラップ内面の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、継合部は滑らかに仕上げよ。



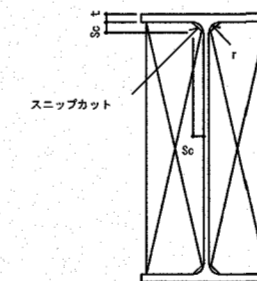
従来型スカラップ

- スカラップ半径Rは35mmとする。



(e) スニップカット

- スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



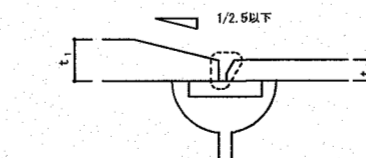
スニップカットの寸法

- ただし、既設形鋼のスニップカットについては、S<sub>0</sub> = 2tにより求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
S <sub>0</sub>	10	12	14	15

(f) 溶接部分の検査

- 完全溶込み溶接を行う部分の板厚の2倍以下の検査距離を定める場合



(g) 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	バク残温度 (°C)
40X線鋼	JIS Z 3211, 3212	40以下	350以下
	YBP-11, 15		
	YBP-18, 19		
	JIS Z 3214		
490X線鋼	YBA-S0M, S0P	40以下	350以下
	JIS Z 3212		
	YBP-11, 15		
	YBP-18, 19		
520X線鋼	YBP-18, 19	30以下	250以下
	YBP-11, 15		
400X線STR, BCP及びRCP	YBP-18, 19	40以下	350以下
490X線STR, BCP及びRCP	YBP-18, 19	30以下	250以下

摘要

高知市都市建設部公共建設課

係長 課長補佐 課長



工事名

昭和小学校給食棟耐震補強工事

構造特記仕様書-2

図面 No.

B-02

年月日

管理技術者

尾崎 健



株式会社 連合設計事務所

高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823)1088

一級建築士登録

高46

第55670号

中嶋 新市

耐震補強仕様書

1 補強工事の内容

1-1 工事内容

下記補強工法（本工事で採用の工法に全て○印を付ける）

- ・ 場所打ち鉄筋コンクリート造耐震壁設置
- ・ 鉄骨枠付K型プレスの設置
- ・ 炭素繊維シートによる補強
- ・ 構造スリット施工
- その他 （ 梁ハンチ補強・梁継手補強・鉛直ブレース・緊ぎ材・小梁増設 ）

1-2 工事計画

1) 基本事項

本補強工事は、既存の構造体に対して前項耐震補強を行うことにより、耐震性能の向上と構造体の改善を図るものであり、補強部材と既存構造部材の接合が極めて重要である。

2) 施工計画書

施工計画は、設計において想定している補強効果が確実に得られるように、設計主旨を理解のうえ作製する。


3) 留意事項

- (1) 躯体寸法、階高及びスパン寸法その他は実測による。
- (2) あと施工アンカー位置は、予め鉄筋探査機等で躯体の鉄筋位置を確認し現地にマーキングするとともに、施工図等に記載する。
- (3) 補強部材と既存コンクリート部位との接合部は、十分目荒らし又ははつりを行い、一体化を図る。
- (4) 騒音、粉塵、汚染などの支障の及ぶ範囲をできるだけ少なくする。
- (5) 既設の配管、配線、及び器具などを調査し損傷を与えないように配慮する。必要に応じ養生を行う。
- (6) 建物使用者の安全確保について万全を期す。
- (7) 補強に伴う既存仕上げ及びコンクリート等の除去、解体等は最小限必要な範囲にとどめ、残存部分を損傷しないように十分注意する。  
但し、仕上等の除去範囲について設計図に明示がある場合は、この限りでない。

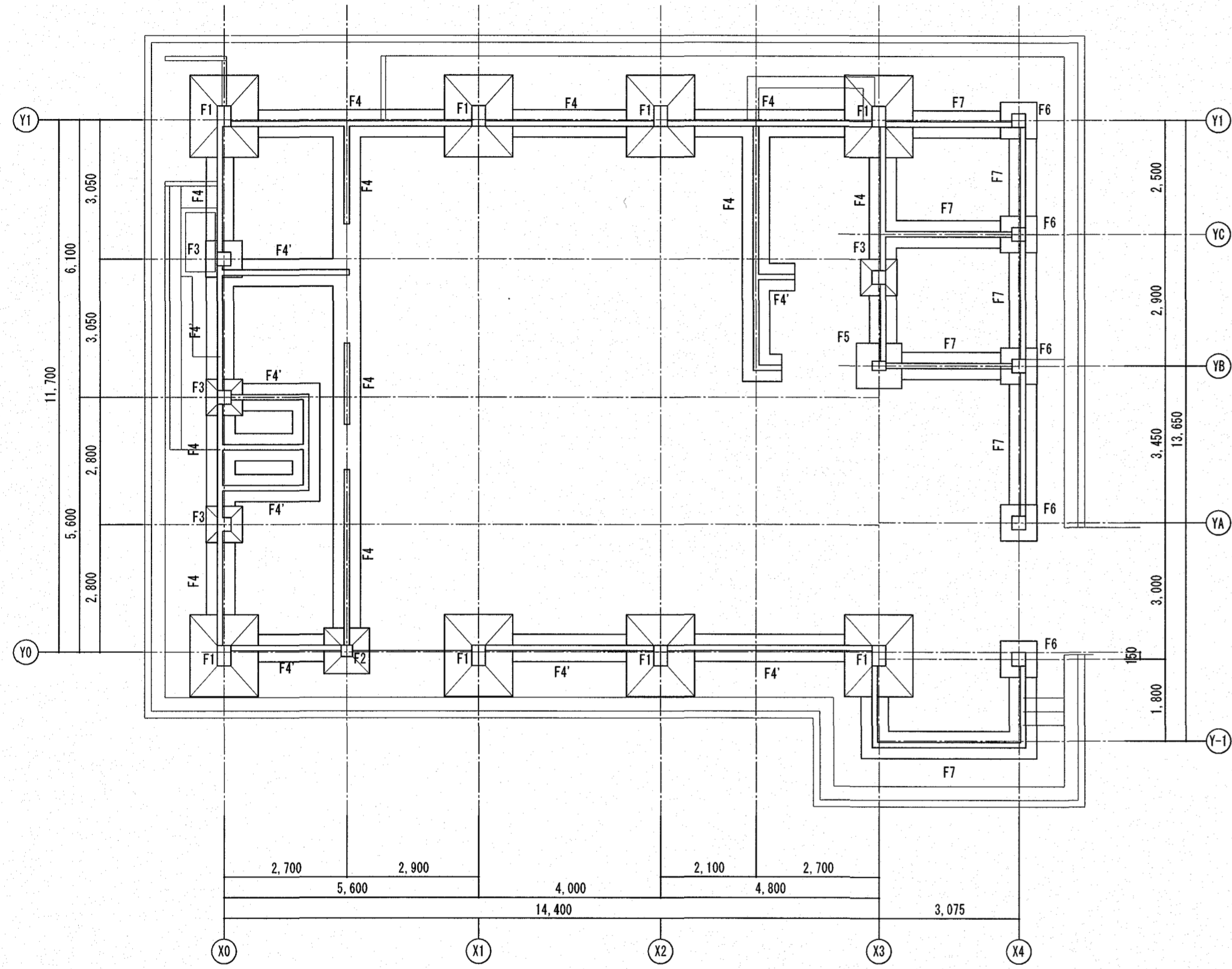
2 耐震補強工事

2-1 使用材料

- 1) コンクリート Fc=21
- 2) 鉄筋 SD295
- 3) 鋼材 SN400B、STKR400、JIS ターンバックル筋違
- 4) 高力ボルト F10T

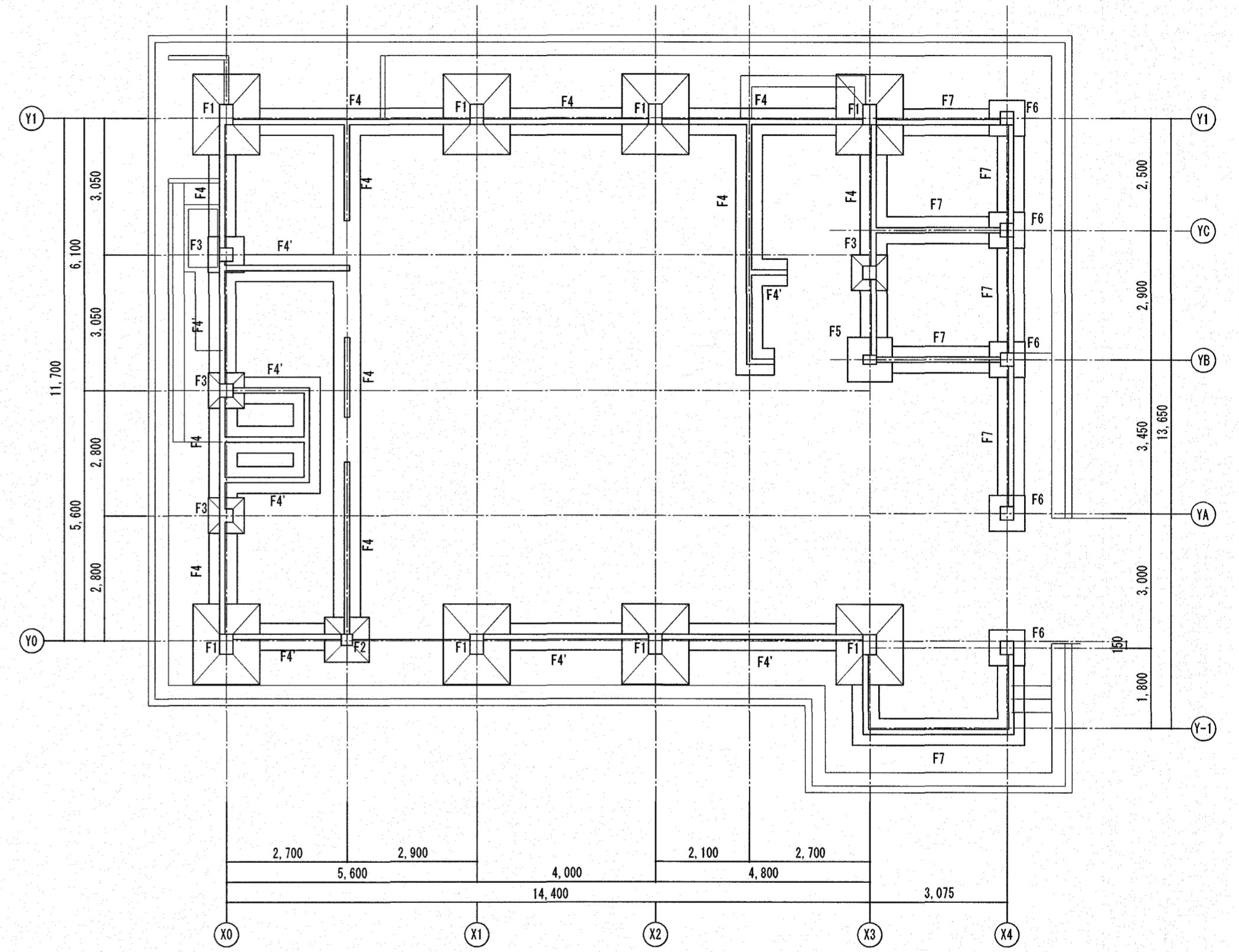
摘要	高知市都市建設部公共建築課				工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No. B-03	年月日	株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823)1088
	係	係長	課長補佐	課長					
	   				構造特記仕様書-3				

— 現状 —



基礎伏図 1:100

— 改修 —

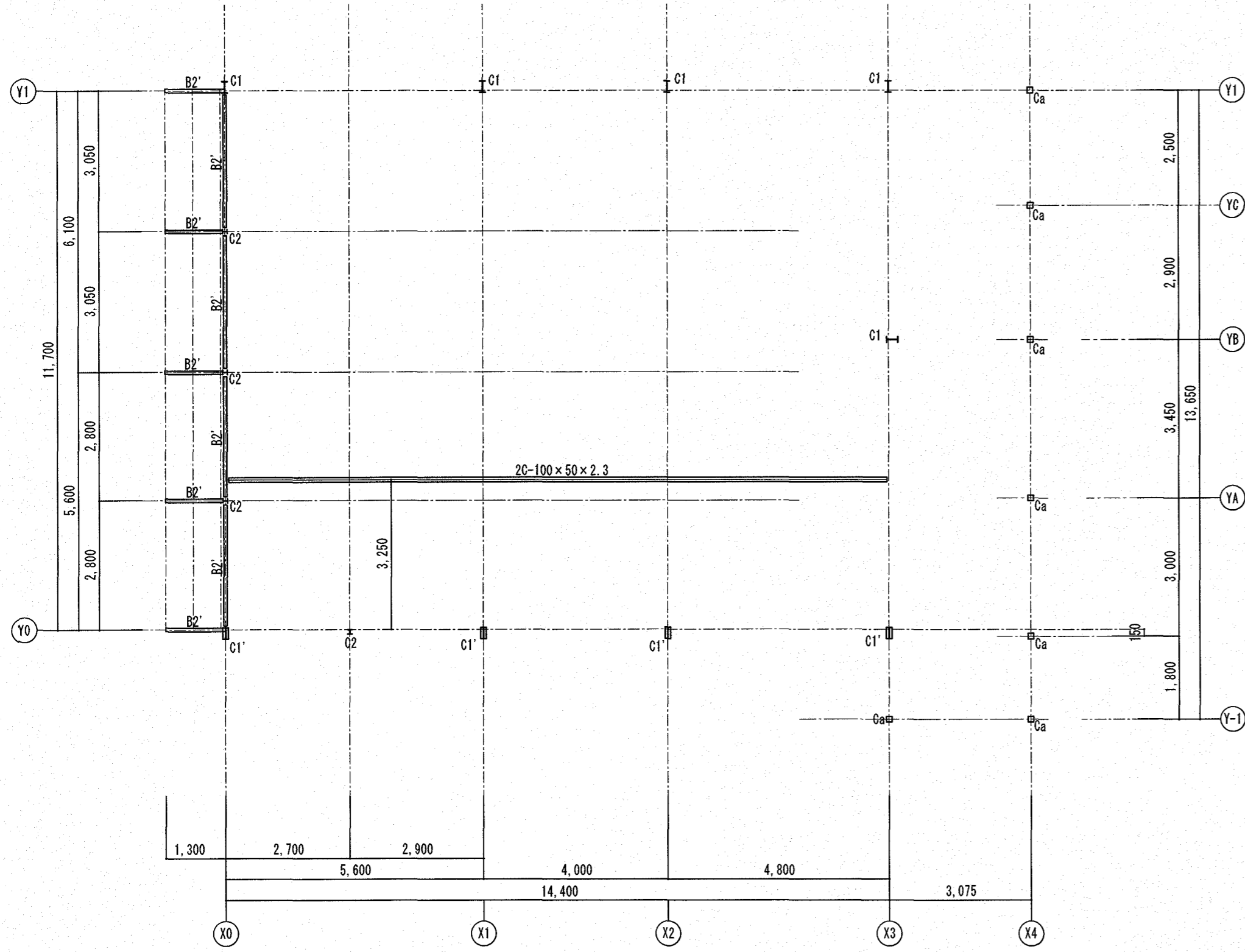


基礎伏図 1:100

摘要

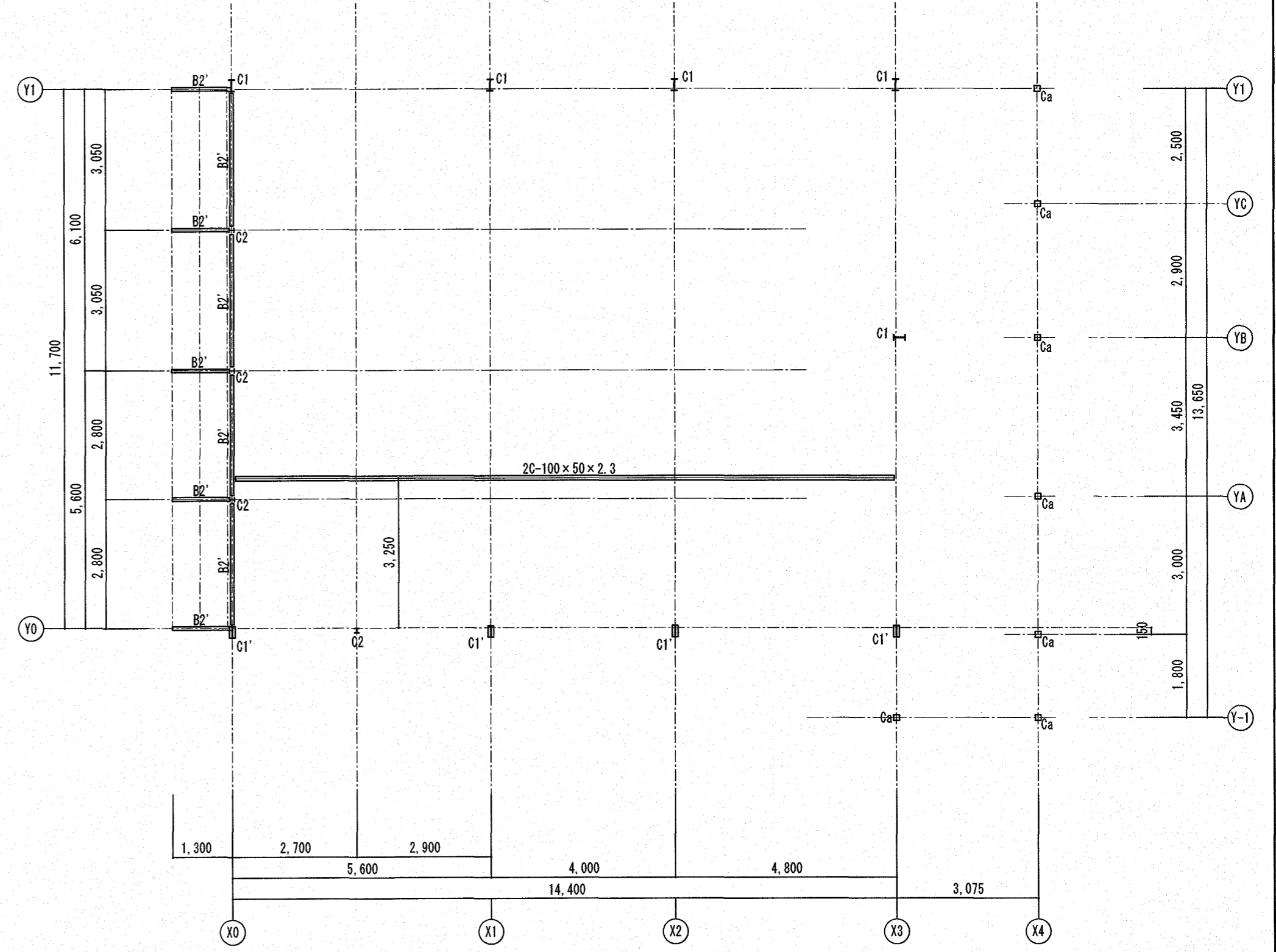
高知市都市建設部公共建築課		工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No.	年月日	株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823)1088
係長	課長補佐					
		基礎伏図		S=1:100	尾崎 健	高46 中嶋 新市

— 現状 —




柱 伏 図 1 : 100

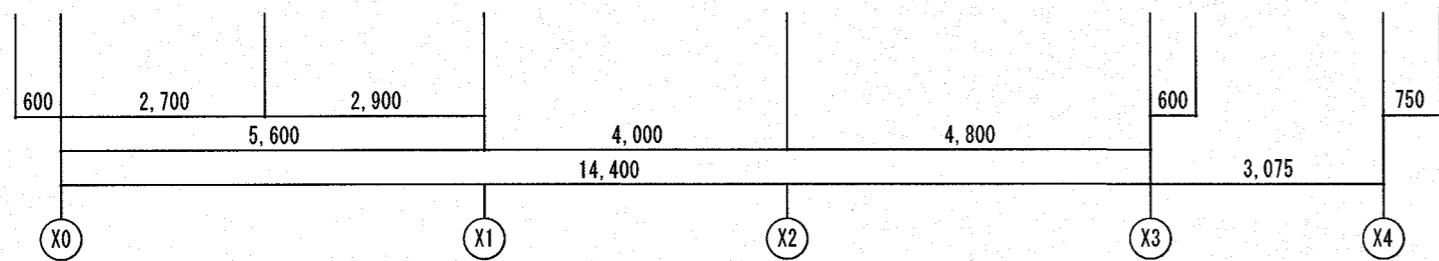
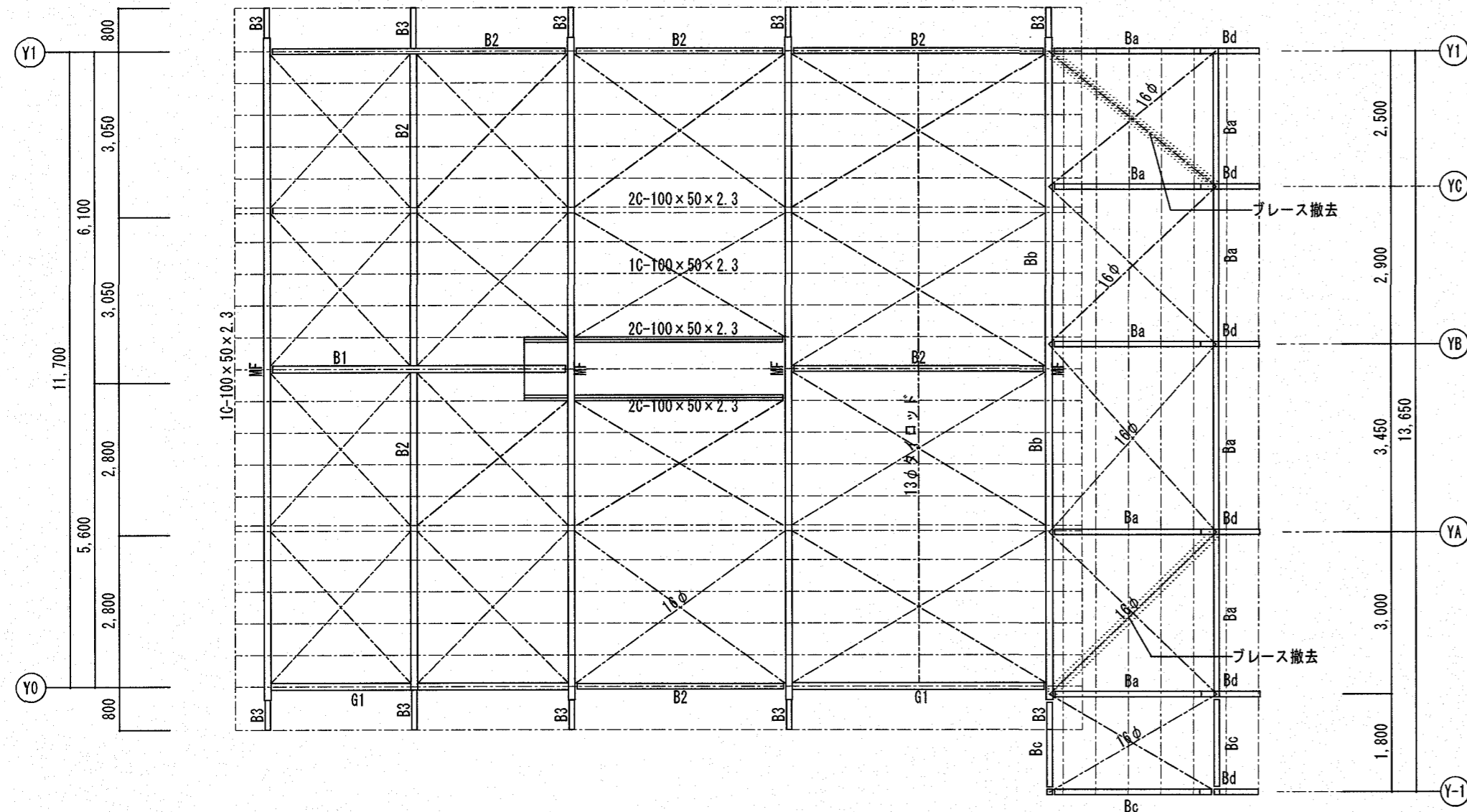
— 改修 —



柱 伏 図 1 : 100

摘 要	高知市都市建設部公共建設課				工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No.	年月日	 株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL.代(823)1088
	係長	係長	課長補佐	課長			B-05	管理技術者	
					柱伏図	縮尺	尾崎 健	高46	中嶋 新市
						S=1:100			

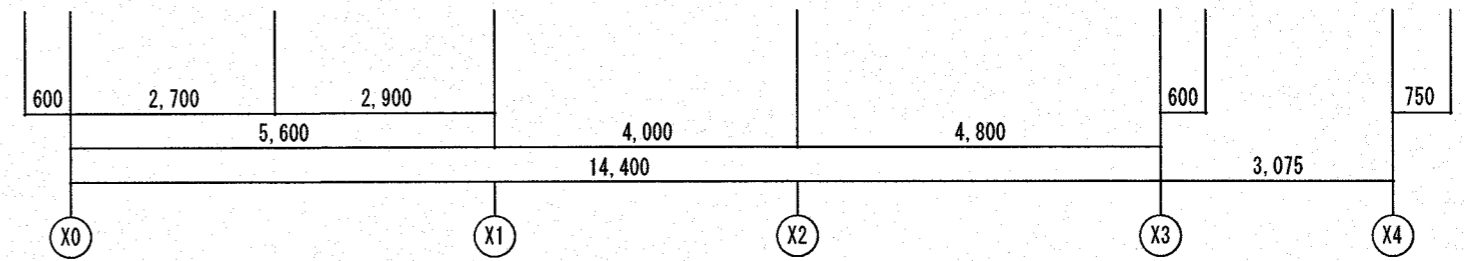
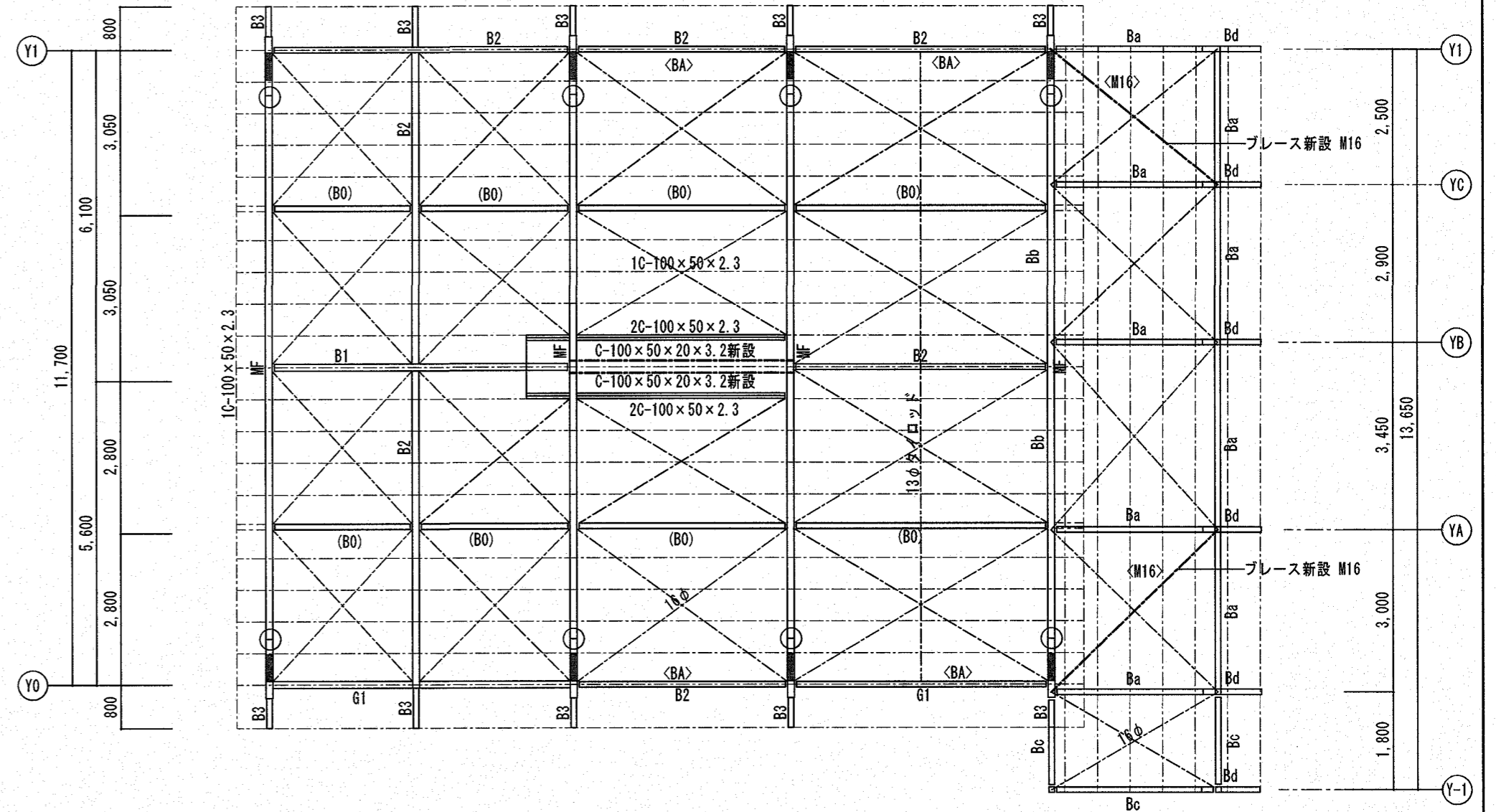
— 現状 —



小屋伏図 1:100

梁リスト 柱リスト	
MF G1	H-250×125×6×9
B2	LH-200×100×3.2×6
B3	2C-100×50×2.3
B2'	LH-150×75×3.2×4.5
B4	H-175×90×5×8
C1	H-250×125×6×9
C2	H-100×100×6×8
C3	2C-100×50×2.3
C4	□-125×125×4.5
C1'	Ⅲ-250×125×6×9-PL-12
Ga	□-125×125×6
Ba	H-200×100×5.5×8
Bb	H-250×125×6×9
Bc	2C-100×50×20×2.3
Bd	H-100×100×6×8

— 改修 —



小屋伏図 1:100

● 梁継手補強  
■ 梁ハンチ補強

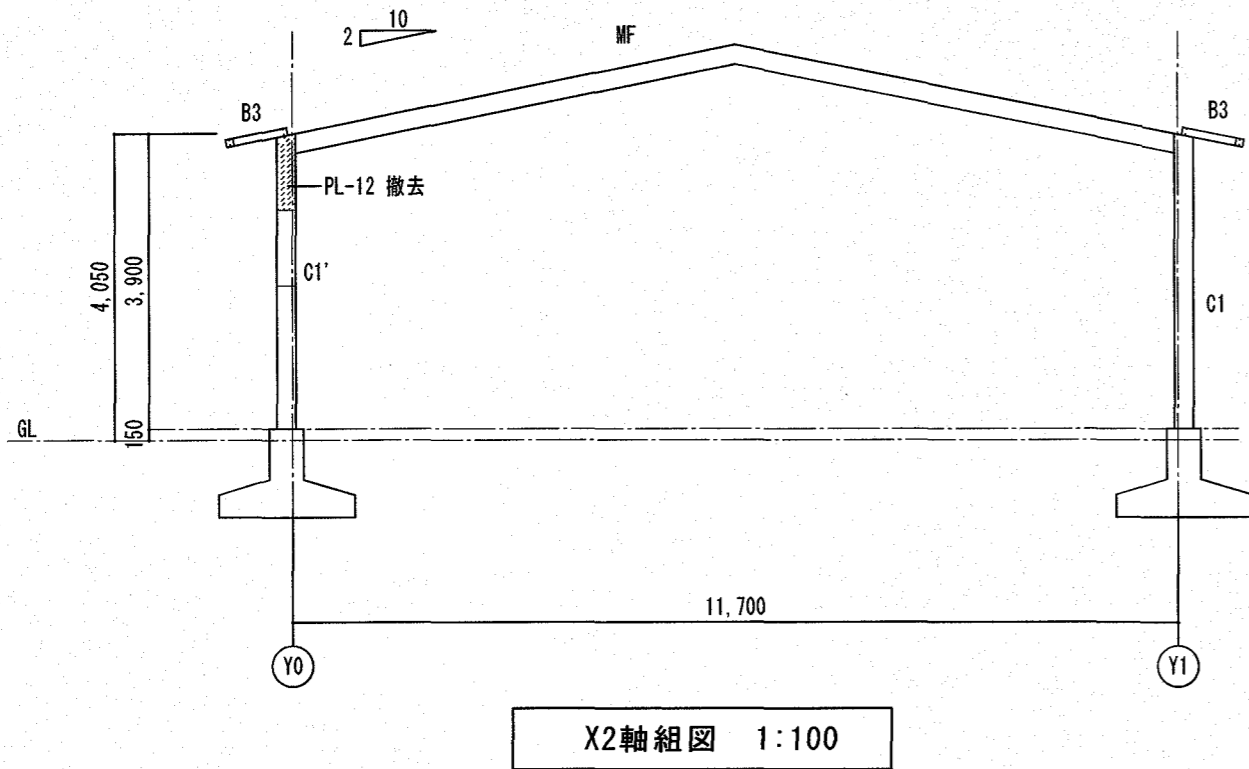
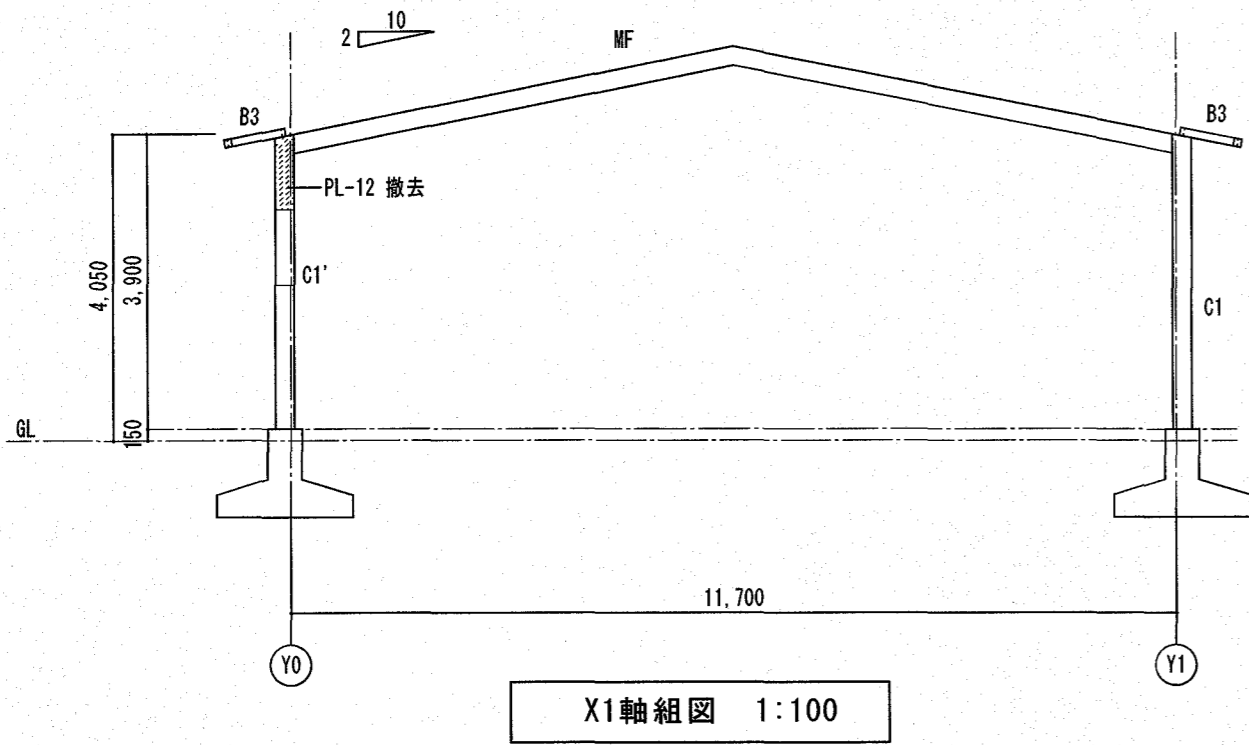
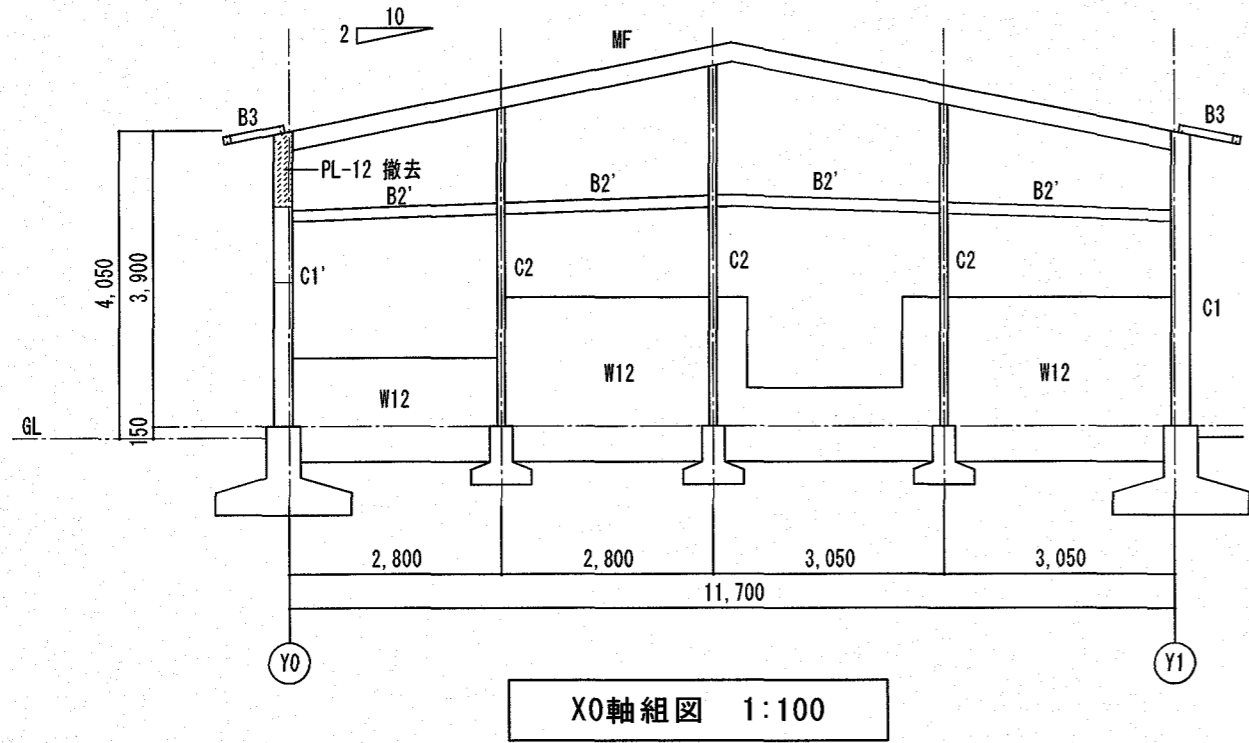
梁リスト 柱リスト		補強部材	
MF G1	H-250×125×6×9		
B2	LH-200×100×3.2×6	<BA.0>	□-100×100×4.5
B3	2C-100×50×2.3		
B2'	LH-150×75×3.2×4.5	壁プレート	
B4	H-175×90×5×8	ターンバックルプレート M20	
C1	H-250×125×6×9	屋根プレート	
C2	H-100×100×6×8	M16 2箇所	
C3	2C-100×50×2.3		
C4	□-125×125×4.5		
C1'	Ⅲ-250×125×6×9-PL-12		
Ga	□-125×125×6		
Ba	H-200×100×5.5×8		
Bb	H-250×125×6×9		
Bc	2C-100×50×20×2.3		
Bd	H-100×100×6×8		

摘要	高知市都市建設部公共建築課				工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No.	年月日	株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL (823) 1088
	係長	係長	課長補佐	課長					

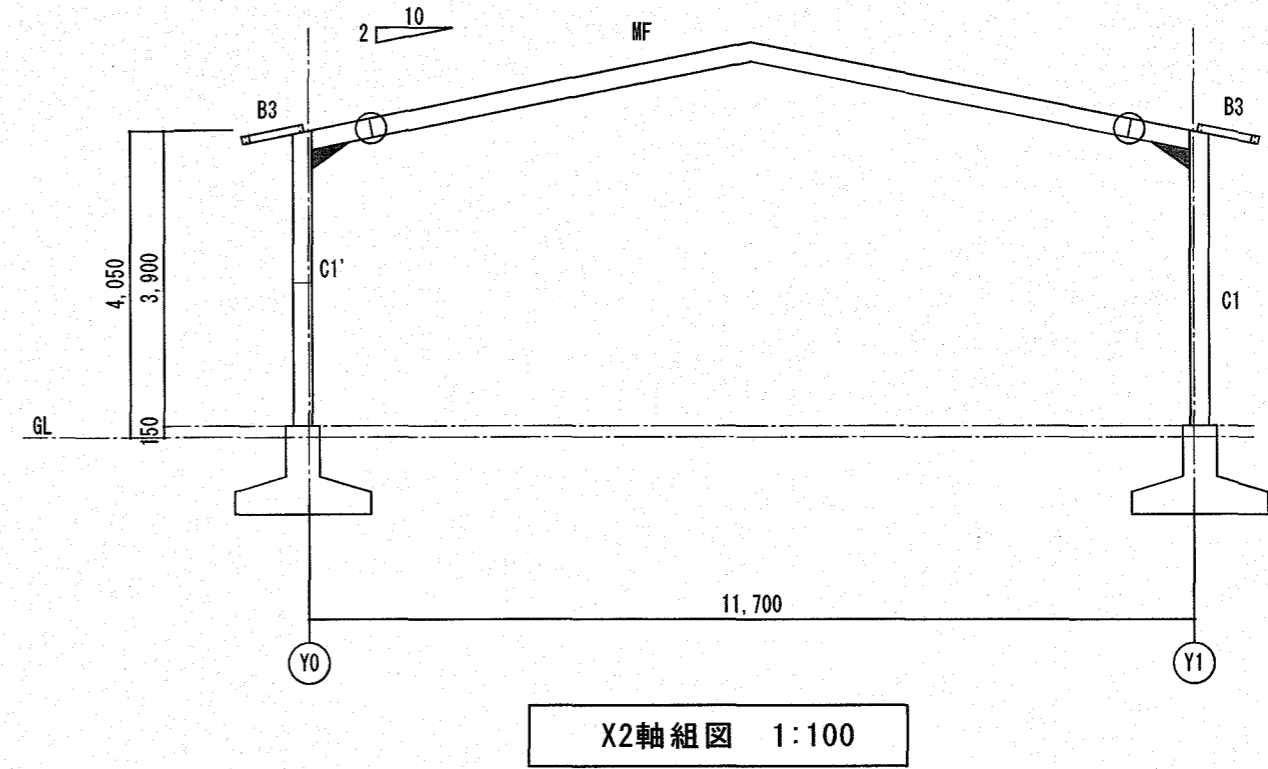
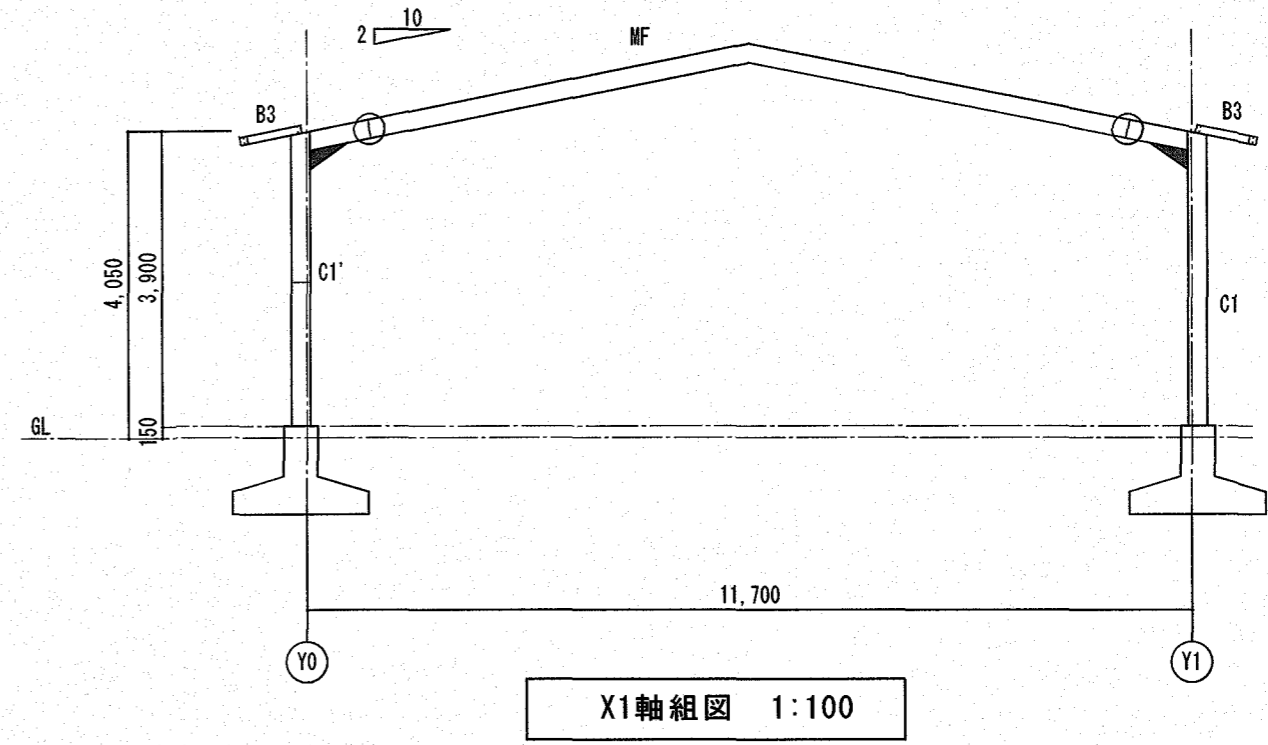
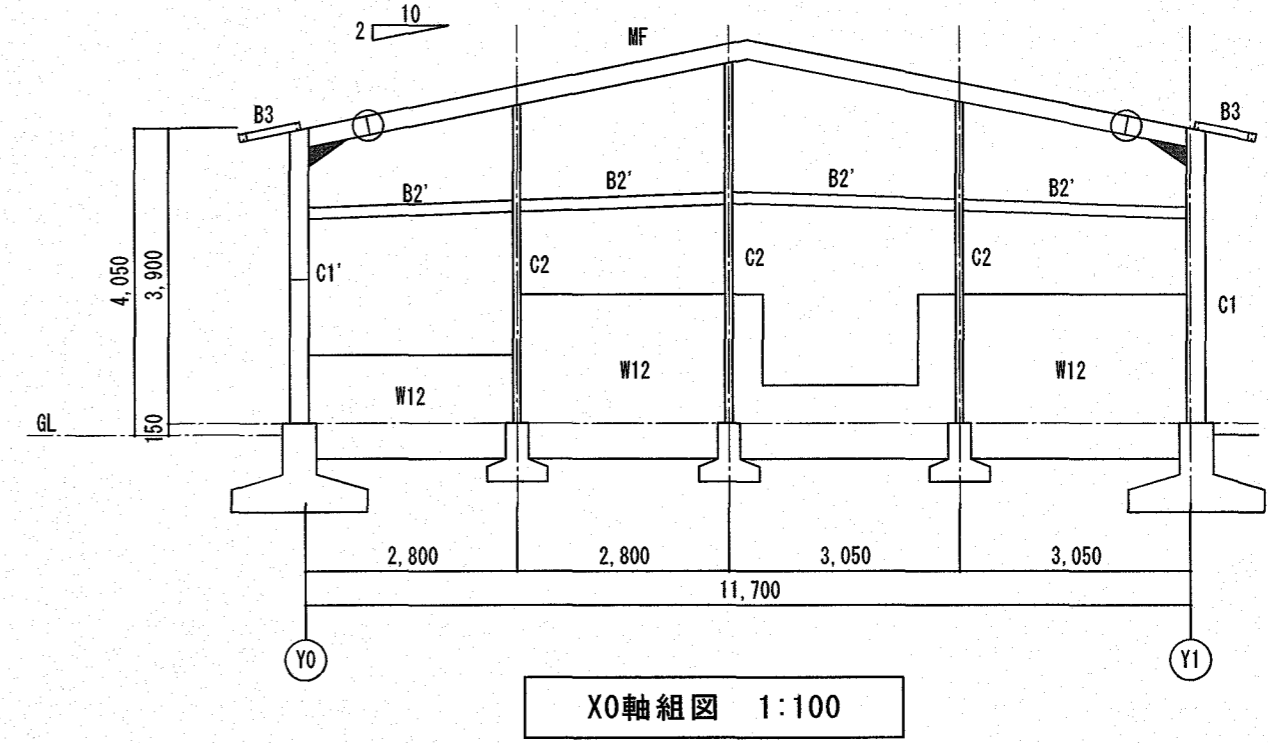


高知市都市建設部公共建築課		工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No.	年月日	株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL (823) 1088
係長	係長					

— 現状 —



— 改修 —



摘要	高知市都市建設部公共建築課				工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No.	年月日	株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823)1088
	係	係長	課長補佐	課長					

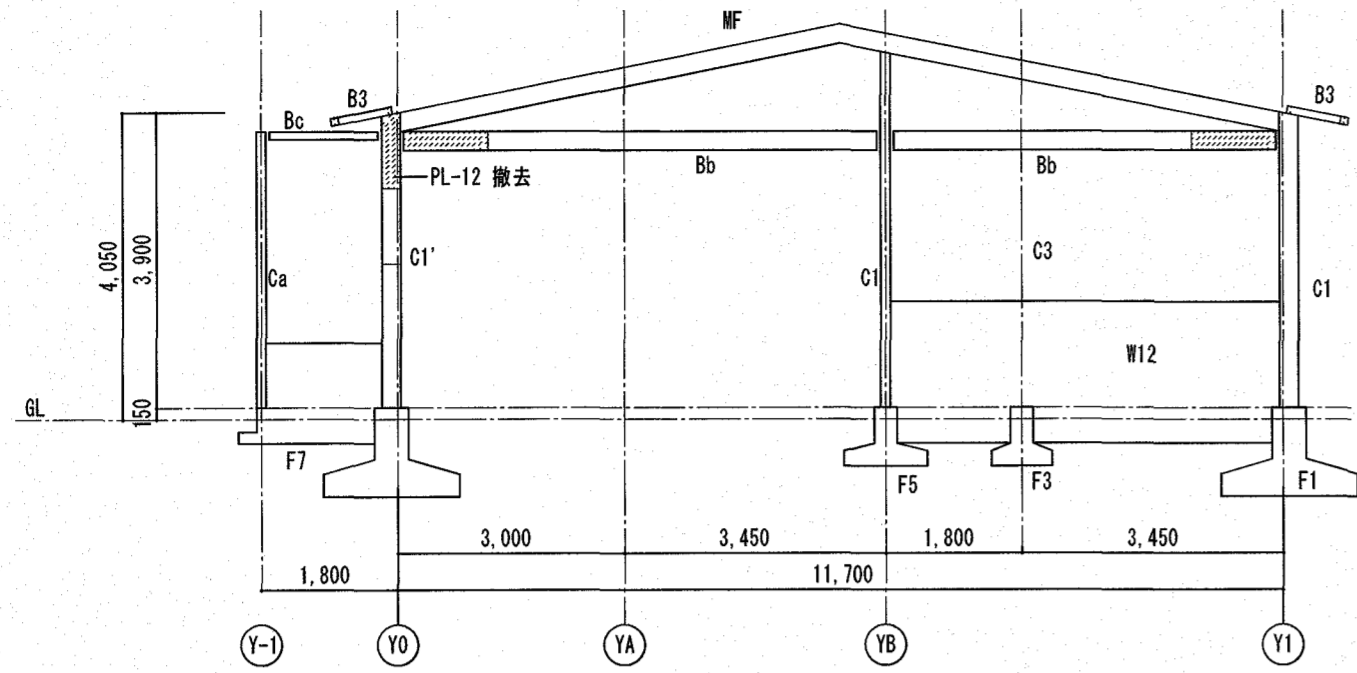
田部	高木	松本	高木
----	----	----	----

軸組図 - 1	
---------	--

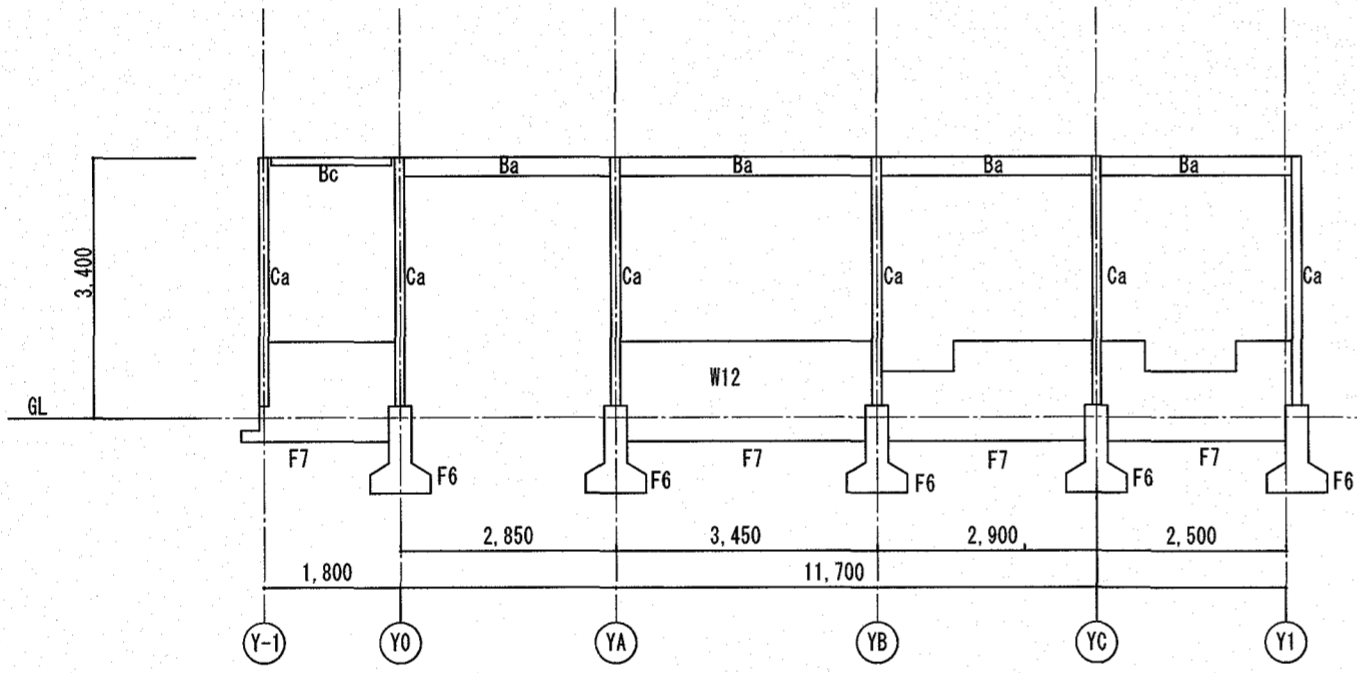
縮尺	S=1:100	尾崎 健
----	---------	------



— 現状 —

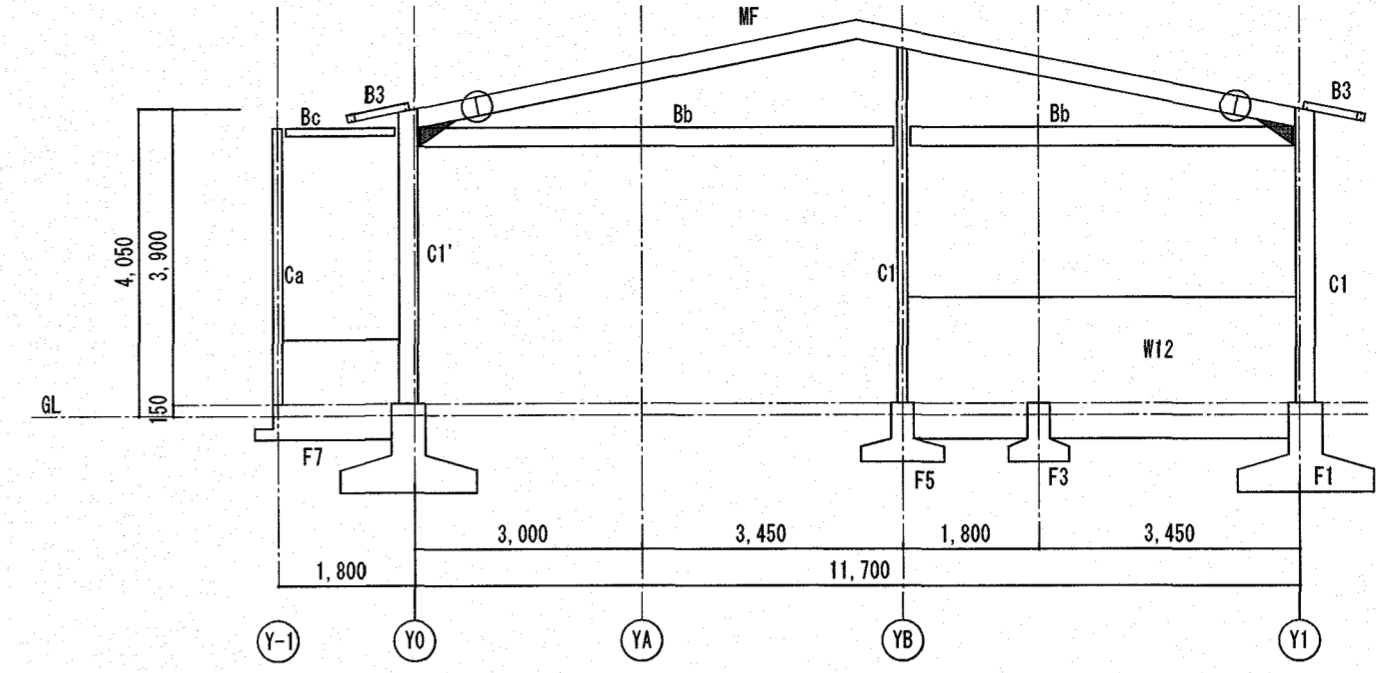


X3軸組図 1:100

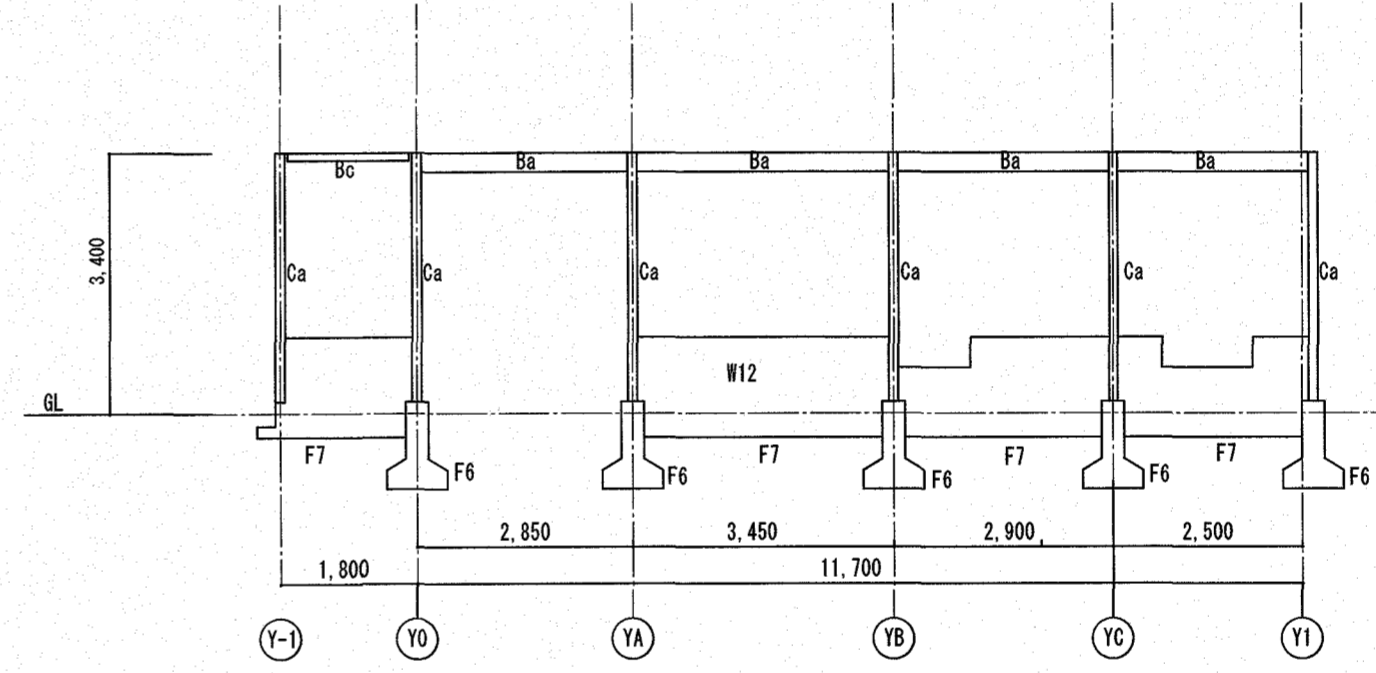


X4軸組図 1:100

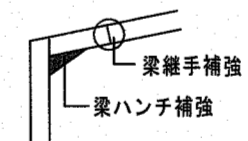
— 改修 —



X3軸組図 1:100

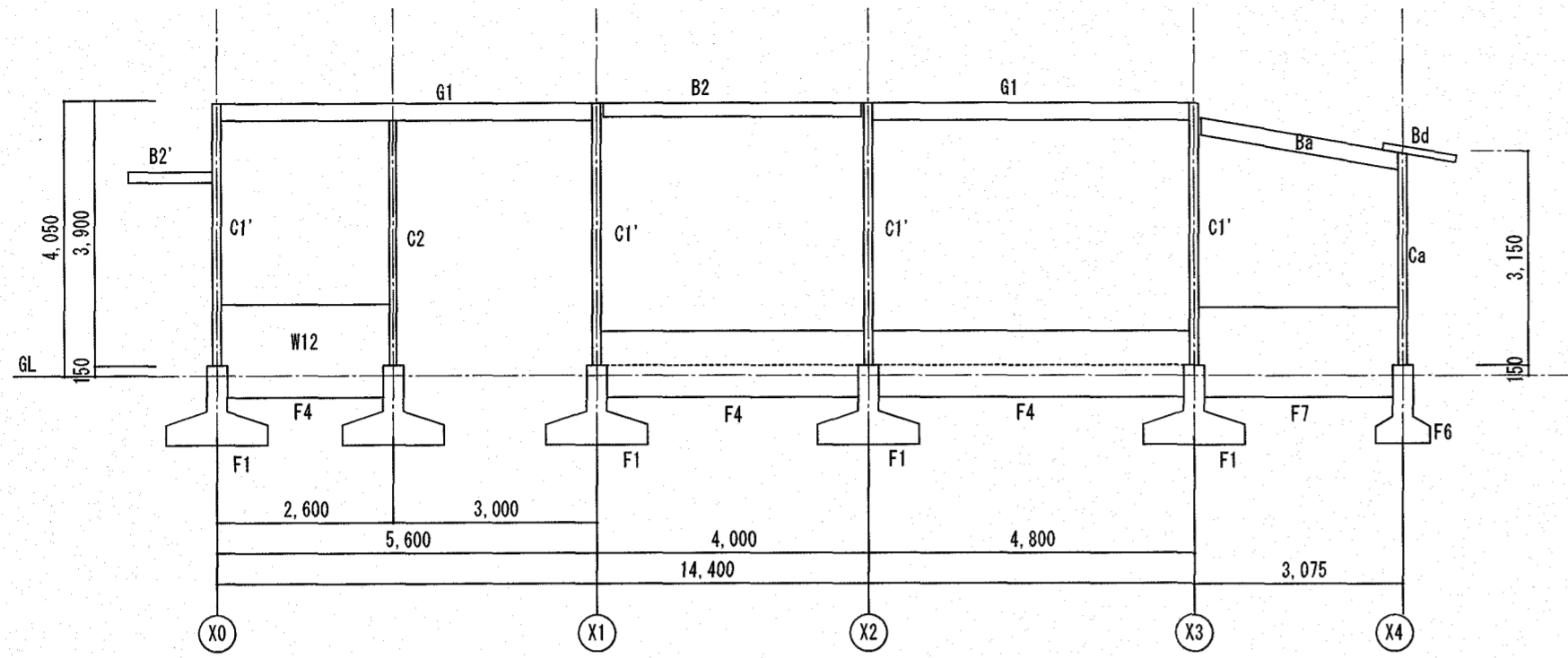


X4軸組図 1:100

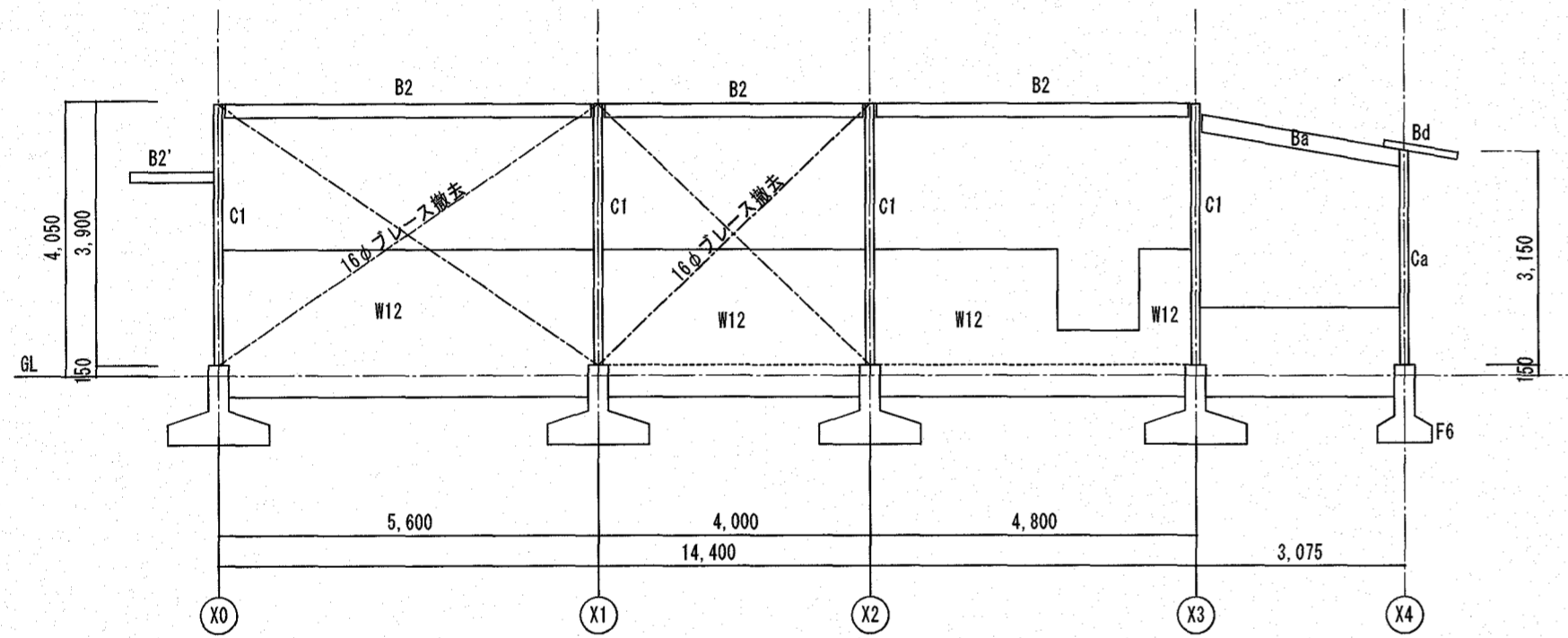


摘要	高知市都市建設部公共建築課				工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No.	年月日	株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823)1088
	係長	課長補佐	課長	縮尺			管理技術者	一級建築士登録 第55670号 高46	
					軸組図-2	S=1:100			

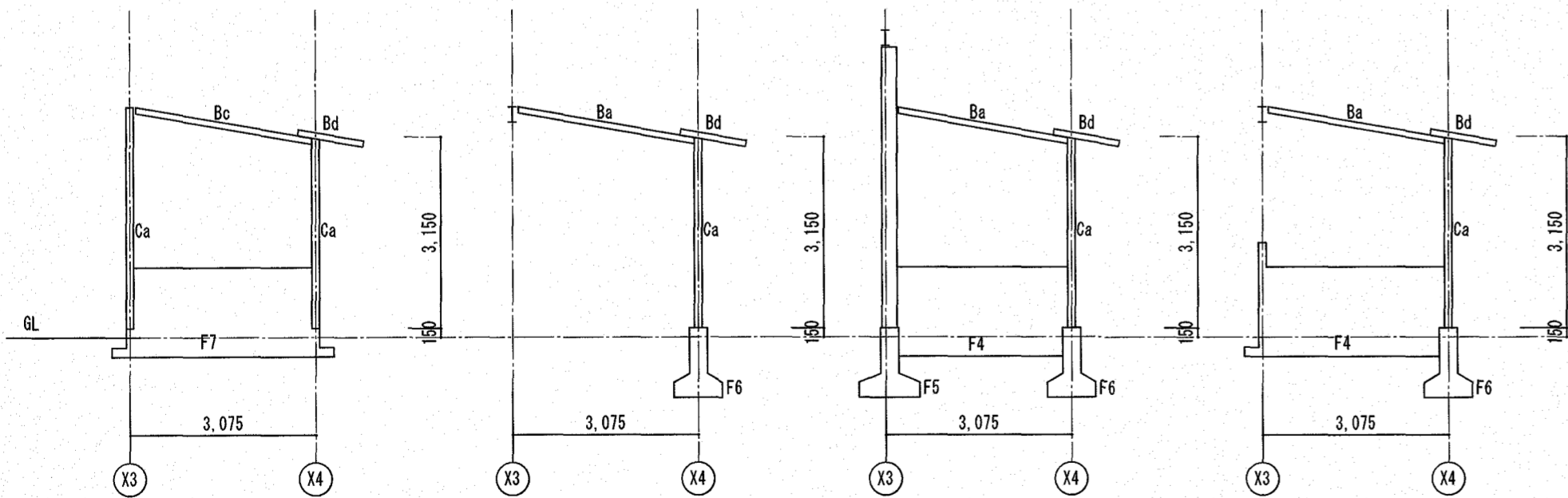
— 現状 —



YO軸組図 1:100



Y1軸組図 1:100



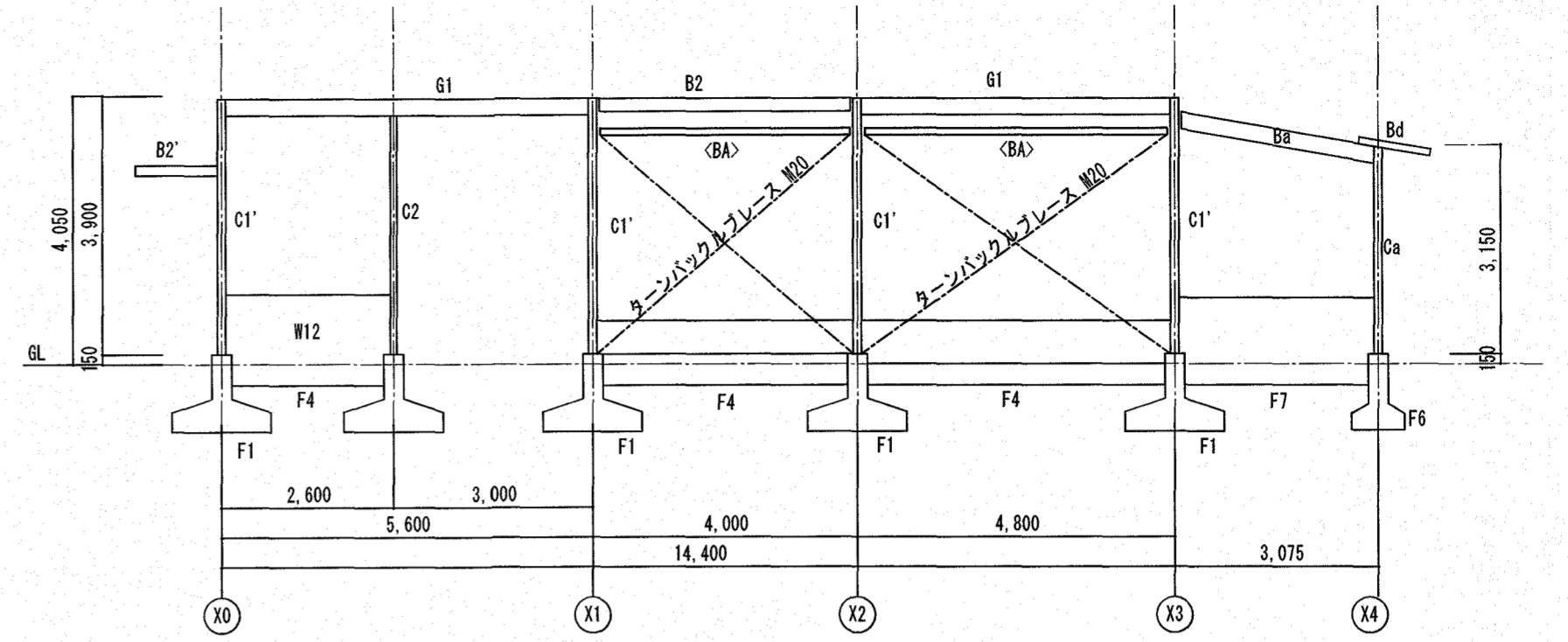
Y-1軸組図 1:100

YA軸組図 1:100

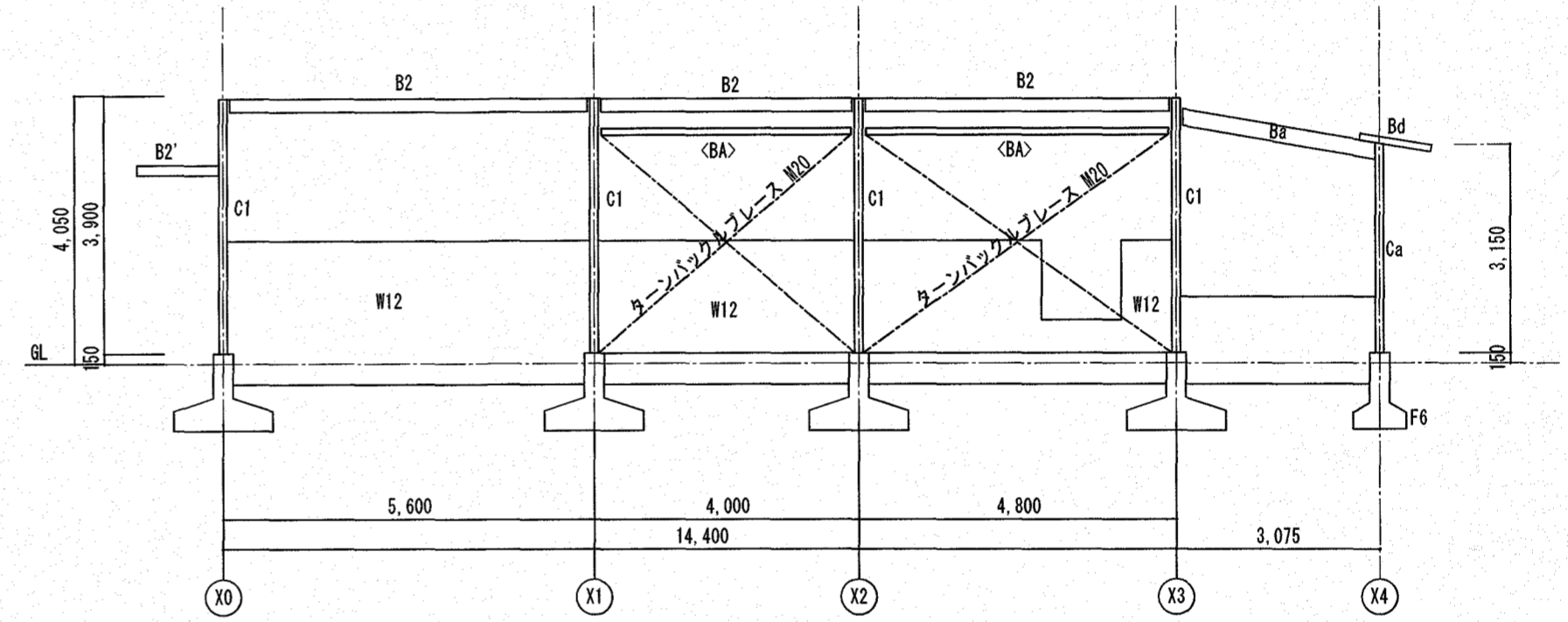
YB軸組図 1:100

YC軸組図 1:100

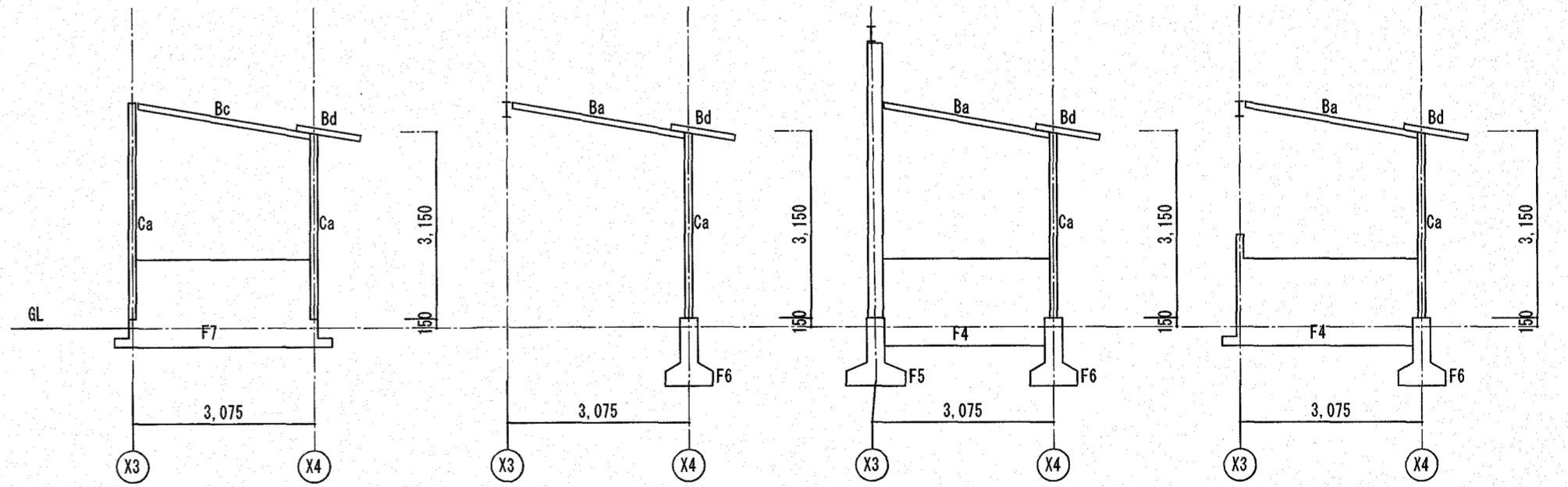
— 改修 —



YO軸組図 1:100



Y1軸組図 1:100



Y-1軸組図 1:100

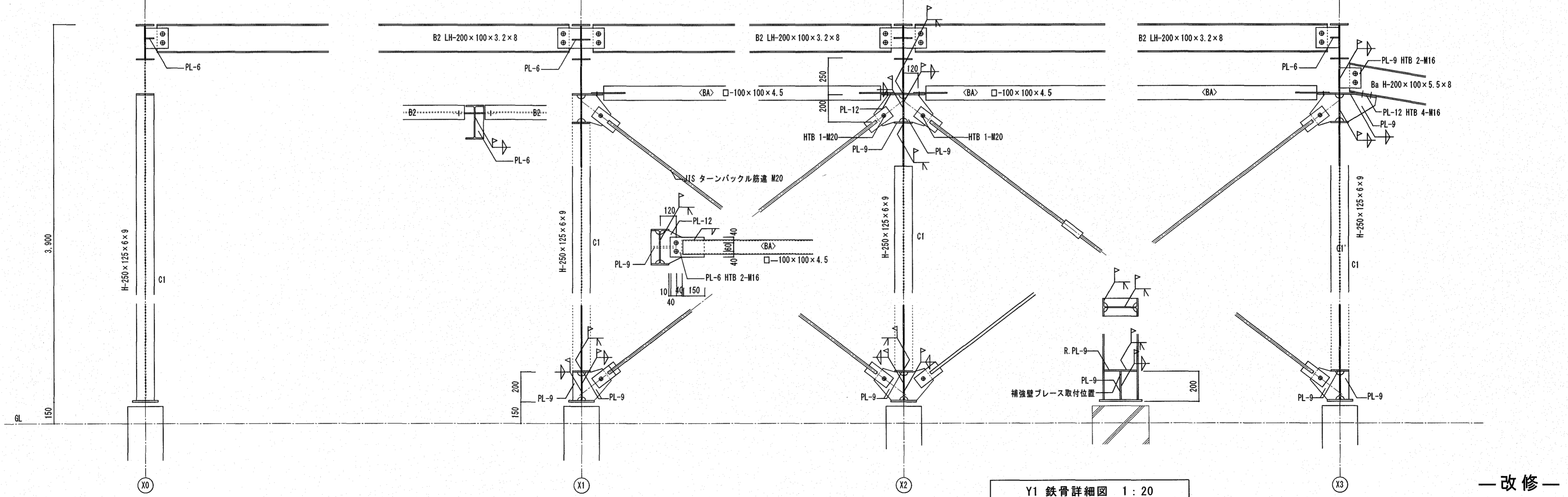
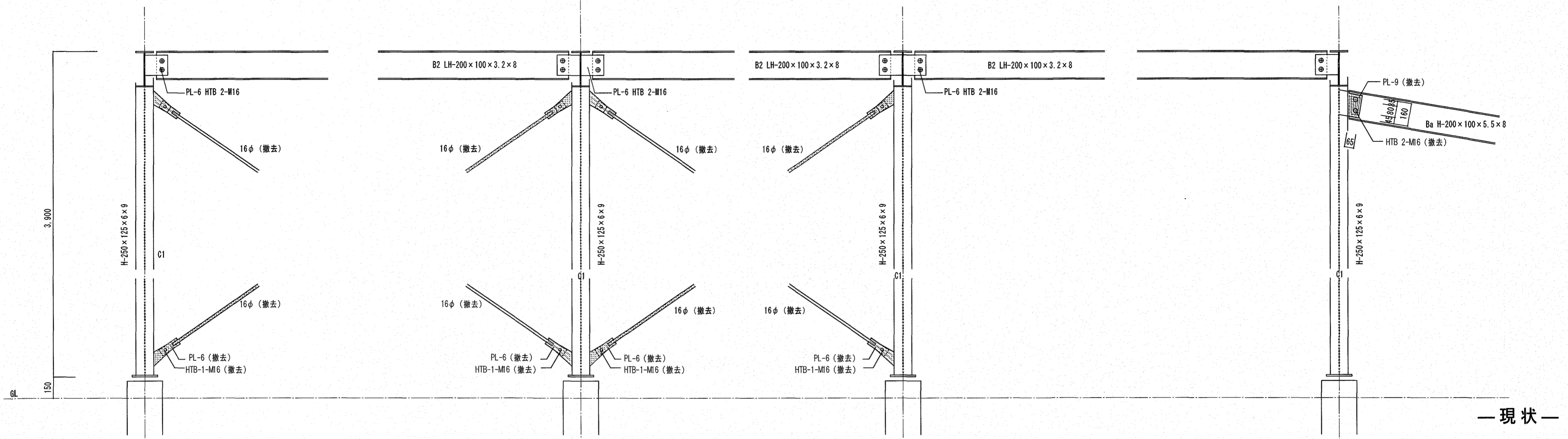
YA軸組図 1:100

YB軸組図 1:100

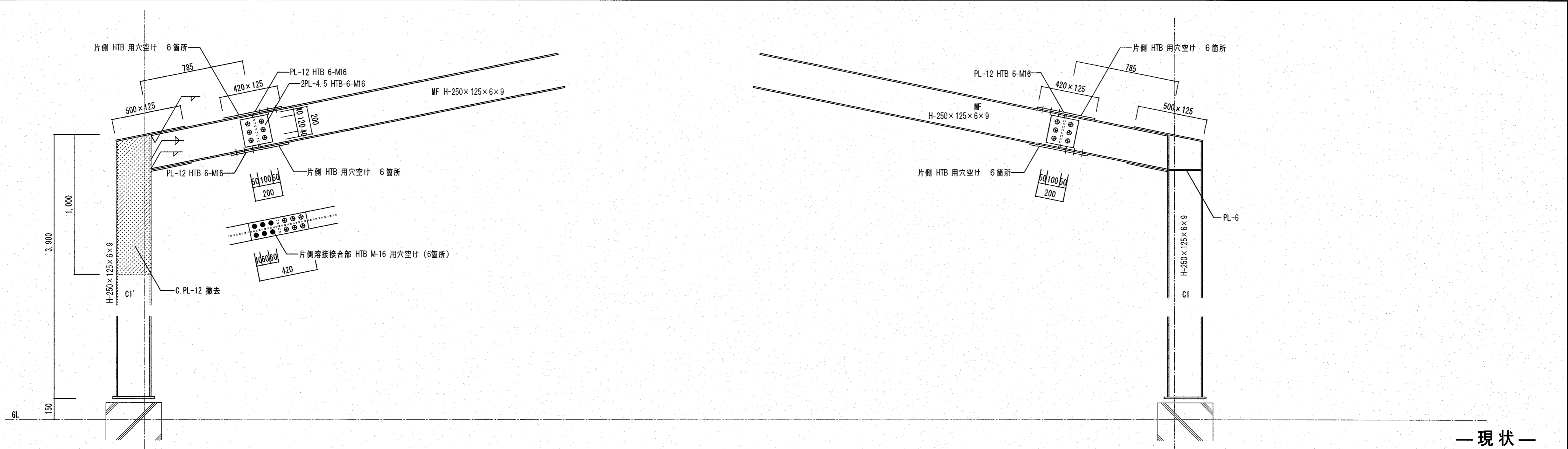
YC軸組図 1:100

摘要	高知市都市建設部公共建築課				工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事		図面No.	年月日		株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823) 1088	
	係長 課長補位 課長					軸組図 - 3			縮尺 S=1:100			管理技術者 尾崎 健
											一級建築士登録 高46	第55670号 中嶋 新市

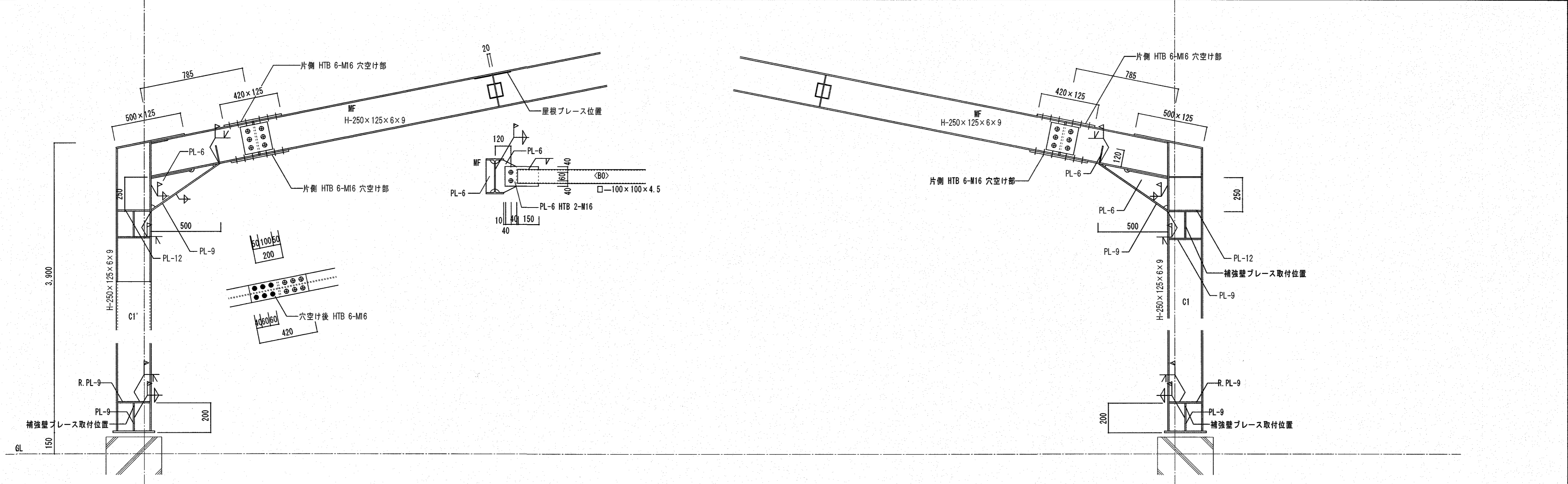




摘要	高知市都市建設部公共建築課				工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No.	年月日	 株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823)1088
	係	係長	課長補佐	課長			縮尺	管理技術者	
	   				Y1通り 鉄骨詳細図		S=1:20		



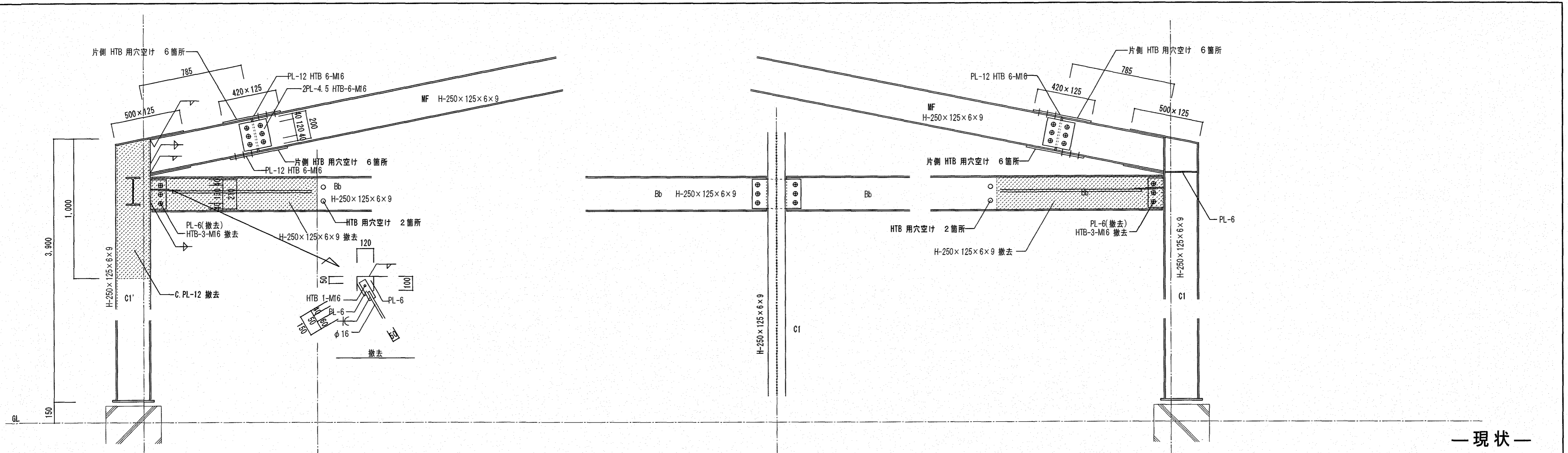
— 現状 —



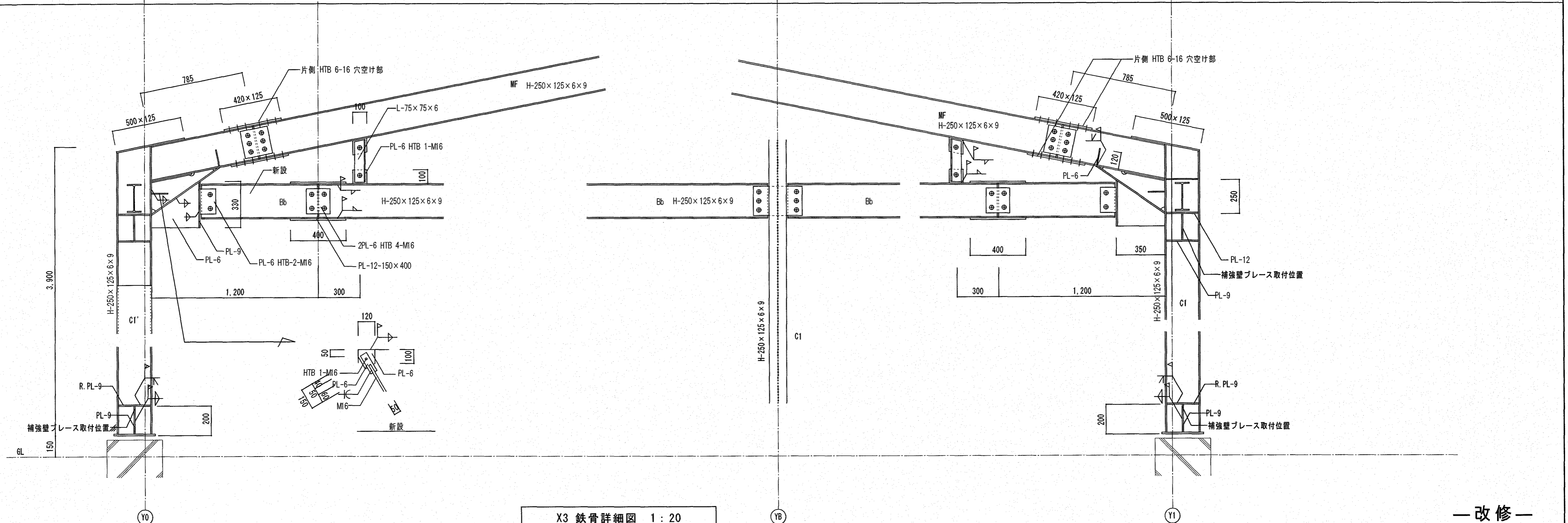
X0.1.2 鉄骨詳細図 1:20

— 改修 —

摘要	高知市都市建設部公共建設課				工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No.	年月日	株式会社 連合設計事務所
	係	係長	課長補佐	課長					
	田部	山田	松本	海村	X0.1.2通り 鉄骨詳細図	S=1:20	尾崎 健	第一級建築士登録 高46	第55670号 中嶋 新市



— 現状 —

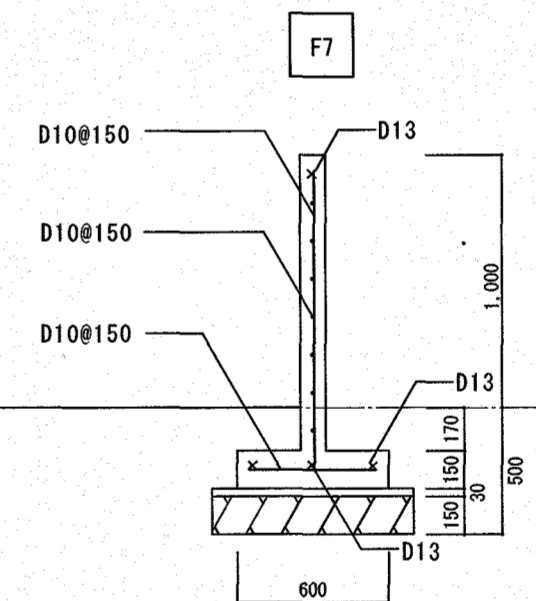
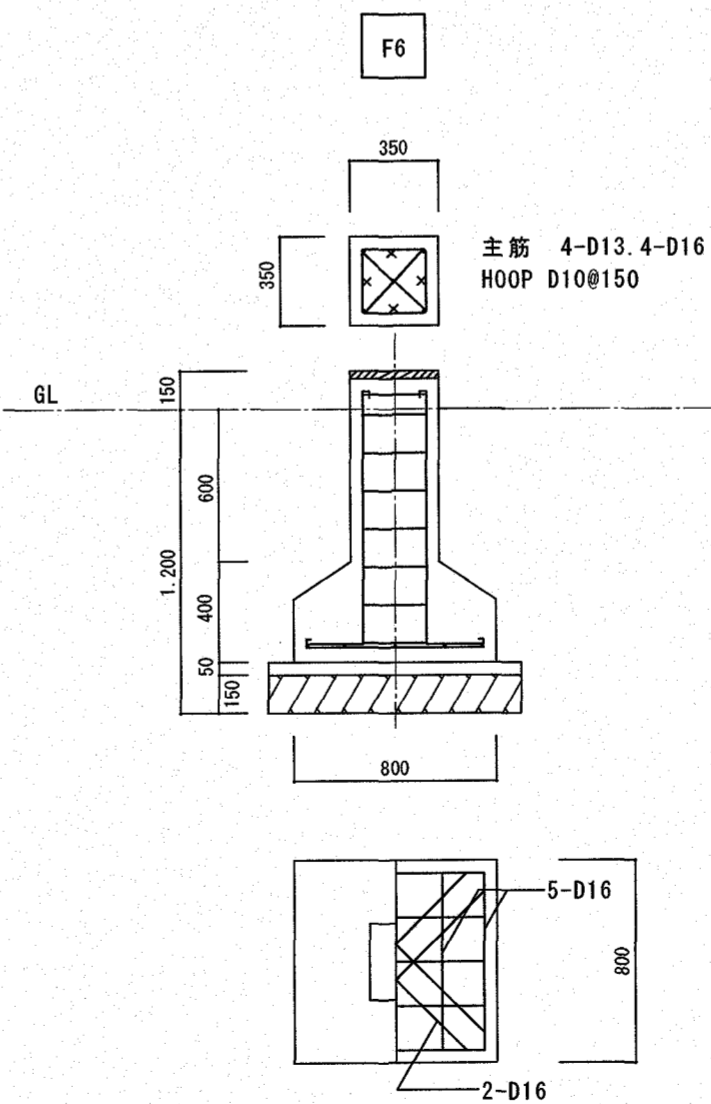
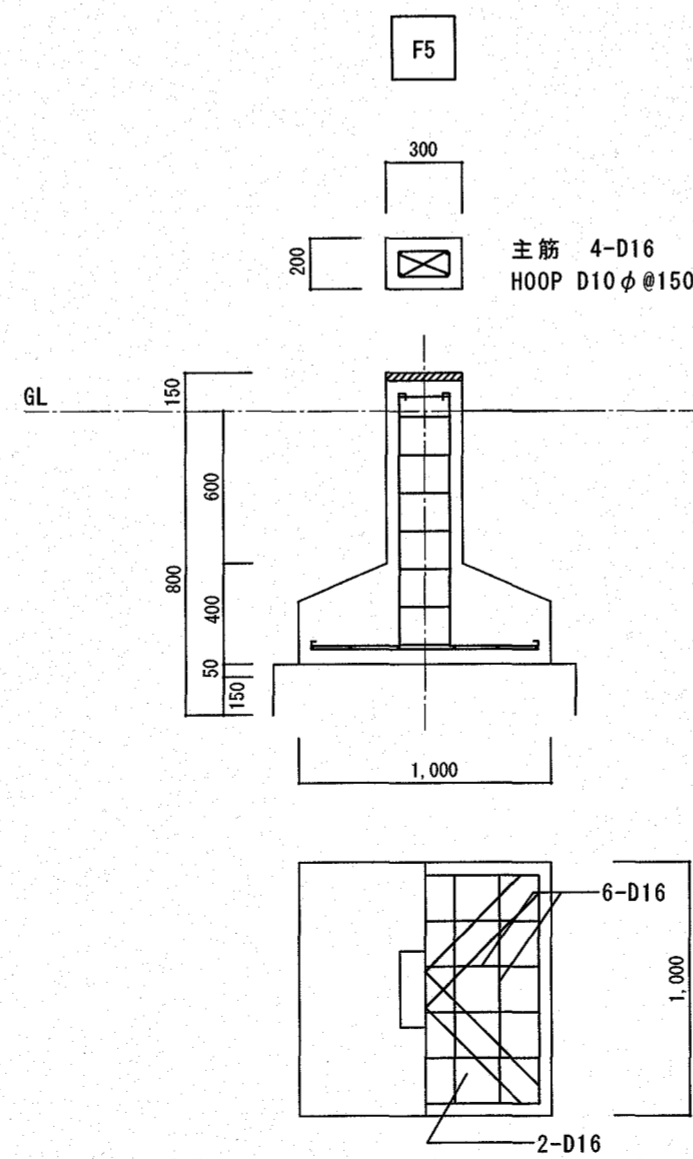
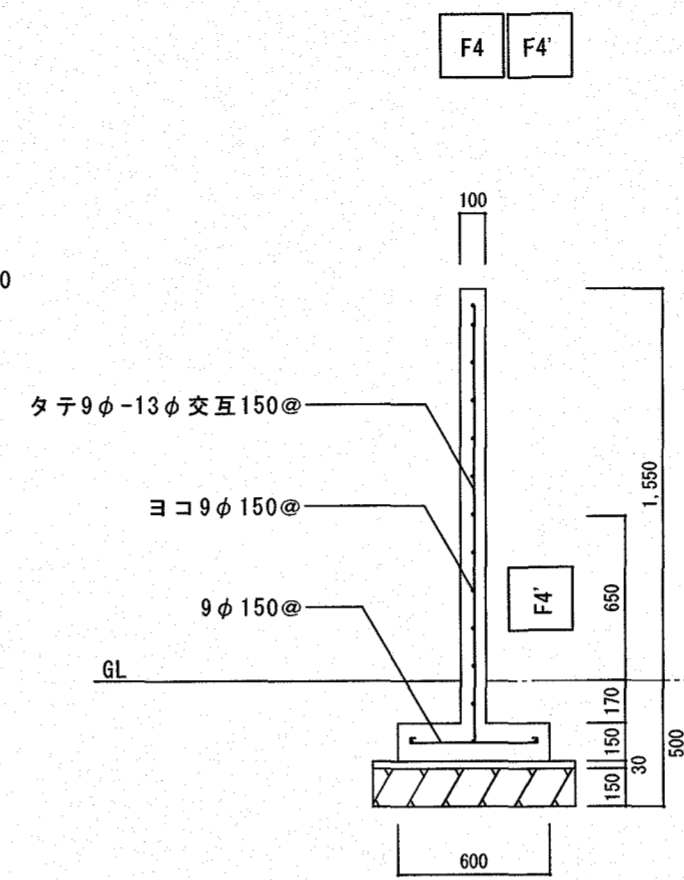
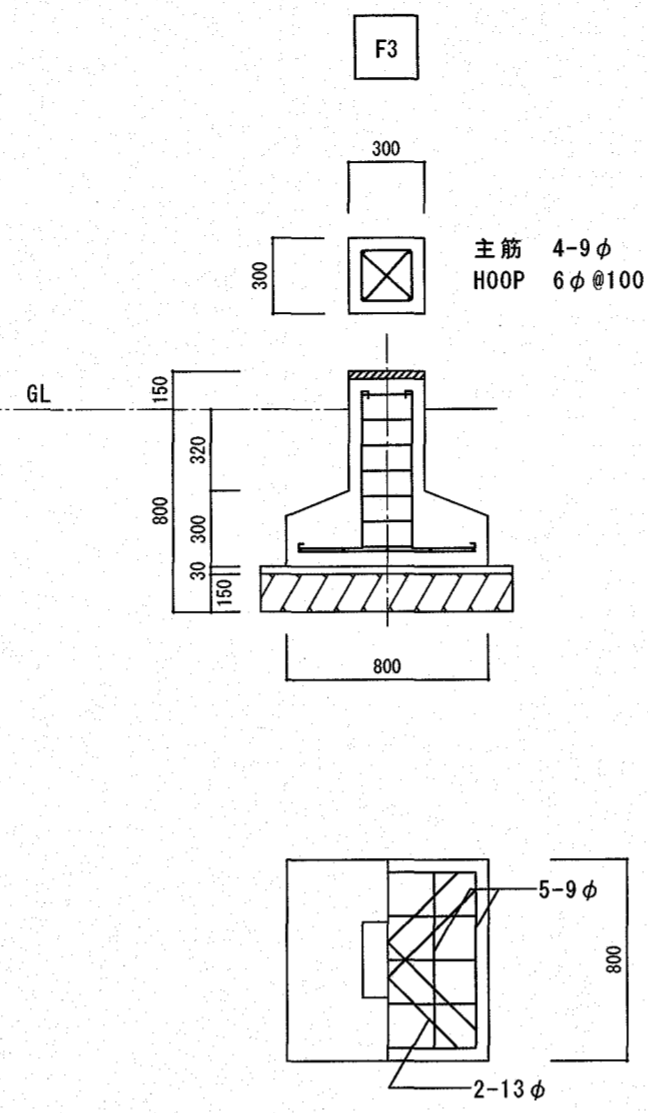
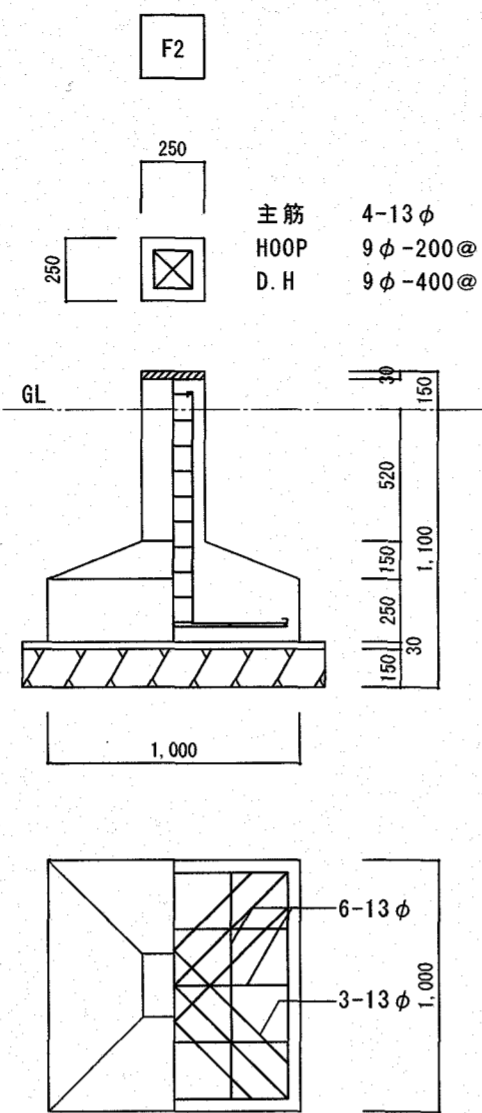
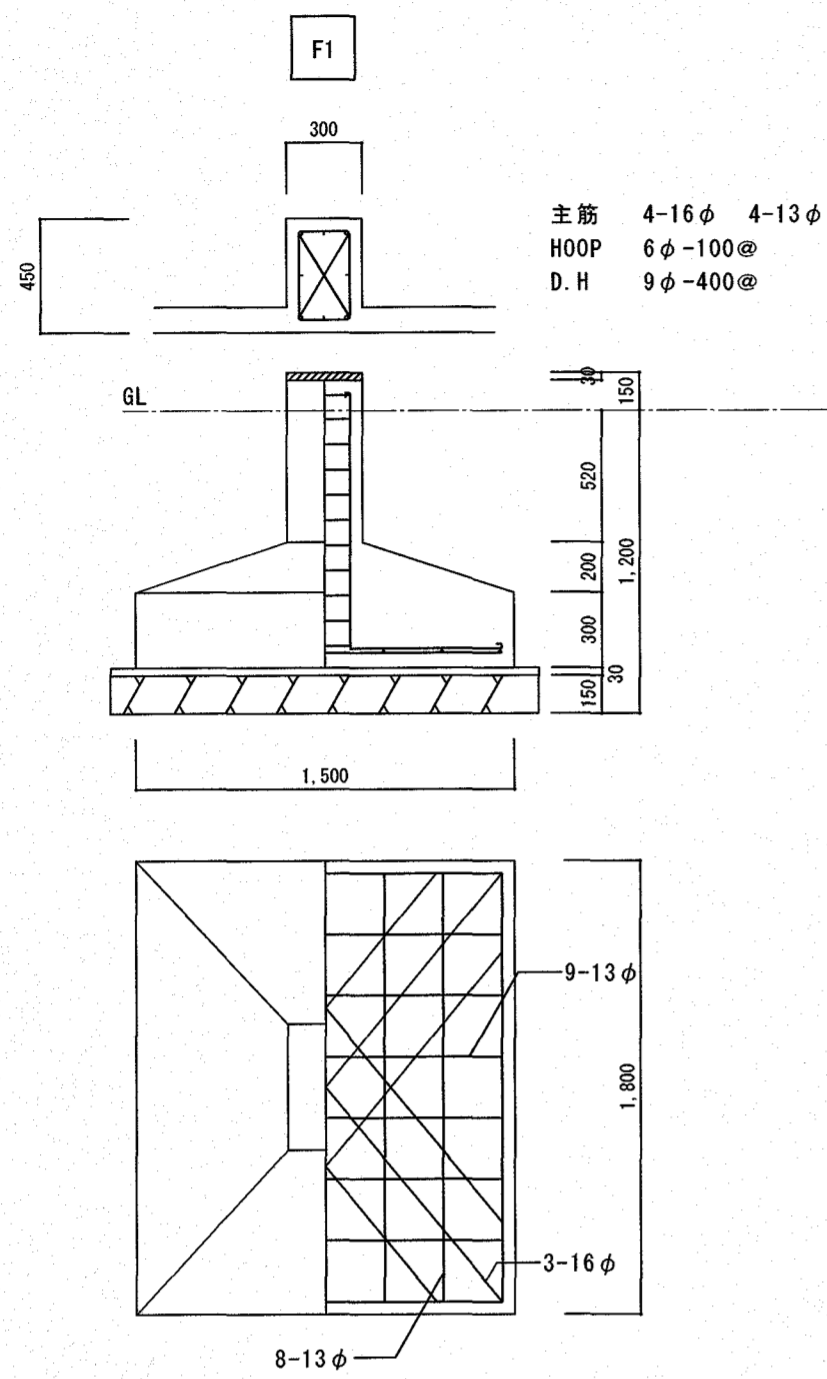


— 改修 —


X3 鉄骨詳細図 1:20

摘要	高知市都市建設部公共建築課				工事名	昭和小学校給食棟耐震補強工事	図面 No. B-13	年月日	株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823)1088
	係長	課長補佐	課長	主任					
					X3通り 鉄骨詳細図		S=1:20	尾崎 健	

基礎リスト 1:50



参考図

摘要	高知市都市建設部公共建設課 係 係長 課長補佐 課長			工事名 昭和小学校給食棟耐震補強工事 既存基礎リスト	図面 No. B-14	年月日 H27.9	 株式会社 連合設計事務所 高知市比島町4丁目6番10号 TEL 代(823)1088 一級建築士登録 第55670号 高46 中嶋 新市
	縮尺 S=1:30		管理技術者 尾崎 健 印				